

第3章 調査結果

1 豊田市のまち全般

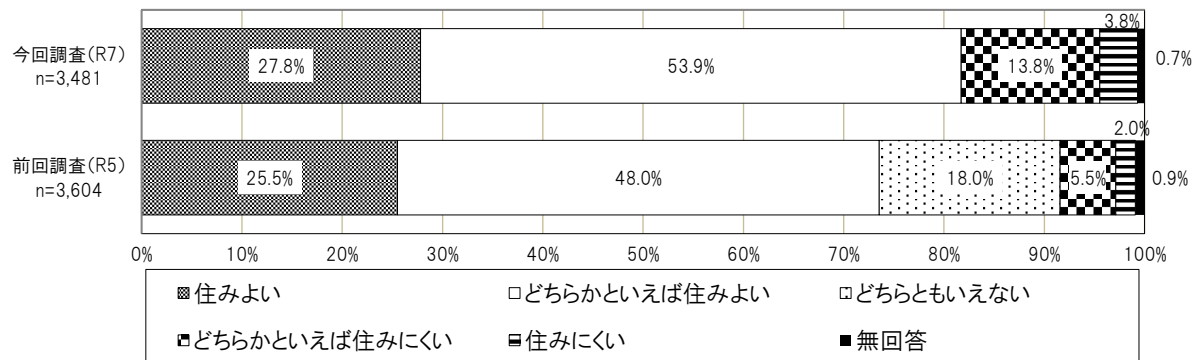
(1) 豊田市の住みよさ

問 11 あなたは、豊田市を住みよいまちだと思いますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合（「住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）は 81.7% となっており、前回調査と比較すると 8.2 ポイント増加しています。また、豊田市が住みにくいと思う市民の割合（「住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）は 17.6% となっており、10.1 ポイント増加しています。

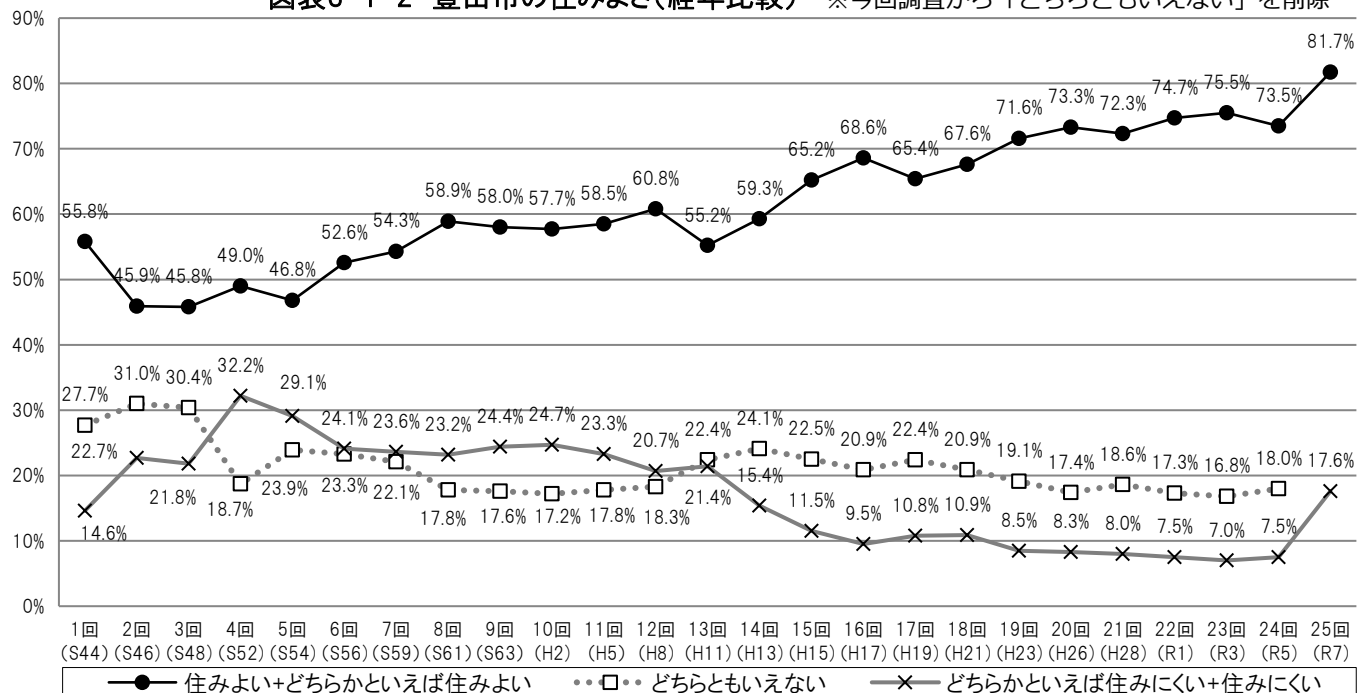
図表3-1-1 豊田市の住みよさ(前回調査との比較) ※今回調査から「どちらともいえない」を削除



2) 過去の調査との比較

第1回（昭和44年度実施）からの調査結果の推移をみると、豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合は増加傾向で、第19回（平成23年度実施）以降は70%を超え、今回の調査では81.7%となっています。一方、豊田市が住みにくいと思う市民の割合は、第18回（平成21年度実施）以降、減少傾向にありましたが今回調査では17.6%となっています。

図表3-1-2 豊田市の住みよさ(経年比較) ※今回調査から「どちらともいえない」を削除



※調査方法については、第1回、第2回は「面接調査」、第3回～第12回までは、「調査員による配布・回収調査」、第13回以降は「郵送による配布・回収調査」、第23回以降は「郵送による配布・郵送又はインターネットによる回収調査」と手法が異なります。

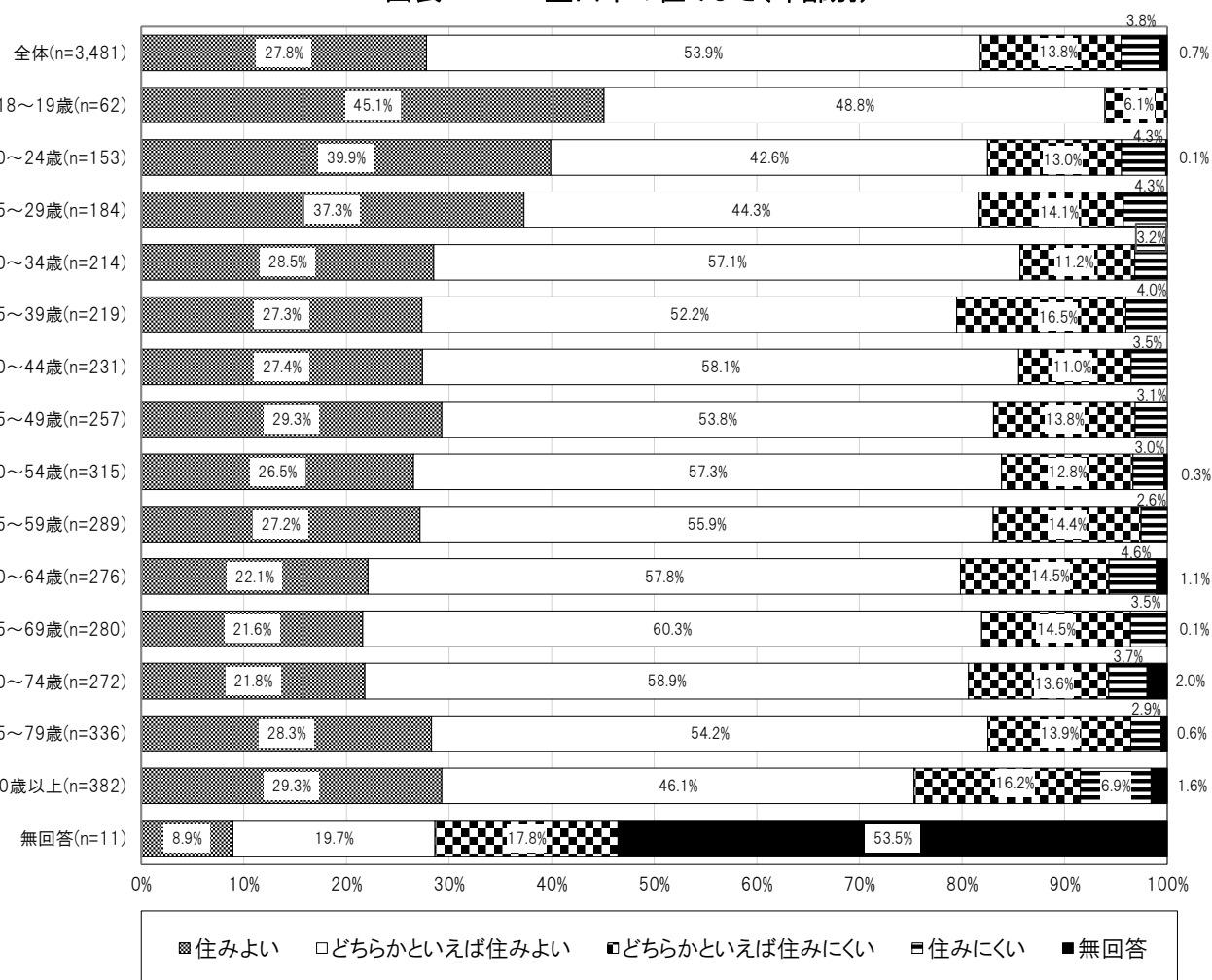
※調査対象の抽出方法及び調査対象者数については、第1回、第2回は「単純無作為二段階抽出法」（1,200件）、第3回「等間隔抽出法」（2,442件）、第4回～第12回「ゾーン別等間隔無作為抽出法」（約3,000件）、第13回～第17回「地区別等間隔無作為抽出法」（5,000～6,500件）、第18回～第25回は「等間隔無作為抽出法」を行った後、抽出数の少なかった地区についてそれぞれの調査で設定した条件を満たすよう対象者を追加しました。このように調査時期によって抽出方法、対象者数が異なります。

3) 属性分析結果

① 「住みよさ」×「年齢」

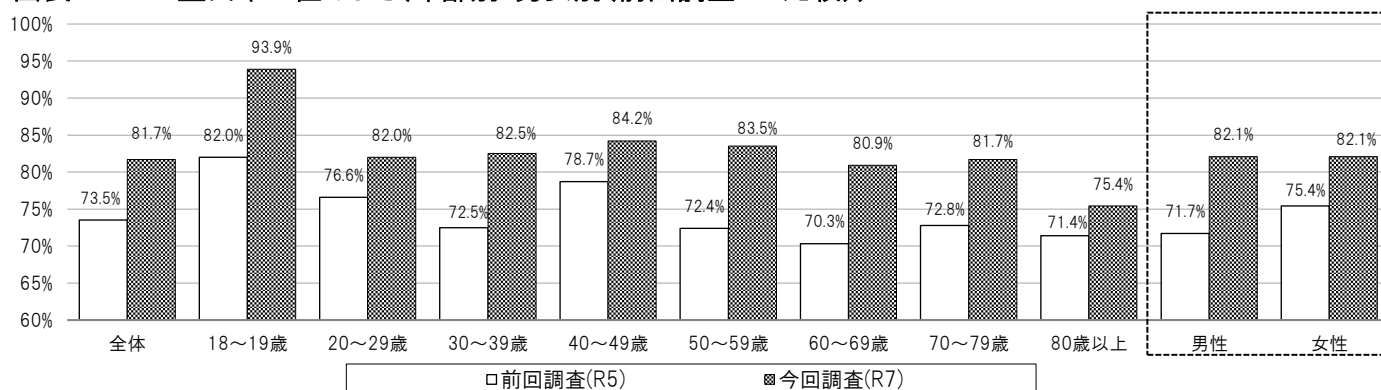
年齢別にみると、豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合は、18～19 歳が 93.9%と最も高く、次いで 30～34 歳が 85.6%、40～44 歳が 85.5%となっています。一方、80 歳以上は 75.4%と低くなっています。

図表3-1-3 豊田市の住みよさ(年齢別)



前回調査と比較すると、全ての世代で豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合が増加しています。特に 18～19 歳が 11.9 ポイント増加しています。

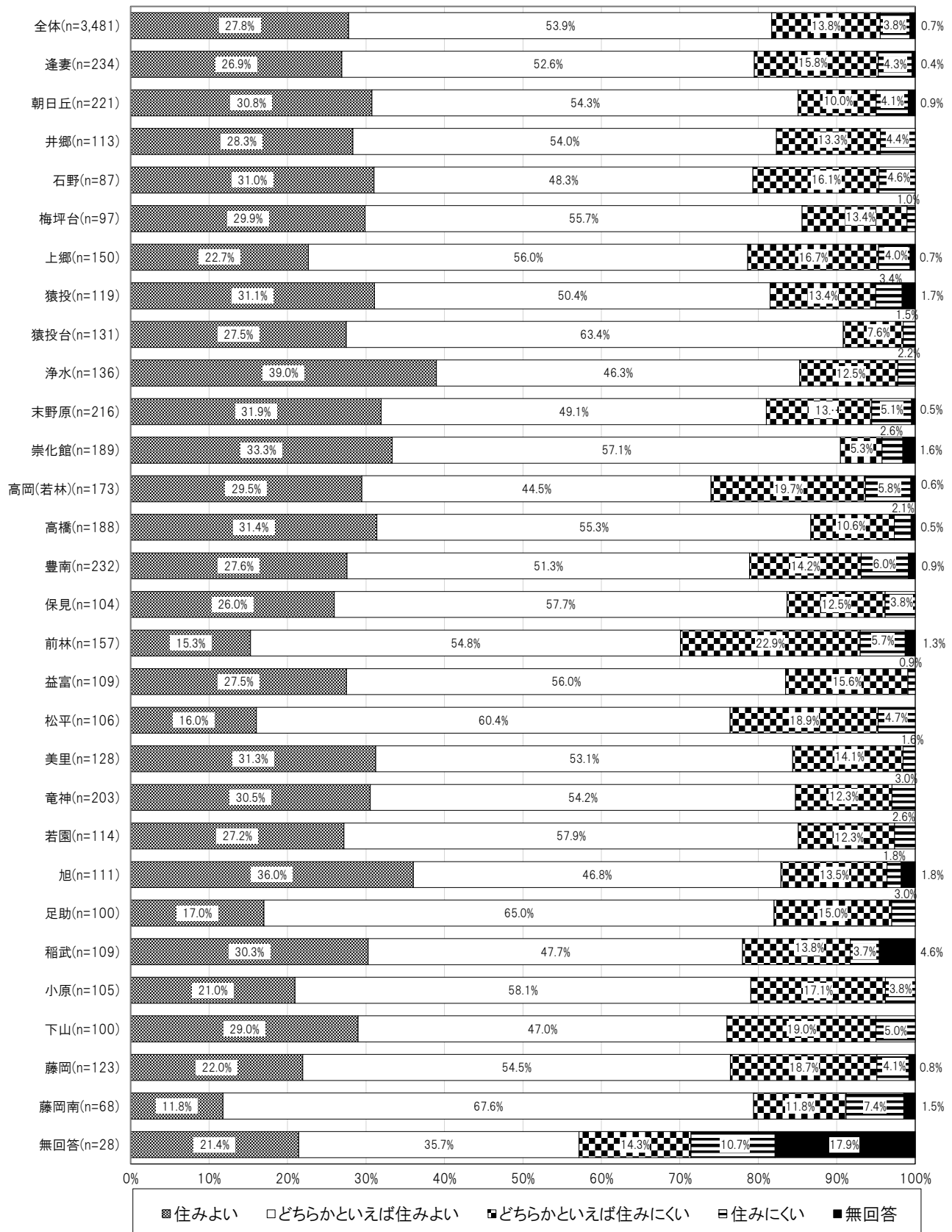
図表3-1-4 豊田市の住みよさ(年齢別・男女別(前回調査との比較)) ※今回調査から「どちらともいえない」を削除



② 「住みよさ」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合は、猿投台が 90.9%と最も高く、次いで崇化館が 90.4%、高橋が 86.7%となっています。一方、前林が 70.1%、高岡(若林)が 74.0%、下山が 76.0%と低くなっています。

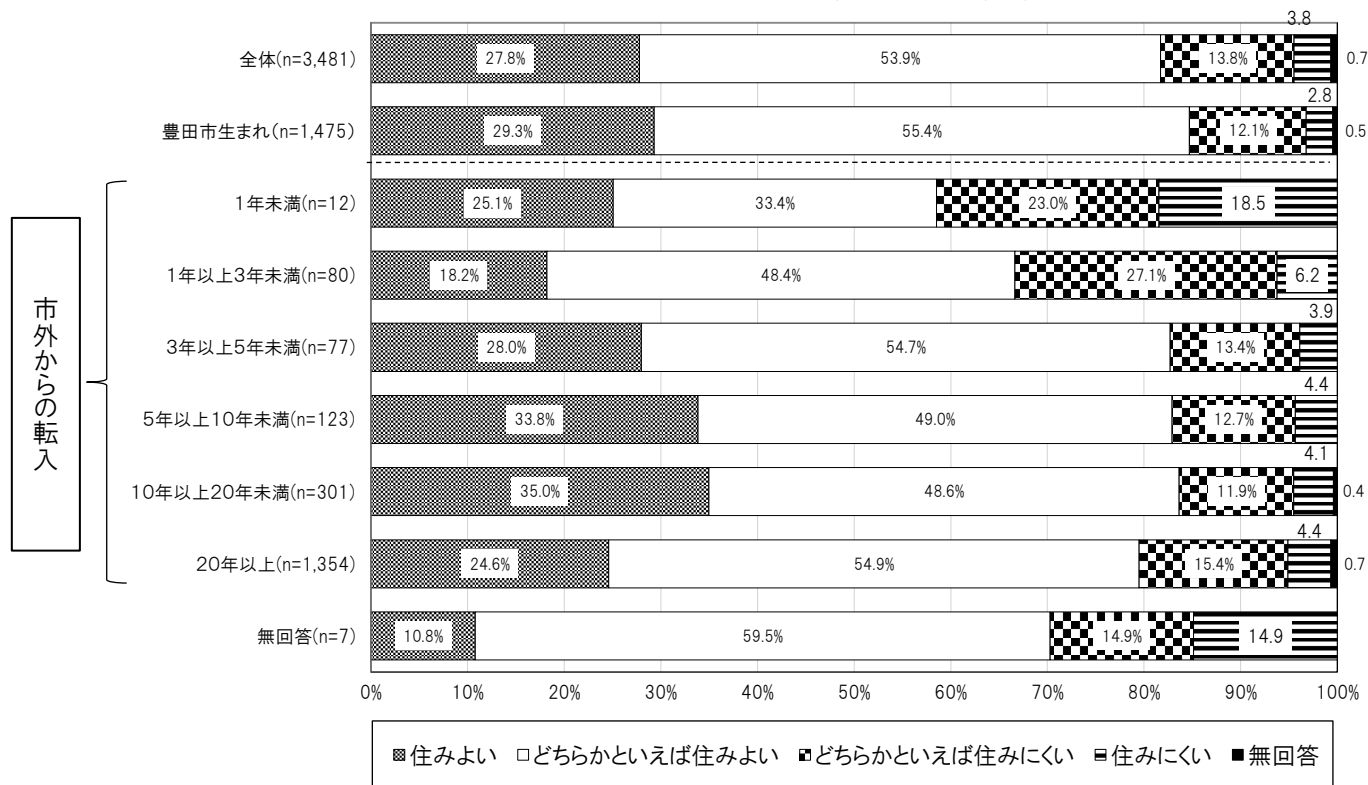
図表3-1-5 豊田市の住みよさ(居住地区別)



③ 「住みよさ」×「居住年数」

居住年数別にみると、豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合は、概ね居住年数が長いほど高くなる傾向があります。

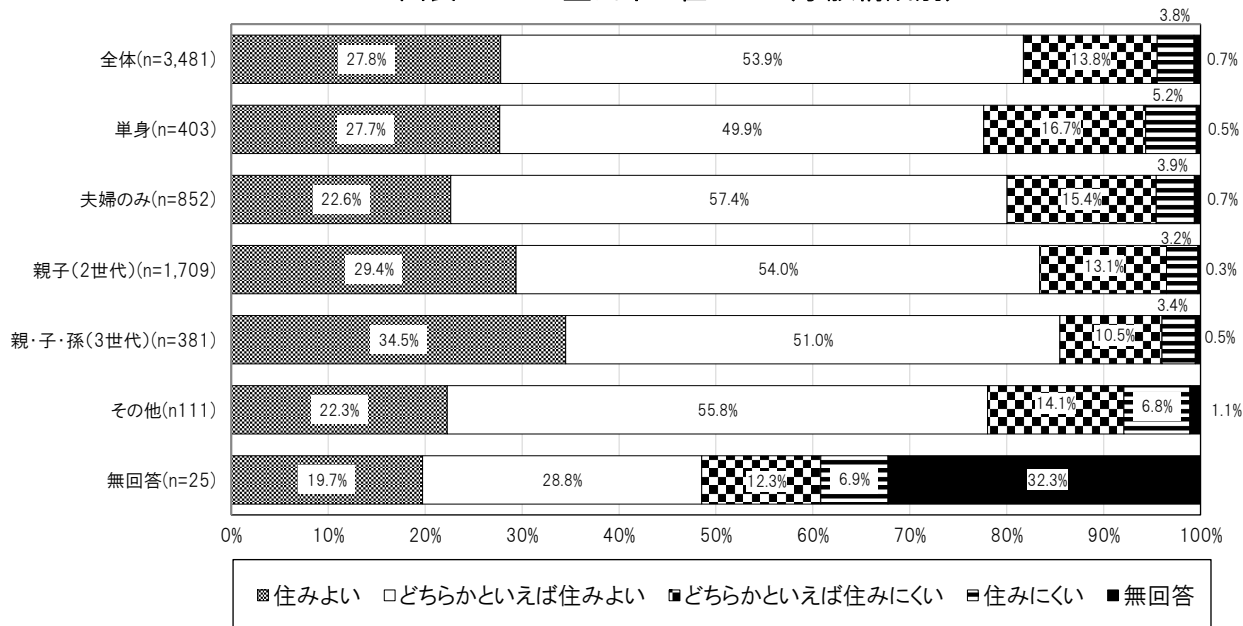
図表3-1-6 豊田市の住みよさ(居住年数別)



④ 「住みよさ」×「家族構成」

家族構成別にみると、豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯で85.5%と最も高くなっています。

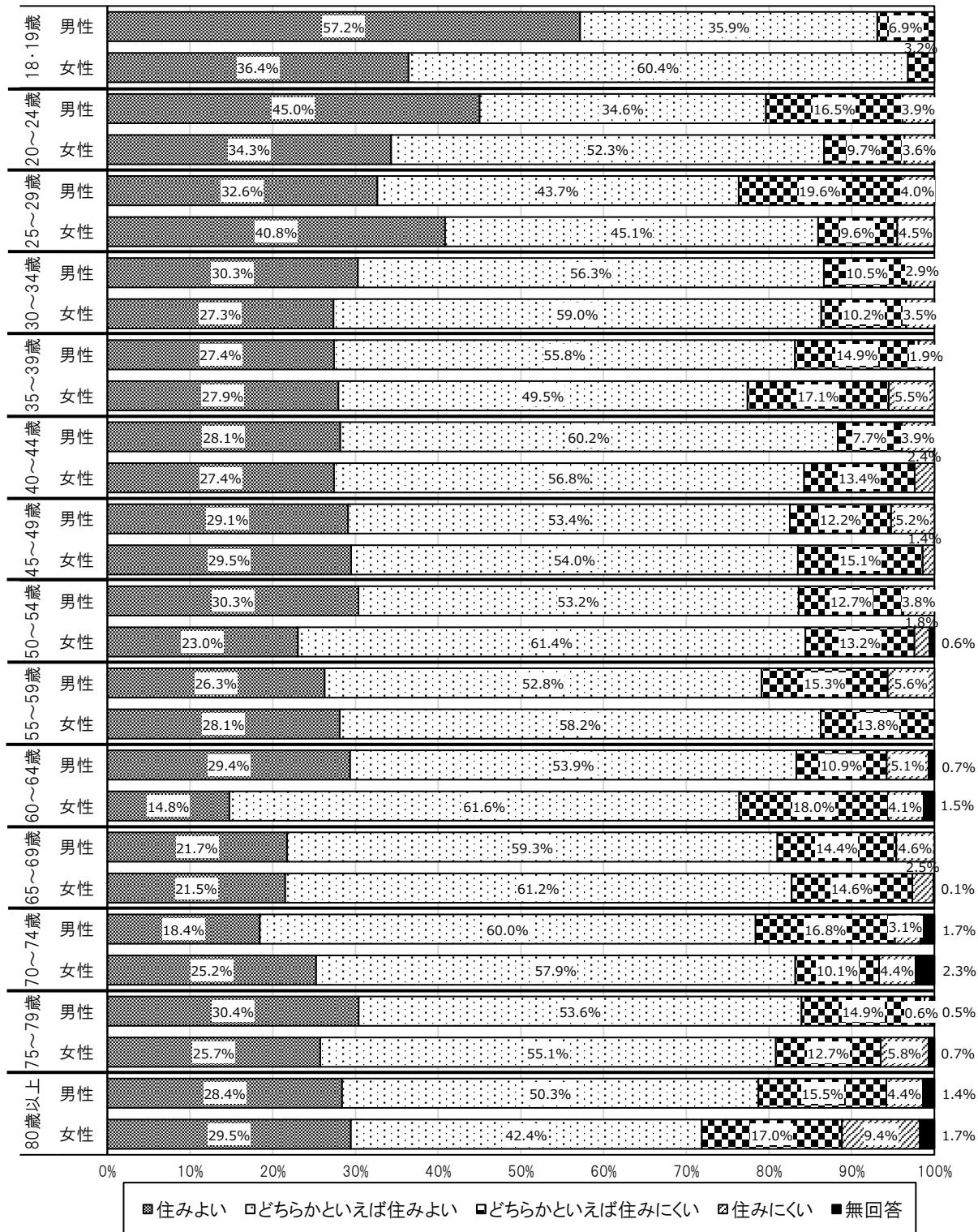
図表3-1-7 豊田市の住みよさ(家族構成別)



⑤ 「住みよさ」×「年齢」×「性別」

年齢別、性別でみると、豊田市が住みよいまちだと思う市民の割合は、18～19歳の女性で96.8%と最も高くなっています。一方、80歳以上の女性が71.9%と最も低くなっています。

図表3-1-8 豊田市の住みよさ(年齢別・性別)



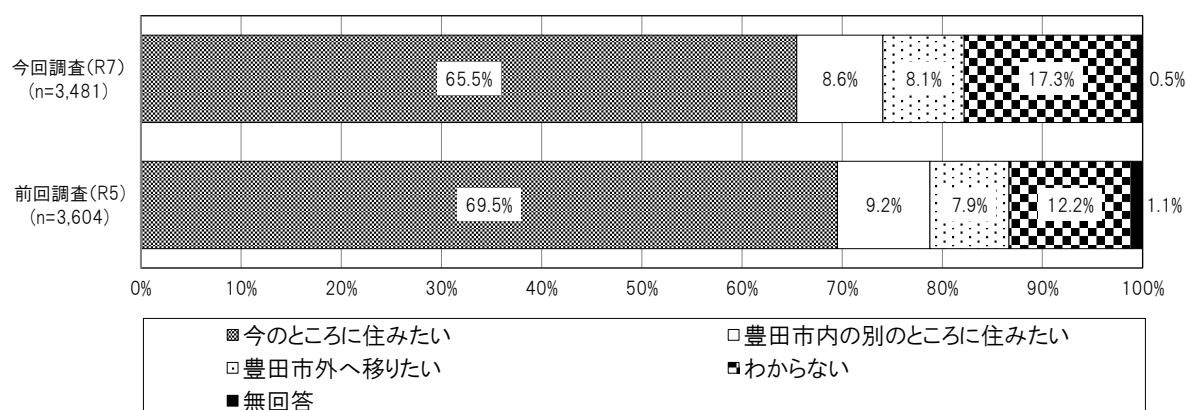
(2) 定住意識

問 12	あなたは、今住んでいるところに、これからも長く住みたいと思いますか。 (1 つに○)
------	---

1) 全体集計結果

豊田市に長く住みたいと思う市民の割合(「今のところに住みたい」+「豊田市内の別の所に住みたい」)は 74.1%となっており、前回調査と比較すると、4.6 ポイント減少しています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民の割合は 8.1%と前回調査より 0.2 ポイント増加しています。「わからない」と回答した割合が 17.3%と前回調査より 5.1 ポイント増加しています。

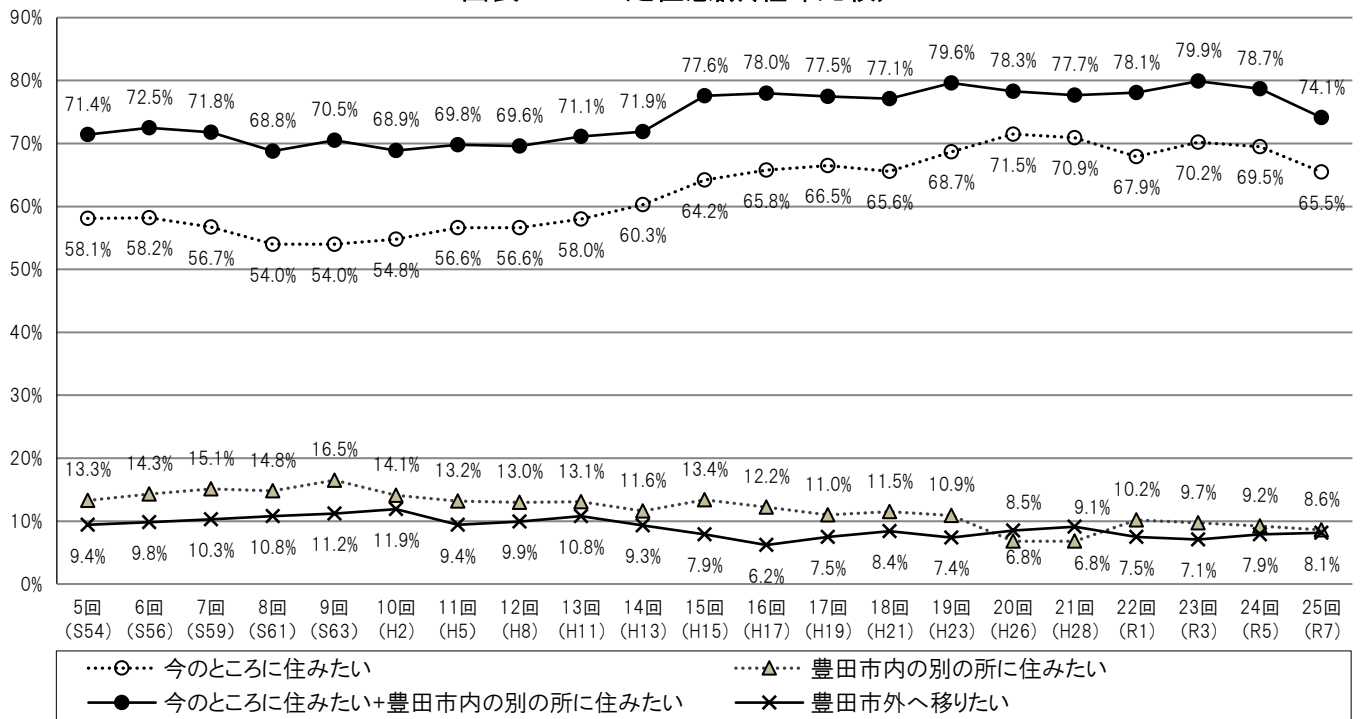
図表3-2-1 定住意識(前回調査との比較)



2) 過去の調査との比較

本問を設定した第5回(昭和54年度実施)からの調査結果の推移をみると、「今のところに住みたい」と回答した市民の割合は、第14回(平成13年度実施)以降、60%を超えています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民の割合は、第14回(平成13年度実施)以降、10%未満で推移しています。

図表3-2-2 定住意識(経年比較)



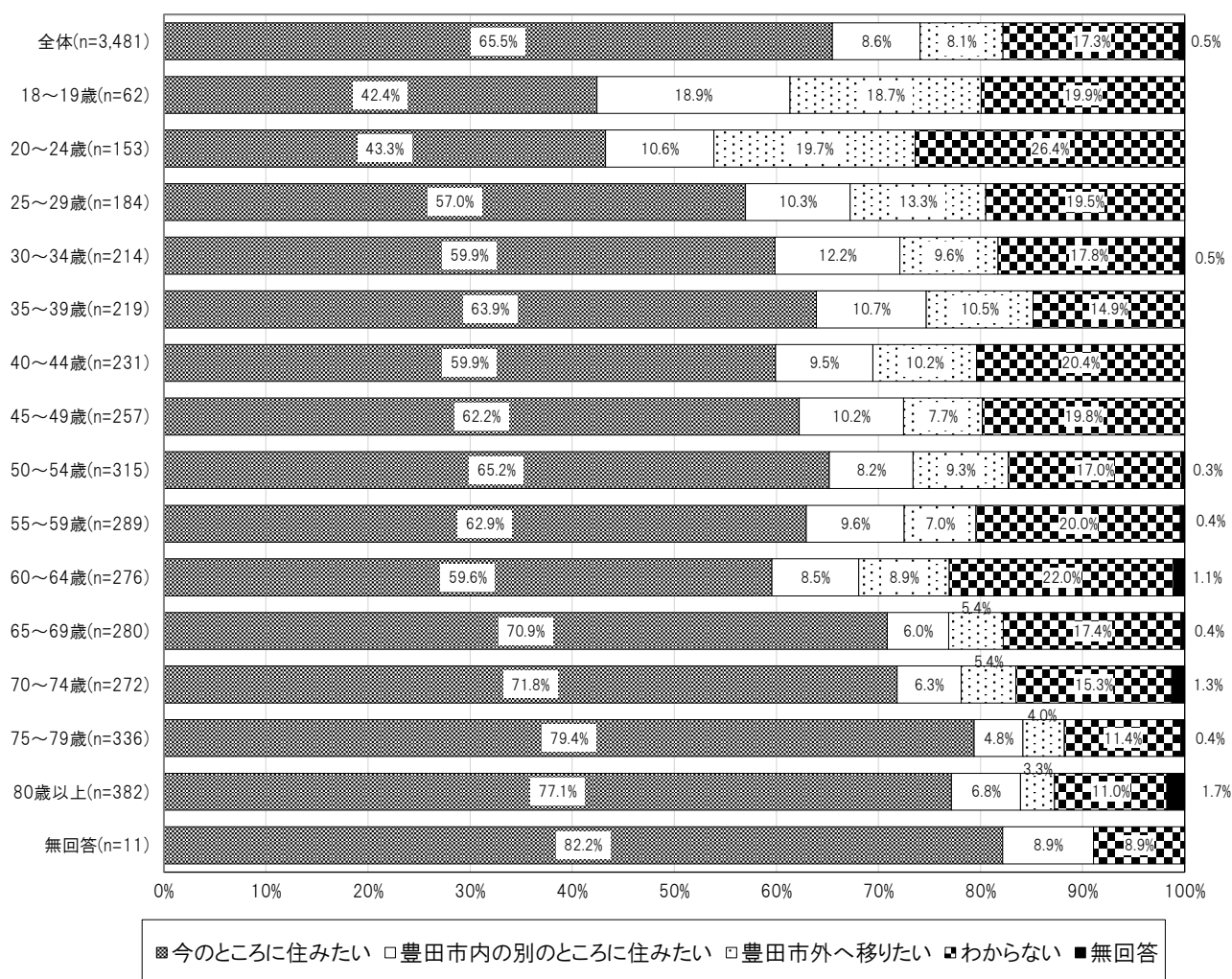
※11 ページの「豊田市の住みよさ」と同様に、調査方法、調査対象者抽出方法及びサンプル数は、実施年度ごとに異なります。

3) 属性分析結果

① 「定住意識」×「年齢」

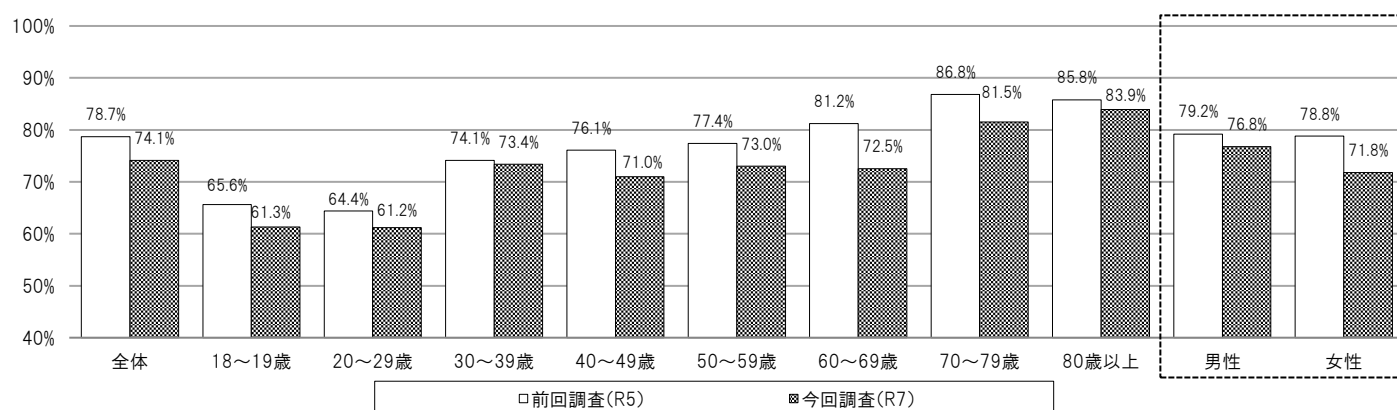
年齢別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、75歳以上で80%を超えています。一方、20～24歳で53.9%、18～19歳で61.3%と低くなっています。

図表3-2-3 定住意識(年齢別)



前回調査と比較すると、どの年代も豊田市に長く住みたいと思う市民の割合が減少しており、60～69歳で8.7ポイント、70～79歳で5.3ポイント、40～49歳で5.1ポイント減少しています。また、性別では男女ともに豊田市に長く住みたいと思う割合が減少しています。特に女性が前回調査より7.0ポイント減少しています。

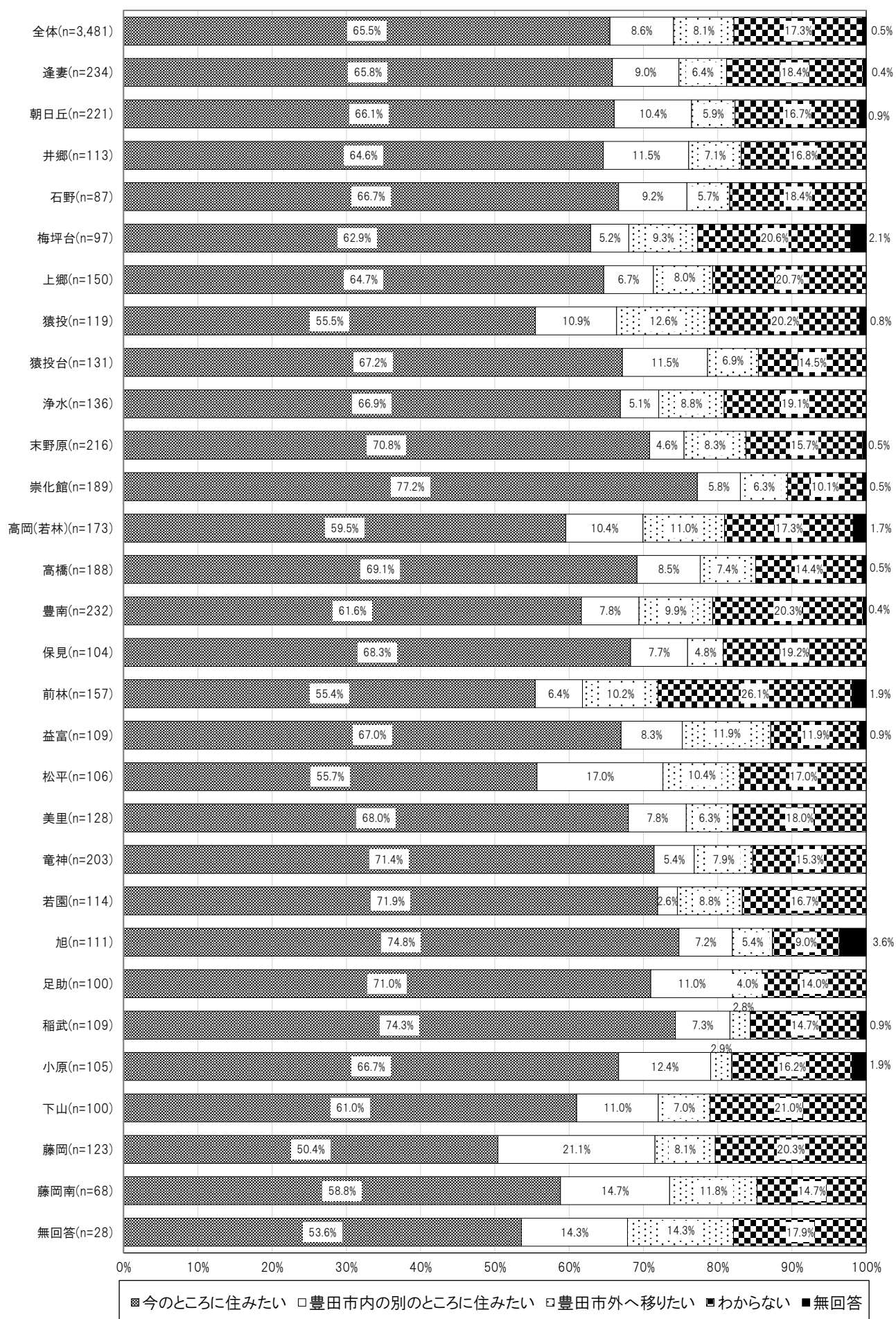
図表3-2-4 定住意識(年齢別・男女別(前回調査との比較))



② 「定住意識」×「居住地区」

居住地区別にみると、「今のところに住みたい」と回答した市民の割合は崇化館が 77.2%と最も高く、次いで旭が 74.8%、稲武が 74.3%となっています。一方、藤岡は 50.4%、前林は 55.4%、猿投は 55.5%と低くなっています。また、「豊田市内の別のところに住みたい」と回答した市民の割合は、藤岡が 21.1%、松平が 17.0%、藤岡南が 14.7%と高くなっており、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民の割合は、猿投が 12.6%、益富が 11.9%、藤岡南が 11.8%と高くなっています。

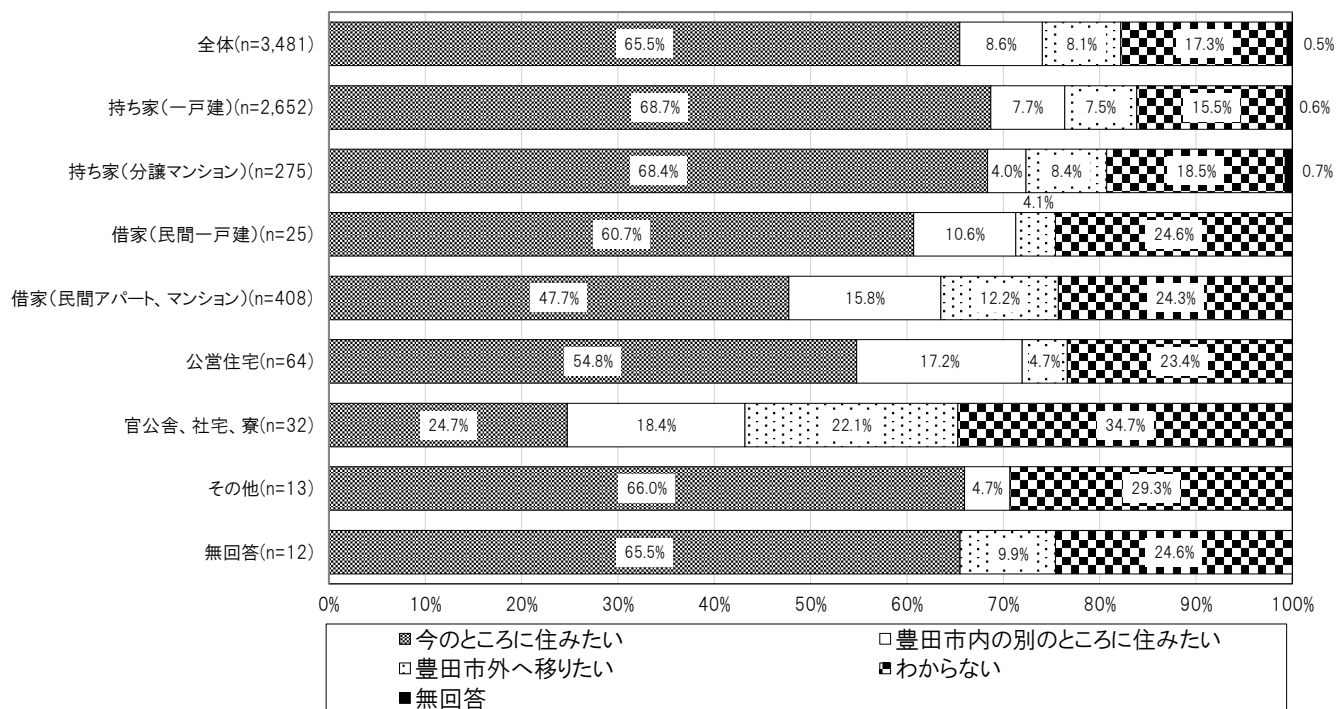
図表3-2-5 定住意識(居住地区別)



③ 「定住意識」×「居住形態」

居住形態別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、持ち家（一戸建）で 76.4% と最も高くなっています。一方、官公舎、社宅、寮は 43.1% と低くなっています。

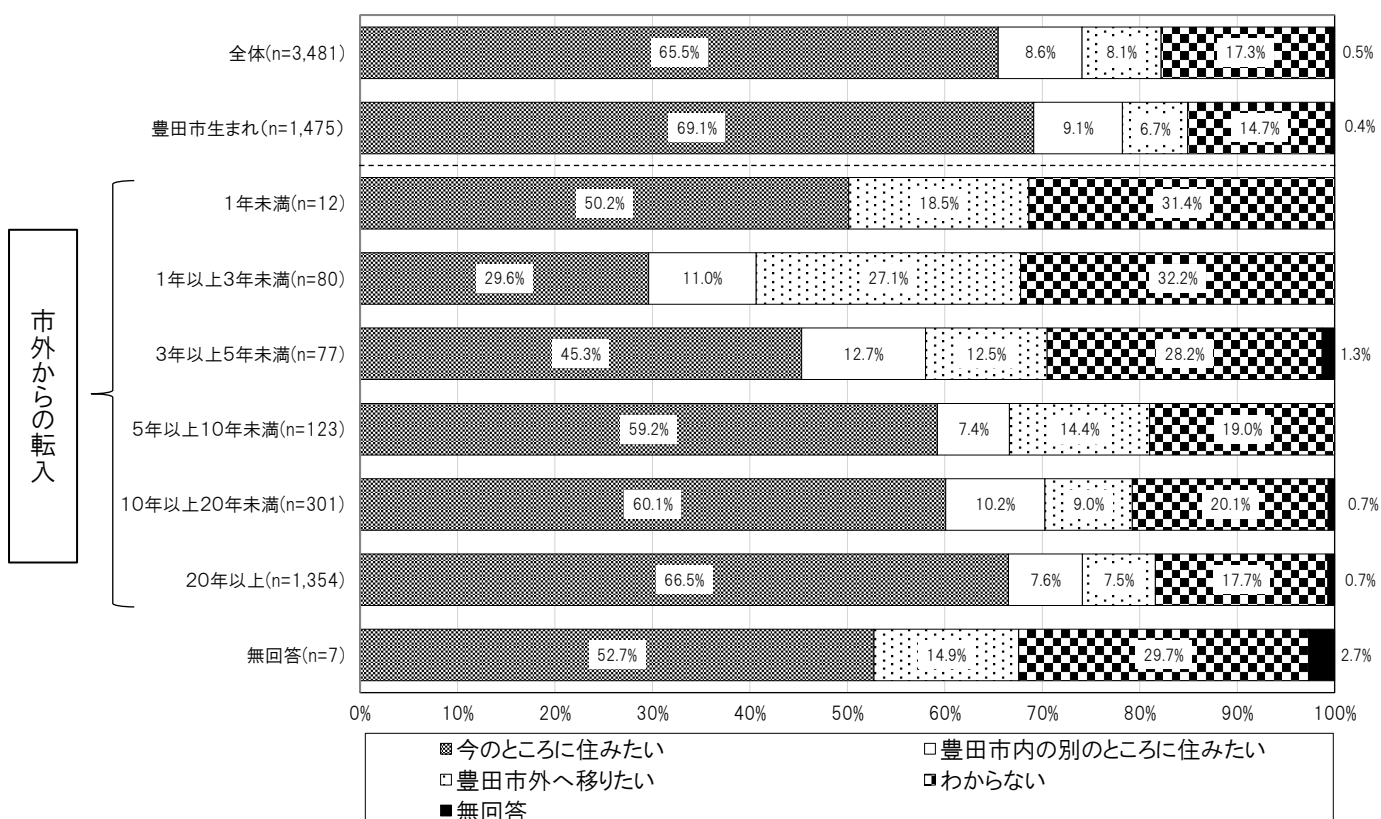
図表3-2-6 定住意識(居住形態別)



④ 「定住意識」×「居住年数」

居住年数別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、概ね居住年数が長くなるほど増加する傾向にあります。

図表3-2-7 定住意識(居住年数別)

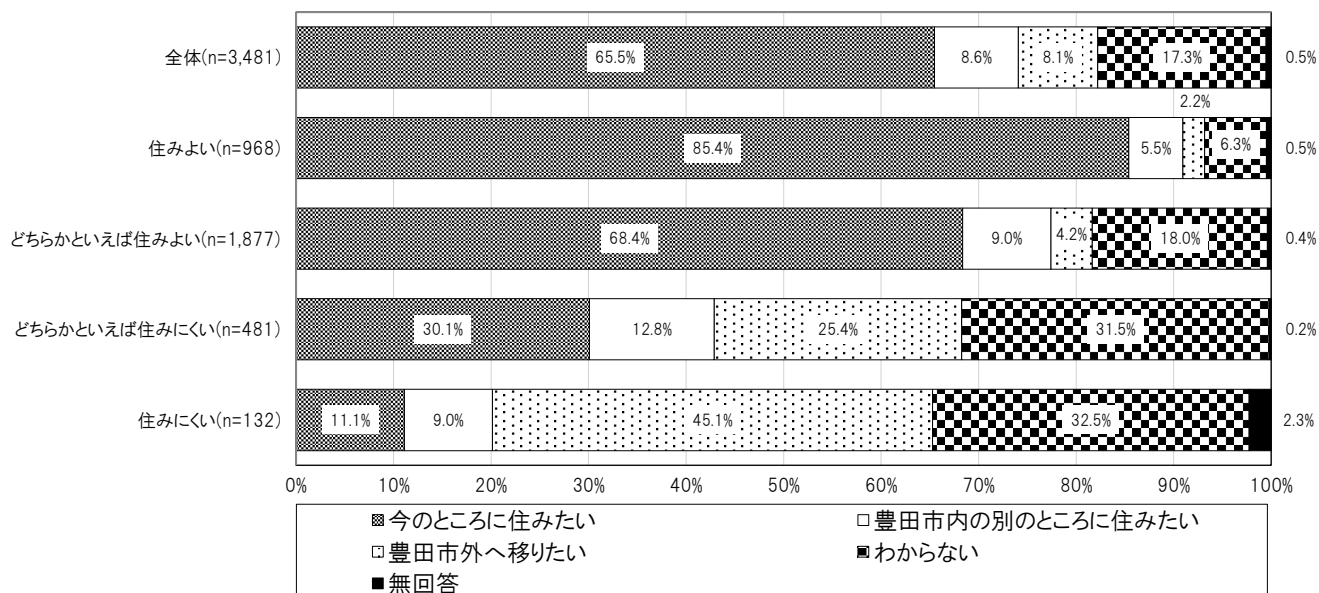


4) 設問間分析結果

① 「定住意識」×「住みよさ」

住みよさ別にみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 90.9%と最も高くなっています。一方、「住みにくい」と回答した市民では 20.1%と低くなっています。

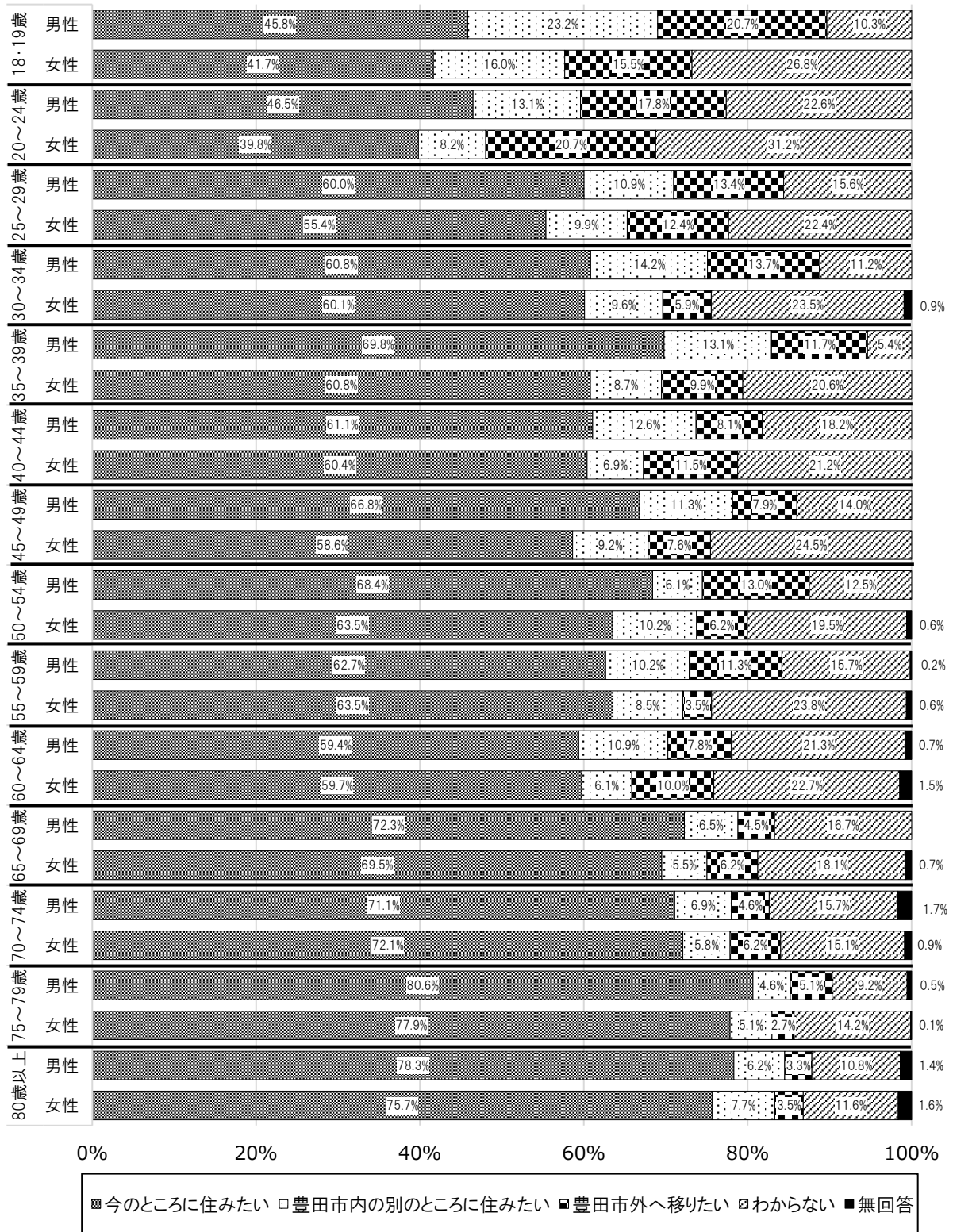
図表3-2-8 定住意識(住みよさ別)



② 「定住意識」×「年齢」×「性別」

年齢別、性別でみると、豊田市に長く住みたいと思う市民の割合は、75～79歳の男性で 85.2%と最も高くなっています。一方、20～24歳女性が 48.0%と最も低くなっています。

図表3-2-9 定住意識(年齢別・性別)



(3) 豊田市や居住地域への愛着

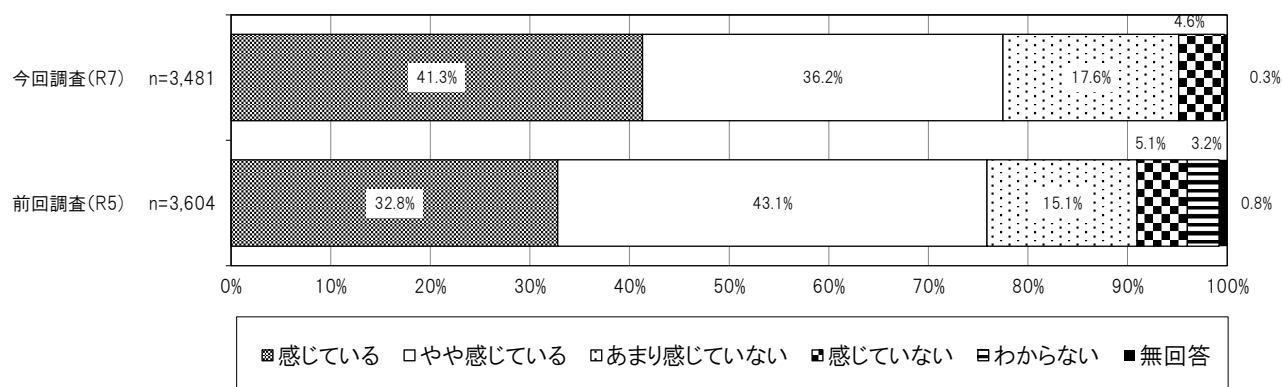
問 13

あなたは、豊田市やお住まいの地域に対して愛着を感じていますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合(「感じている」+「やや感じている」)は77.5%となっており、特に「感じている」と回答した市民の割合は前回調査と比較して8.5ポイント増加しています。一方、「あまり感じていない」、「感じていない」と回答した市民の割合は22.2%と前回調査より2.0ポイント増加しています。

図表3-3-1 豊田市や居住地域への愛着 (前回調査との比較) ※今回調査から「わからない」を削除

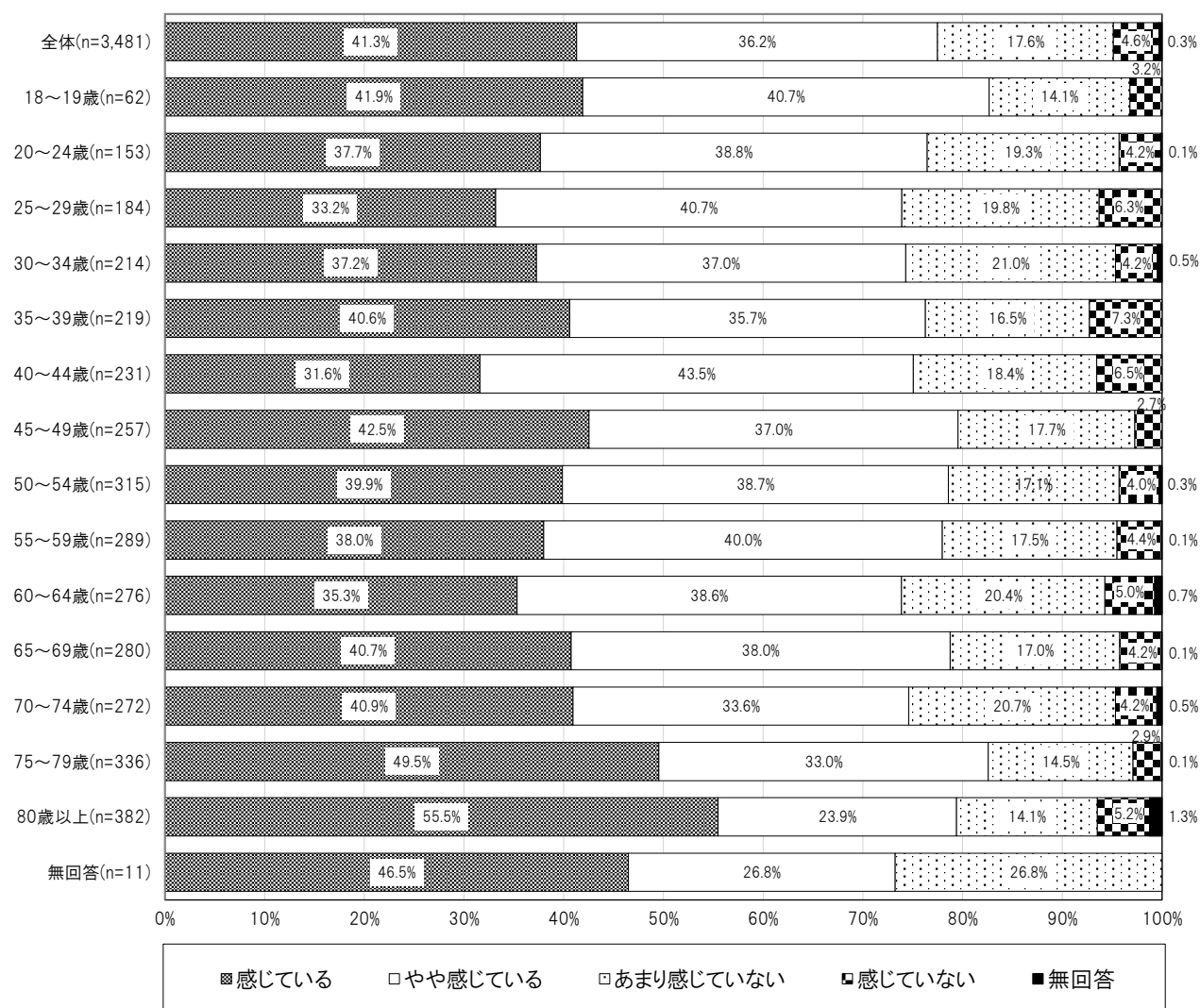


2) 属性分析結果

① 「豊田市や居住地域への愛着」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合は、18～19歳が82.6%と最も高く、次いで75～79歳が82.5%となっています。一方、25～29歳と60～64歳が73.9%、30～34歳が74.2%と低くなっています。

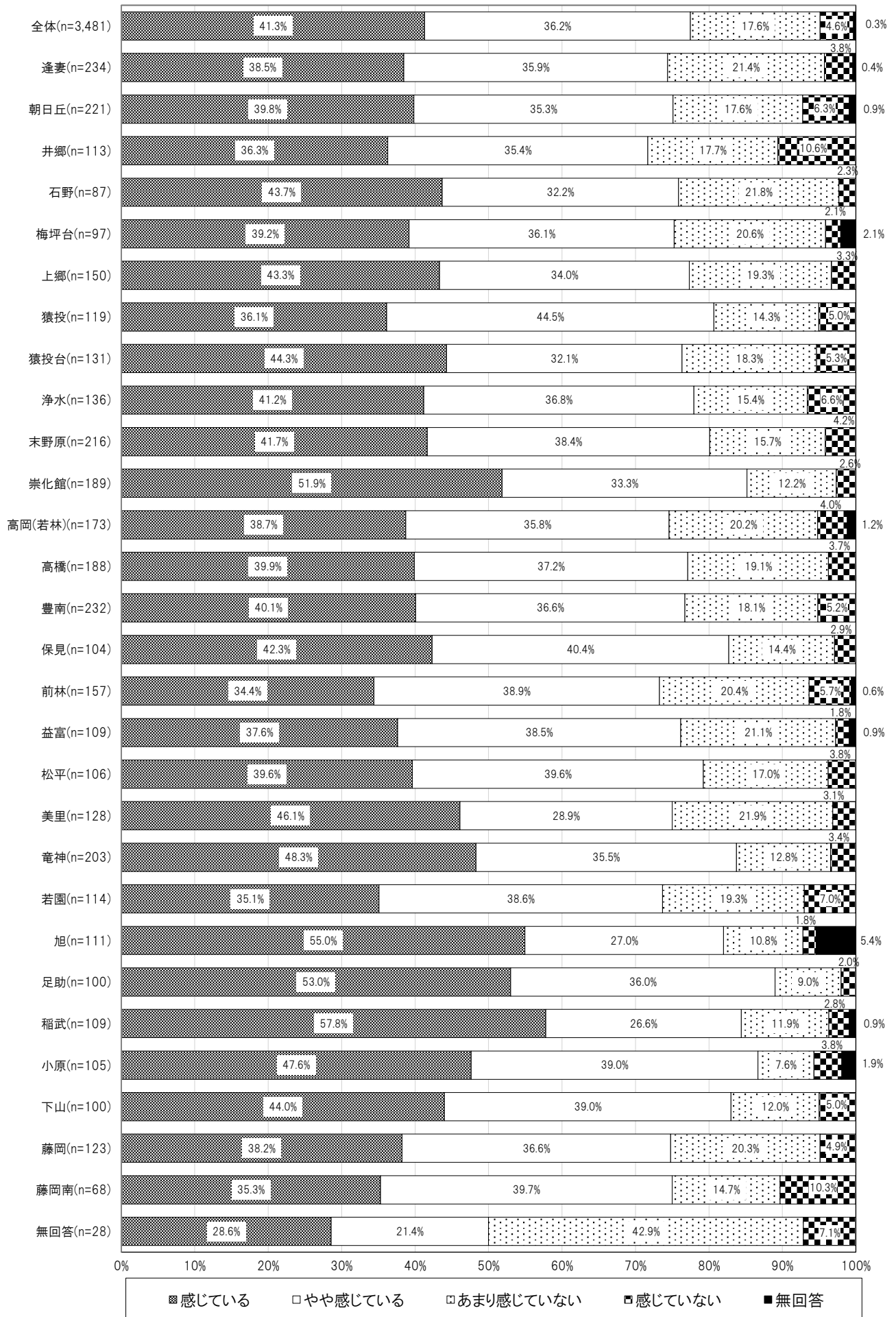
図表3-3-2 豊田市や居住地域への愛着(年齢別)



② 「豊田市や居住地域への愛着」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合は、足助が 89.0%と最も高く、次いで小原が 86.6%、崇化館が 85.2%となっています。一方、井郷が 71.7%、前林が 73.3%、若園が 73.7%と低くなっています。

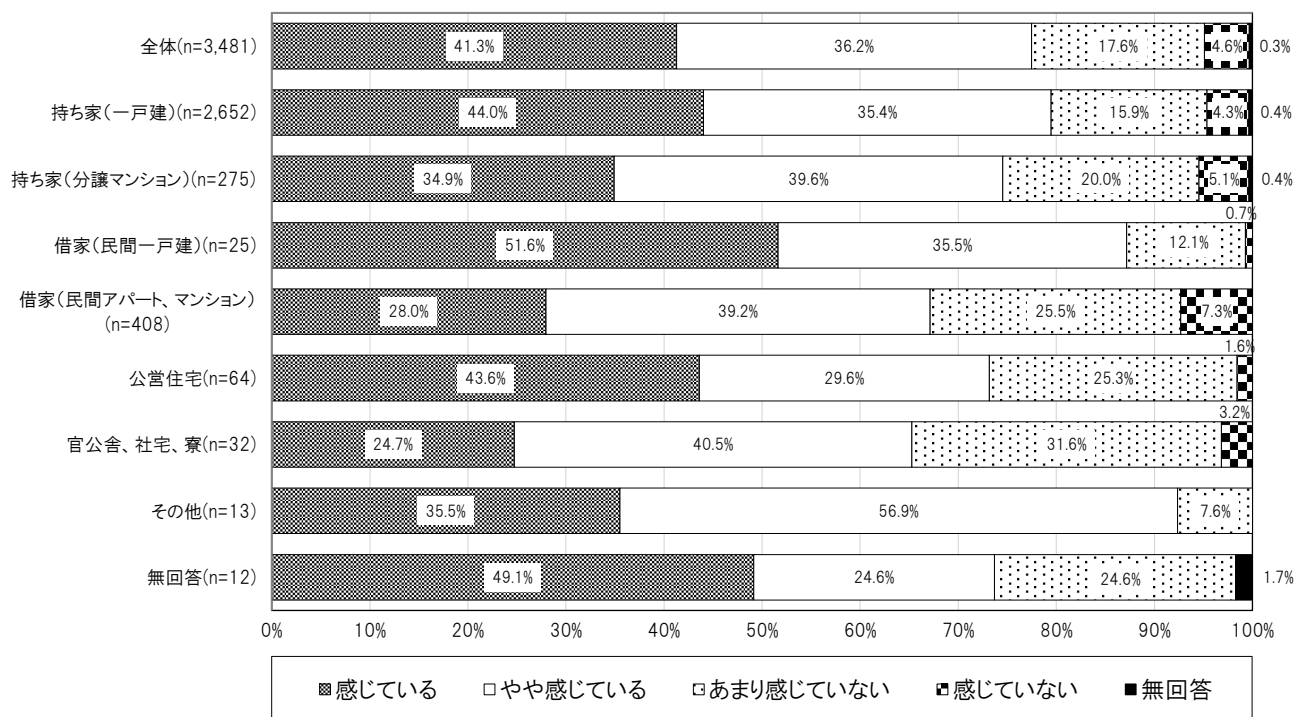
図表3-3-3 豊田市や居住地域への愛着(居住地区別)



③ 「豊田市や居住地域への愛着」×「居住形態」

居住形態別にみると、豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合は、その他を除いて、借家（民間一戸建）で 87.1%と最も高くなっています。一方、官公舎、社宅、寮は 65.2%と低くなっています。

図表3-3-4豊田市や居住地域への愛着（居住形態別）

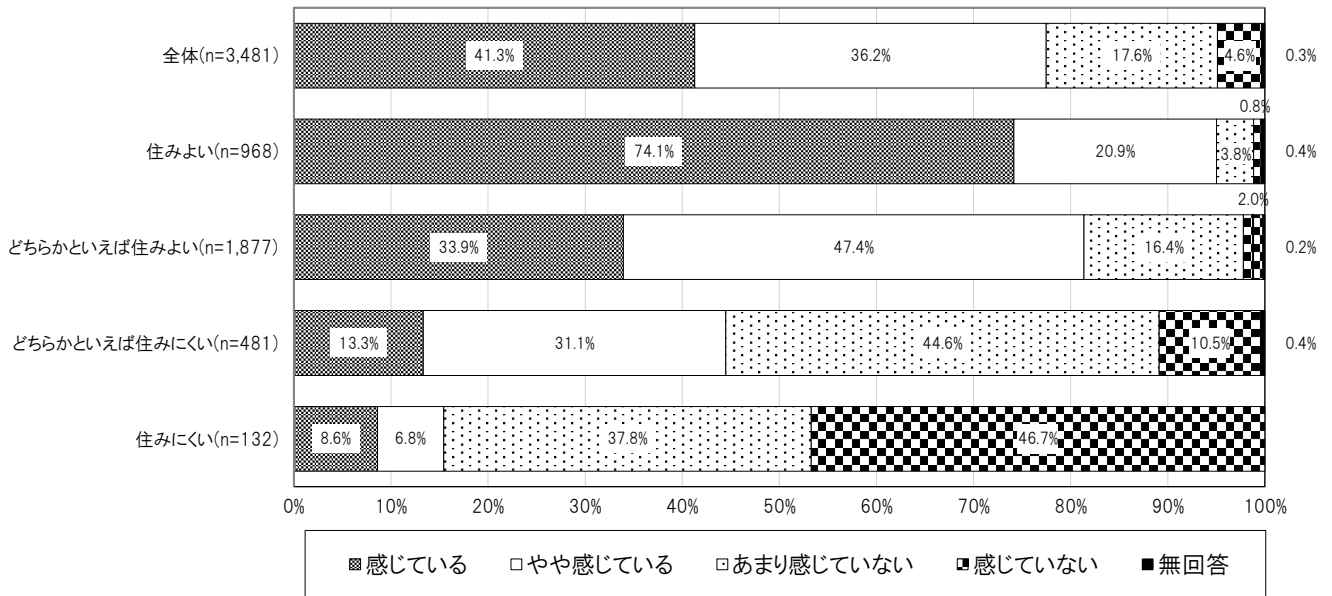


3) 設問間分析結果

① 「豊田市や居住地域への愛着」×「住みよさ」

住みよさ別にみると、豊田市や居住地域に愛着を感じている市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 95.0%と最も高くなっています。一方、「住みにくい」と回答した市民では 15.4%と低くなっています。住みよいと思う人ほど、愛着を感じる割合が高くなる傾向があります。

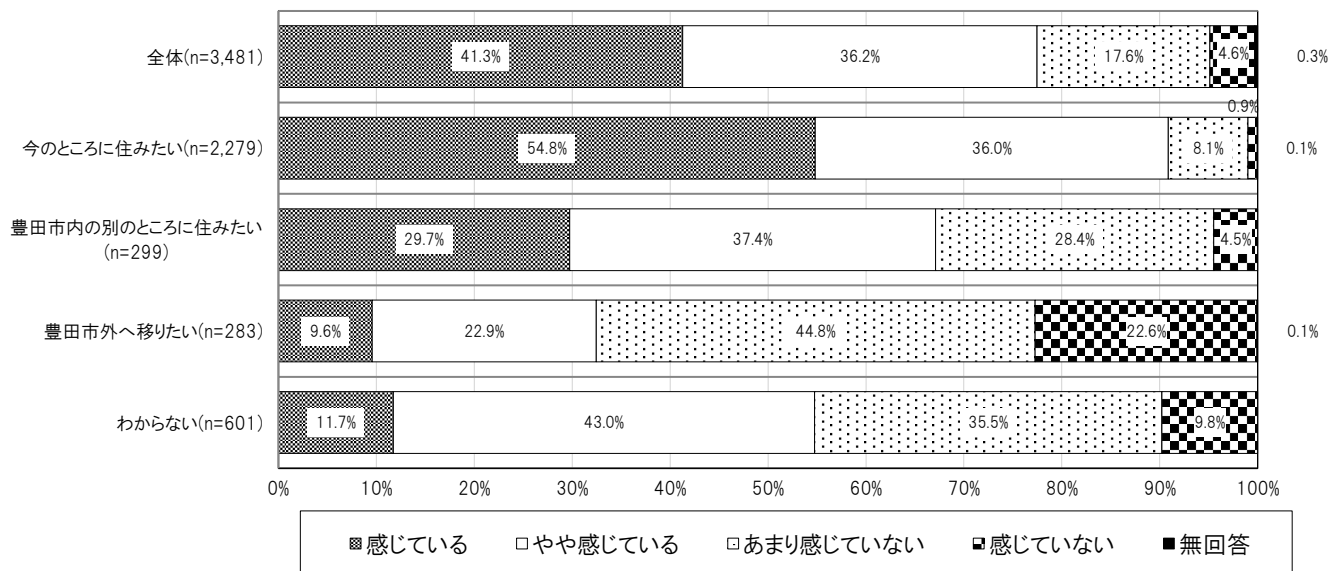
図表3-3-5豊田市や居住地域への愛着(住みよさ別)



② 「豊田市や居住地域への愛着」×「定住意識」

定住意識別にみると、豊田市や居住地域への愛着を感じている市民の割合は、「今のところに住みたい」と回答した市民で90.8%と最も高くなっています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民では32.5%と低くなっています。定住意識が高い人ほど、愛着を感じる割合が高くなる傾向があります。

図表3-3-6 豊田市や居住地域への愛着(定住意識別)



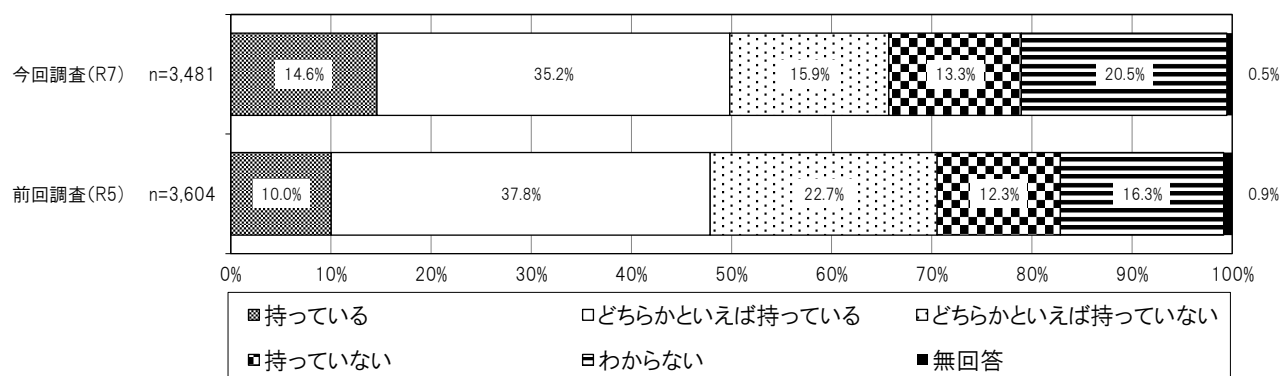
(4) 豊田市の歴史・文化への愛着や誇り

問 14 あなたは、豊田市の歴史・文化に愛着や誇りを持っていますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇りを持っている市民の割合(「持っている」+「どちらかといえば持っている」)は49.8%となっており、前回調査と比較すると、2.0ポイント増加しています。一方、豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇りを持っていない(「どちらかといえば持っていない」+「持っていない」)と回答した市民の割合は29.2%となっており、前回調査と比較すると5.8ポイント減少しています。また、「わからない」と回答した市民の割合は20.5%で、前回調査と比較して4.2ポイント増加しています。

図表3-4-1 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り（前回調査との比較）

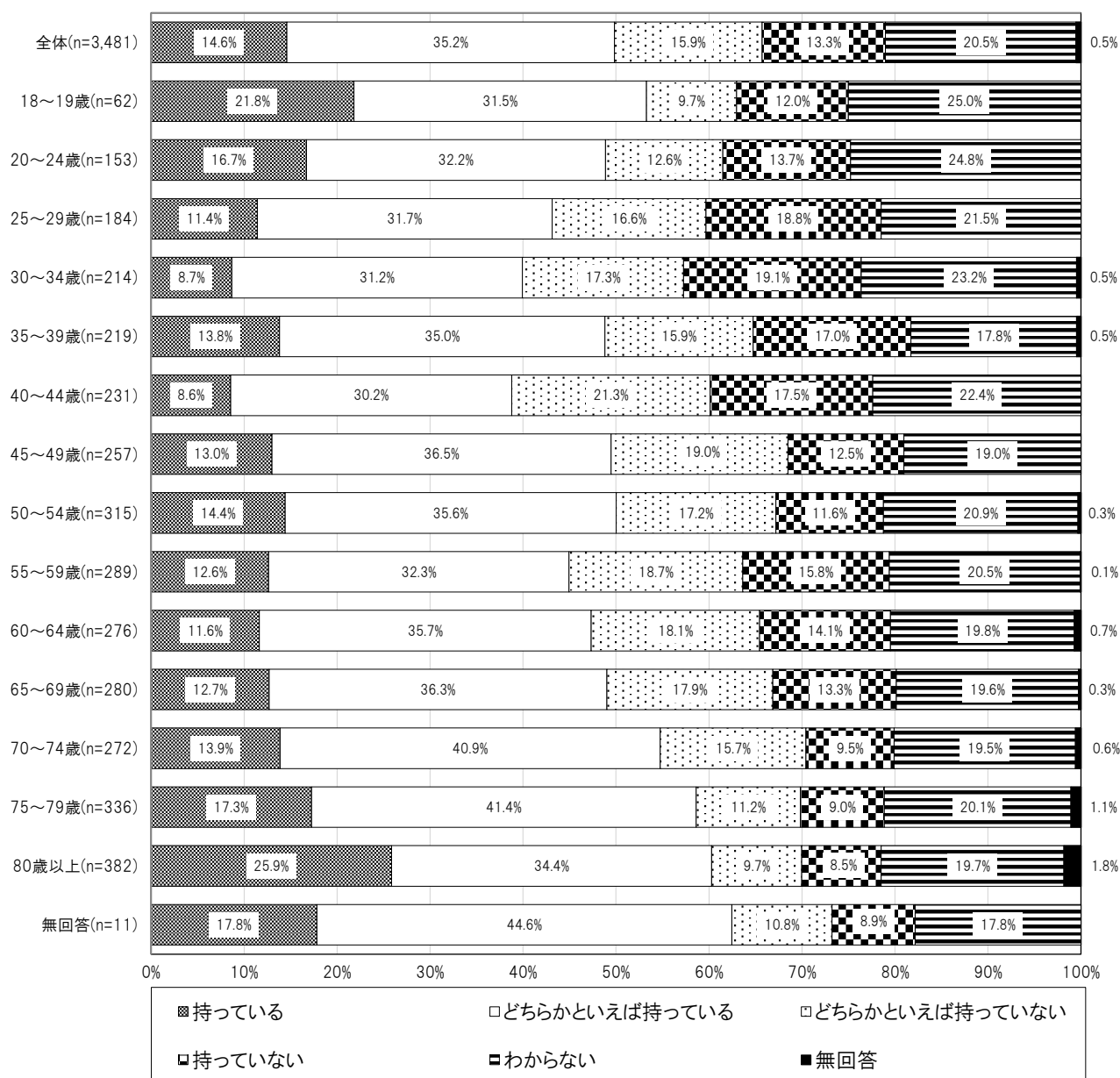


2) 属性分析結果

① 「豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市の歴史・文化に対して愛着や誇りを持っている市民の割合は、80歳以上が60.3%と最も高く、次いで75～79歳が58.7%となっています。一方、40～44歳が38.8%、30～34歳が39.9%と低くなっています。

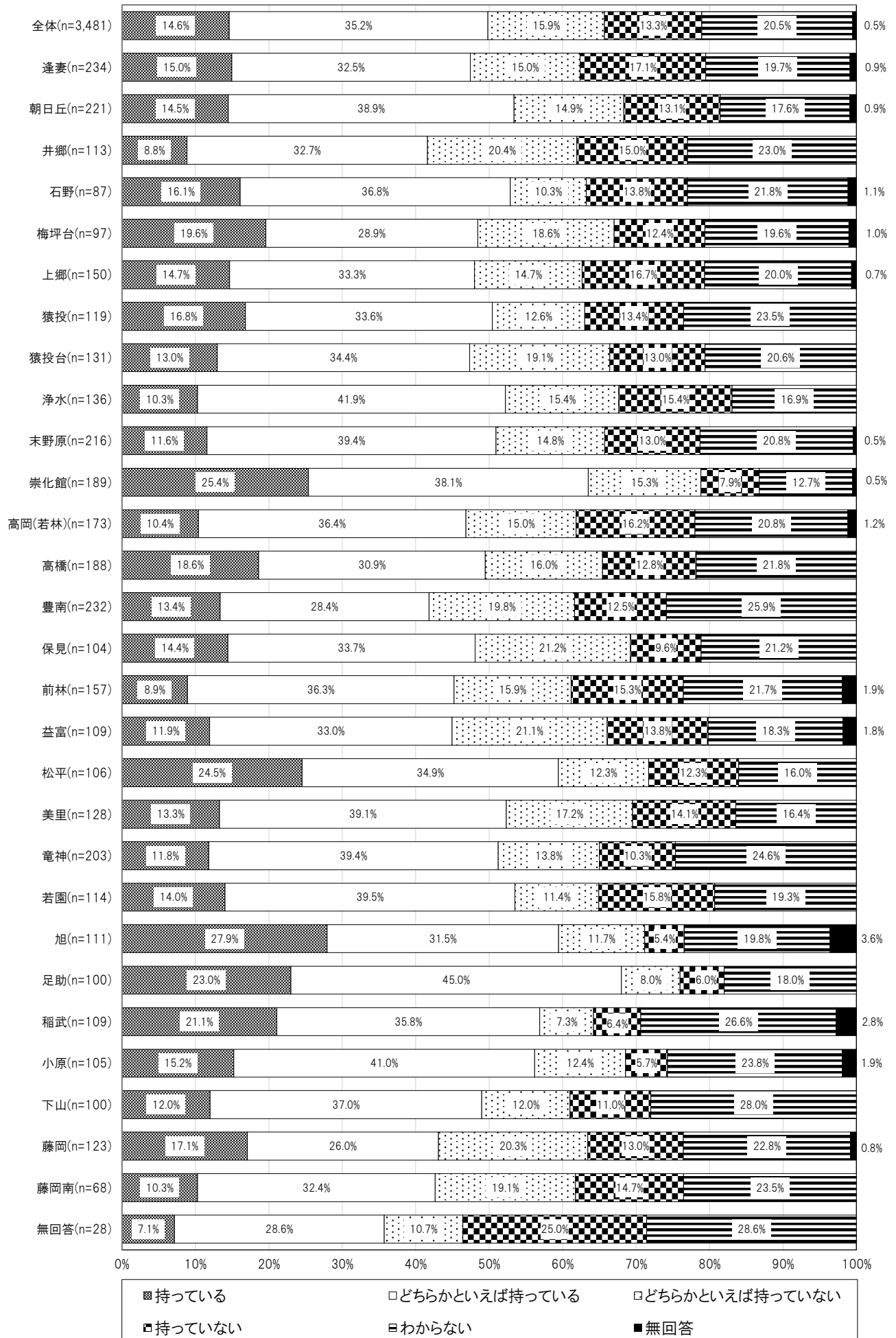
図表3-4-2 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り(年齢別)



② 「豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市の歴史・文化に対して愛着や誇りを持っている市民の割合は、足助が 68.0%と最も高く、次いで崇化館が 63.5%となっています。一方、井郷が 41.5%、豊南が 41.8%と低くなっています。

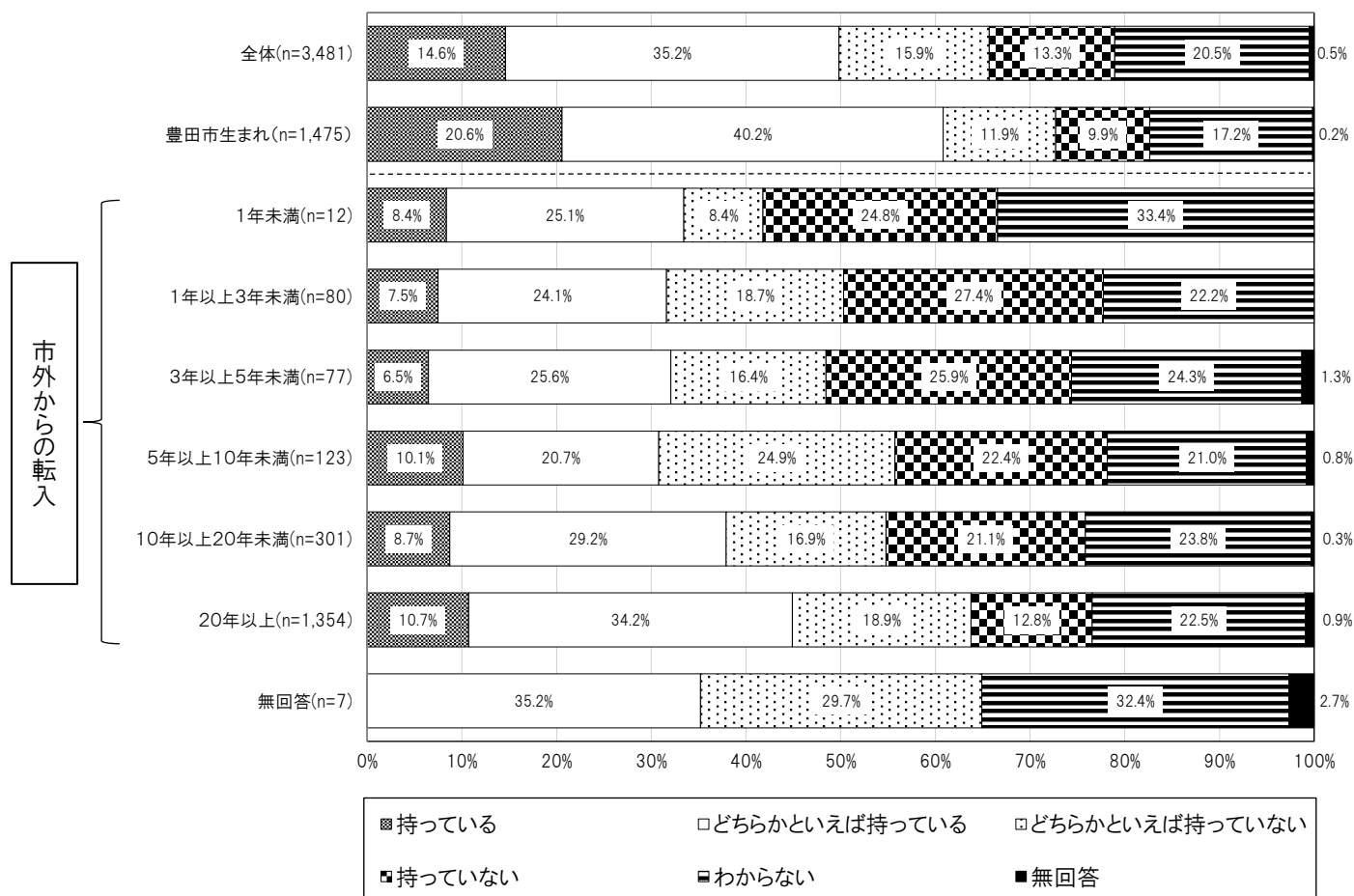
図表3-4-3 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り(居住地区別)



③ 「豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り」×「居住年数」

居住年数別にみると、豊田市の歴史・文化に対して愛着や誇りを持っている市民の割合は、豊田市生まれで 60.8%と最も高くなっています。一方、市外からの転入の場合、豊田市生まれと比較して愛着や誇りを持っている市民の割合は低いですが、概ね居住年数が長くなるのに比例して高くなる傾向にあります。

図表3-4-4 豊田市の歴史・文化に対する愛着や誇り(居住年数別)



2 普段の生活

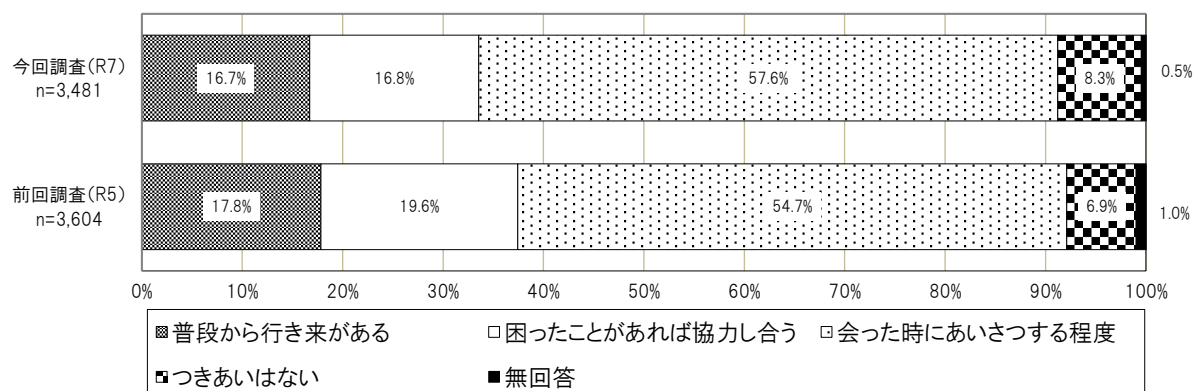
(1) 近所とのつきあい

問 15 あなたは、近所とのつきあいがどれくらいありますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

近所づきあいについて、「会った時にあいさつする程度」と回答した市民の割合が最も高く、57.6%となっており、前回調査と比較して 2.9 ポイント増加しています。次いで「困ったことがあれば協力し合う」が 16.8%で、前回調査と比較して 2.8 ポイント減少しています。また、「普段から行き来がある」と回答した市民の割合は、16.7%となっており、1.1 ポイント減少しています。

図表3-5-1 近所づきあい(前回調査との比較)

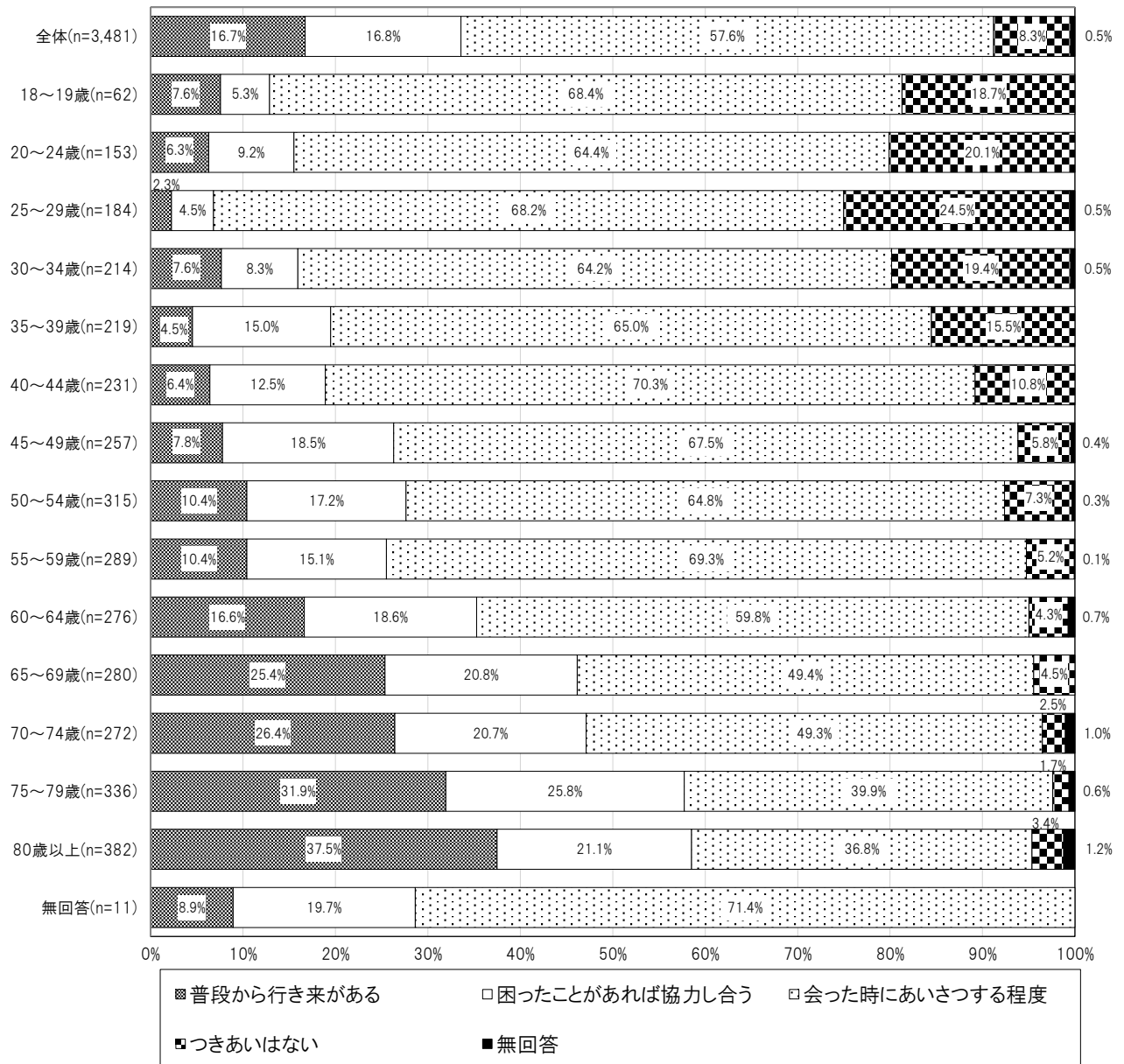


2) 属性分析結果

① 「近所づきあい」×「年齢」

年齢別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合（「普段から行き来がある」＋「困ったことがあれば協力し合う」）は、80 歳以上が最も高く 58.6%、次いで 75～79 歳が 57.7%となっており、概ね年齢が高くなるほど近所づきあいがある市民の割合が増加する傾向にあります。一方、「つきあいはない」と回答した市民の割合は 25～29 歳で 24.5%と高くなっています。

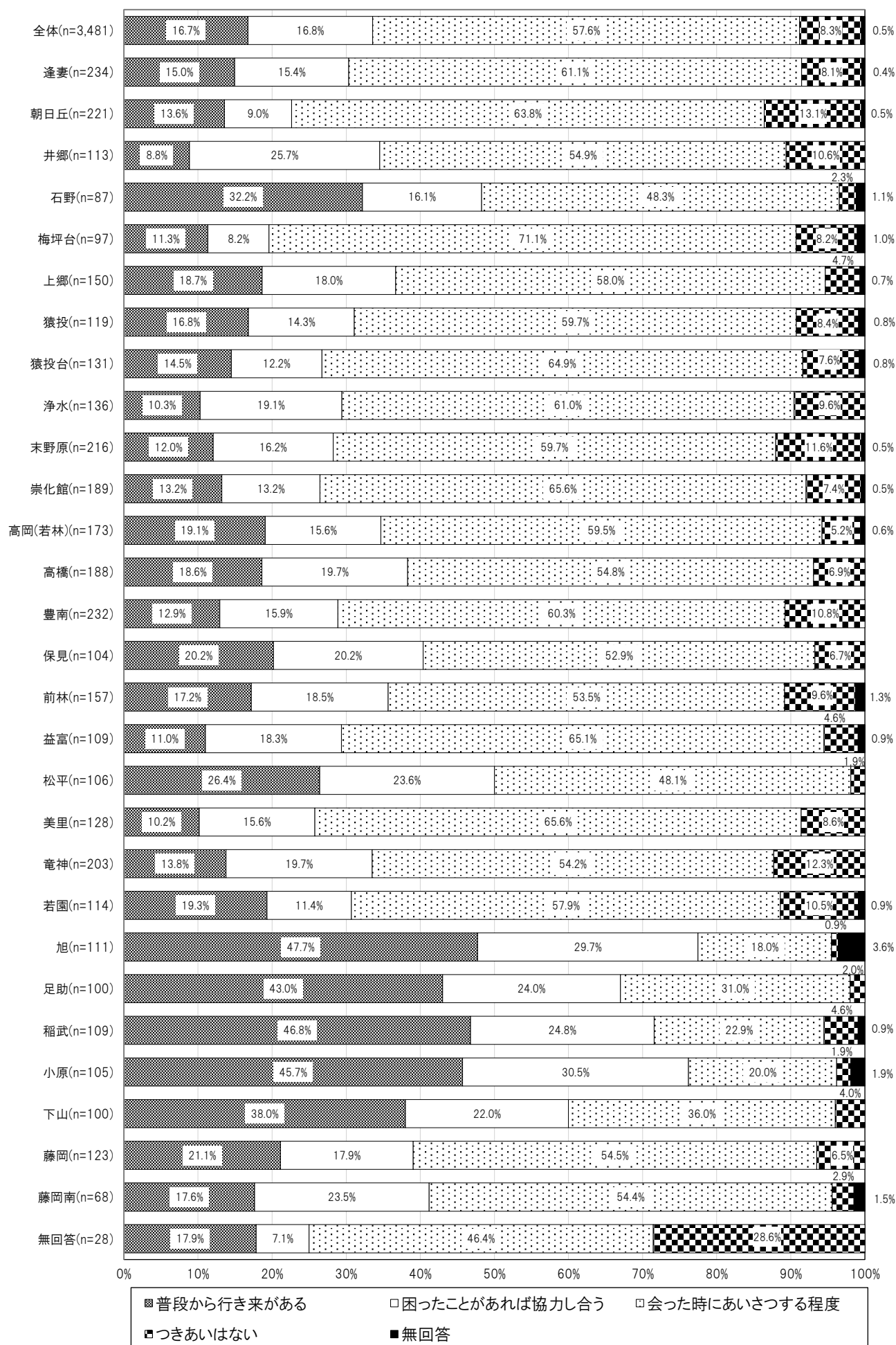
図表3-5-2 近所づきあい(年齢別)



② 「近所づきあい」×「居住地区」

居住地区別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、旭が 77.4%と最も高く、次いで小原が 76.2%、稲武が 71.6%となっており、主に山村地域（旭、足助、稲武、小原、下山）や石野、松平で高い傾向にあります。一方、梅坪台が 19.5%と低くなっています。

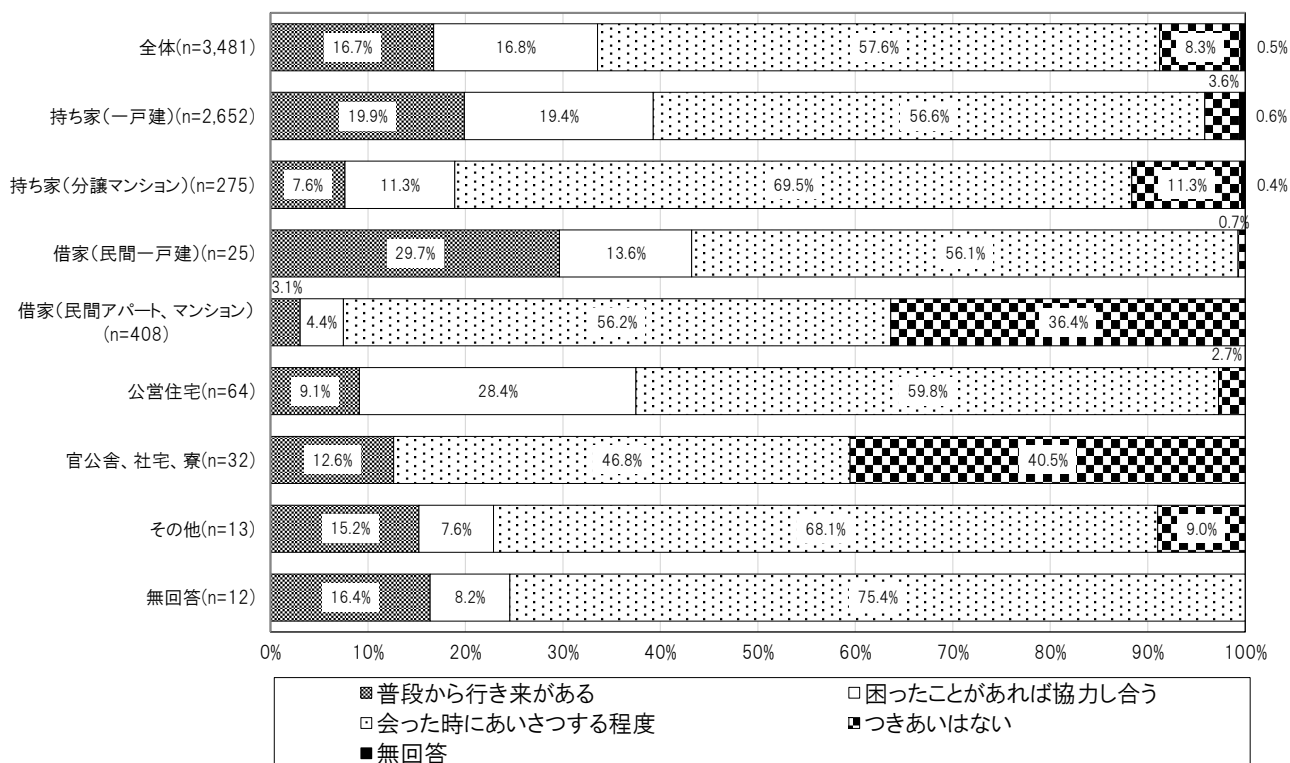
図表3-5-3 近所づきあい(居住地区別)



③ 「近所づきあい」×「居住形態」

居住形態別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、借家（民間一戸建）が43.3%と最も高くなっています。次いで持ち家（一戸建）が39.3%となっています。一方、借家（民間アパート、マンション）では7.5%と低くなっています。また、「つきあいはない」と回答した市民の割合は、官公舎、社宅、寮が40.5%、借家（民間アパート、マンション）が36.4%と高くなっています。

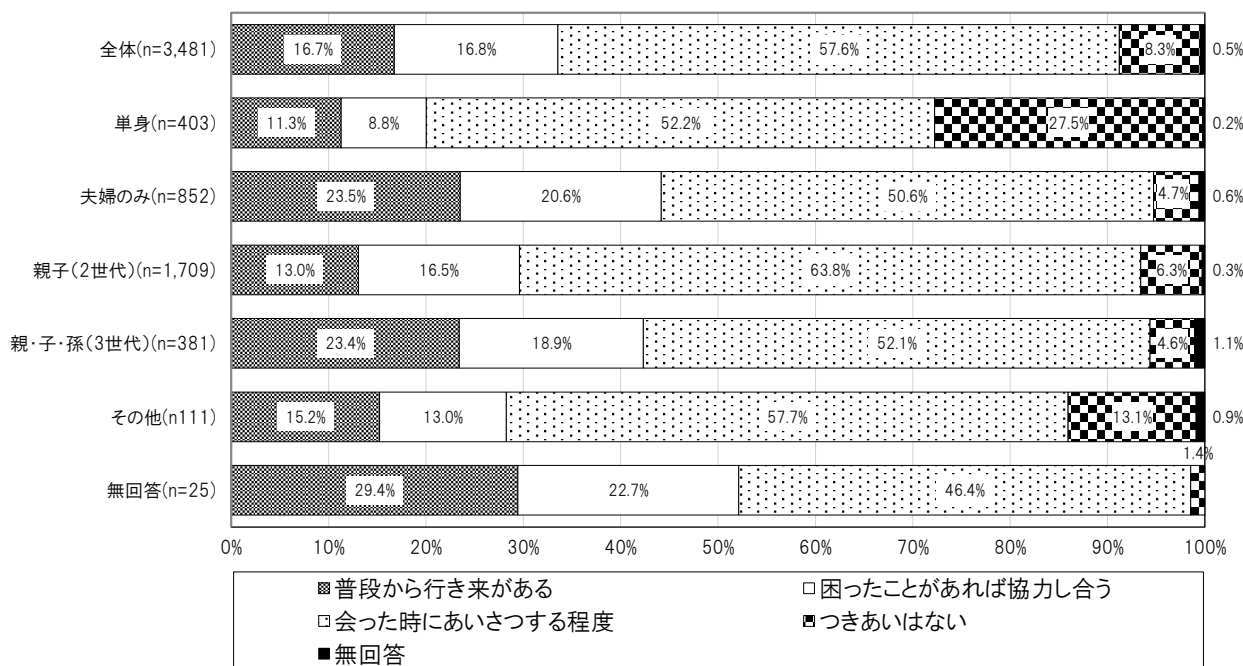
図表3-5-4 近所づきあい(居住形態別)



④ 「近所づきあい」×「家族構成」

家族構成別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、夫婦のみ世帯が最も高く44.1%、次いで親・子・孫（3世代）世帯が42.3%となっています。一方、「つきあいはない」と回答した市民の割合は、単身世帯で27.5%と高くなっています。

図表3-5-5 近所づきあい(家族構成別)

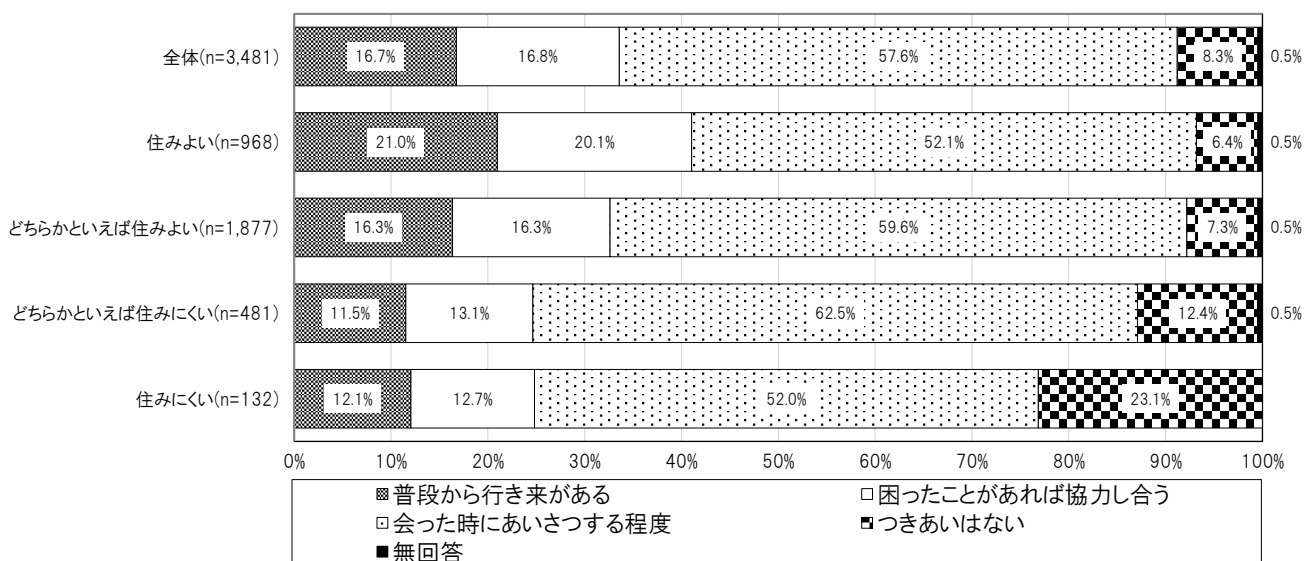


3) 設問間分析結果

① 「近所づきあい」×「住みよさ」

住みよさ別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 41.1%と最も高くなっています。一方、「つきあいはない」と回答した市民の割合は、「住みにくい」と回答した市民では 23.1%と最も多くなっています。近所づきあいがあるほど、住みよいと思う傾向があります。

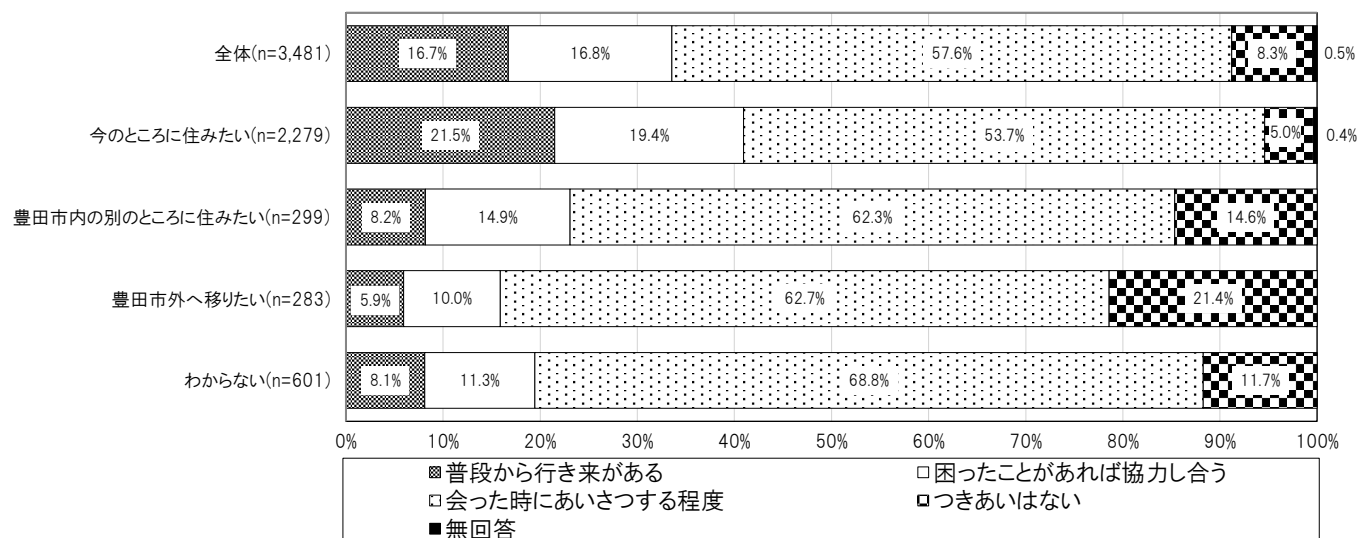
図表3-5-6 近所づきあい(住みよさ別)



② 「近所づきあい」×「定住意識」

定住意識別にみると、近所づきあいがあると回答した市民の割合は、「今のところに住みたい」と回答した市民で40.9%と最も高くなっています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民では15.9%と低くなっています。

図表3-5-7 近所づきあい(定住意識別)



(2) 生きがいの有無

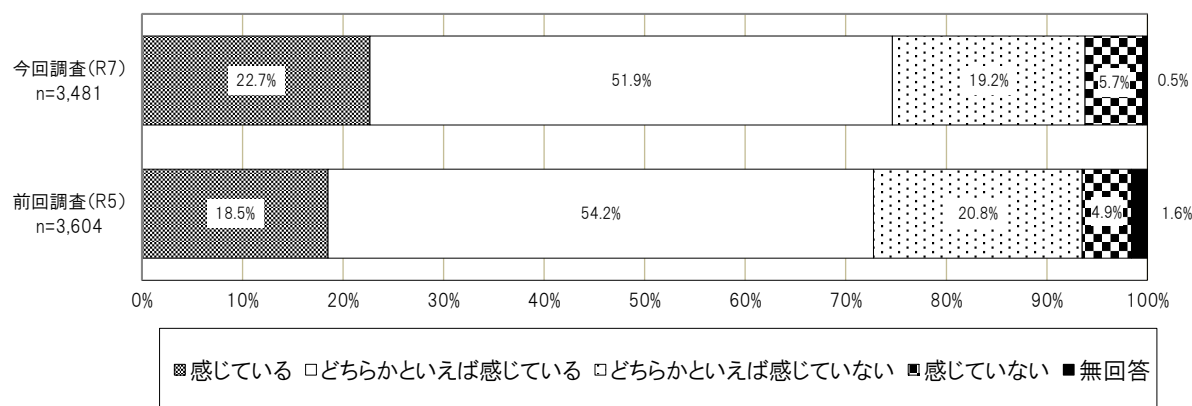
問 16

あなたは、日頃の生活の中で生きがいを感じていますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

日ごろの生活の中で生きがいを感じている(「感じている」+「どちらかといえば感じている」)と回答した市民の割合は、74.6%となっており、特に「感じている」と回答した市民の割合は、前回調査と比較して 4.2 ポイント増加しています。一方、生きがいを感じていない(「どちらかといえば感じていない」+「感じていない」)と回答した市民の割合は、24.9%となっており、0.8 ポイント減少しています。

図表3-6-1 生きがいの有無(前回調査との比較)

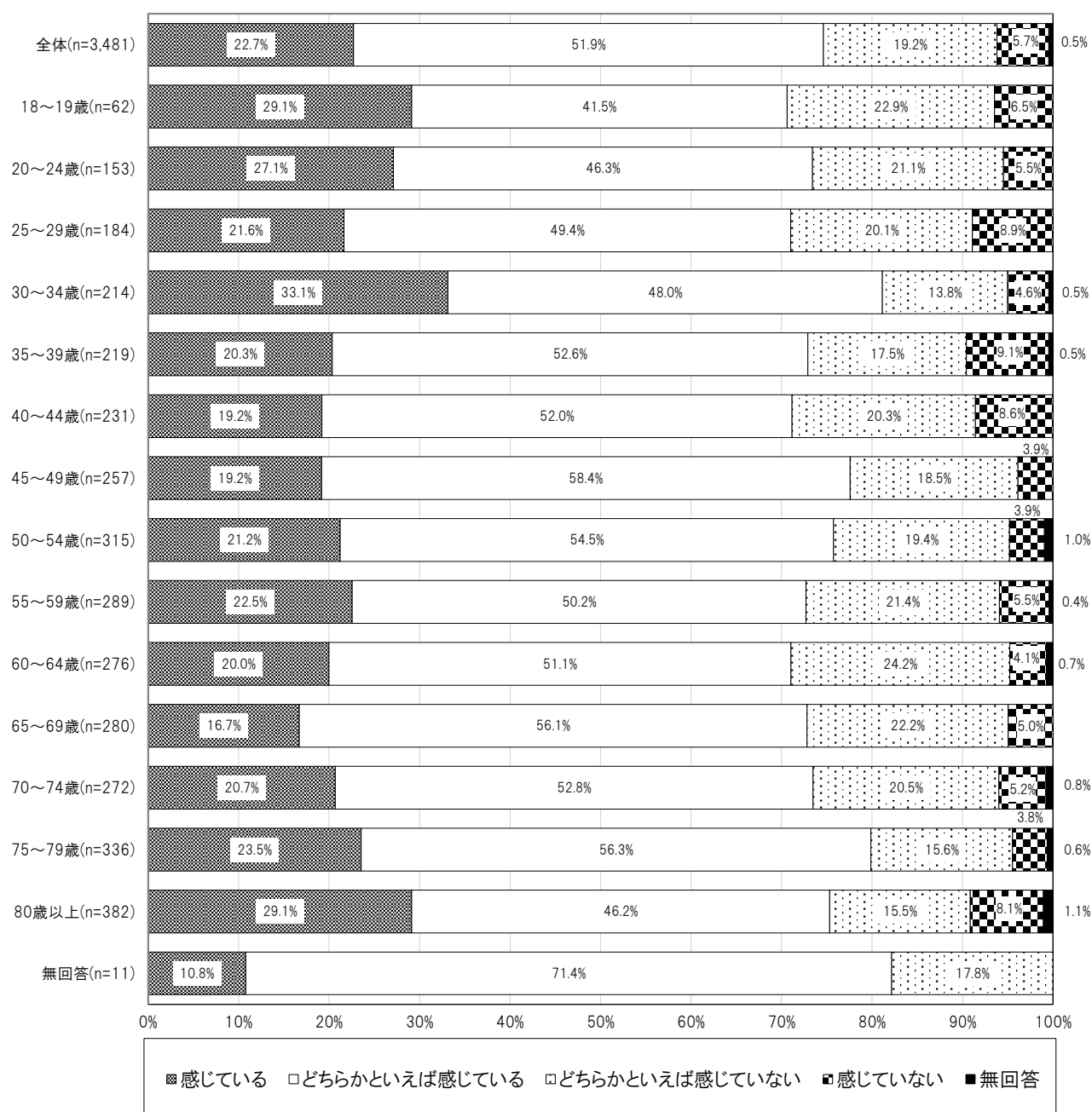


2) 属性分析結果

① 「生きがいの有無」×「年齢」

年齢別にみると、生きがいを感じている市民の割合は、30～34 歳が 81.1%と最も高く、次いで 75～79 歳が 79.8%となっています。

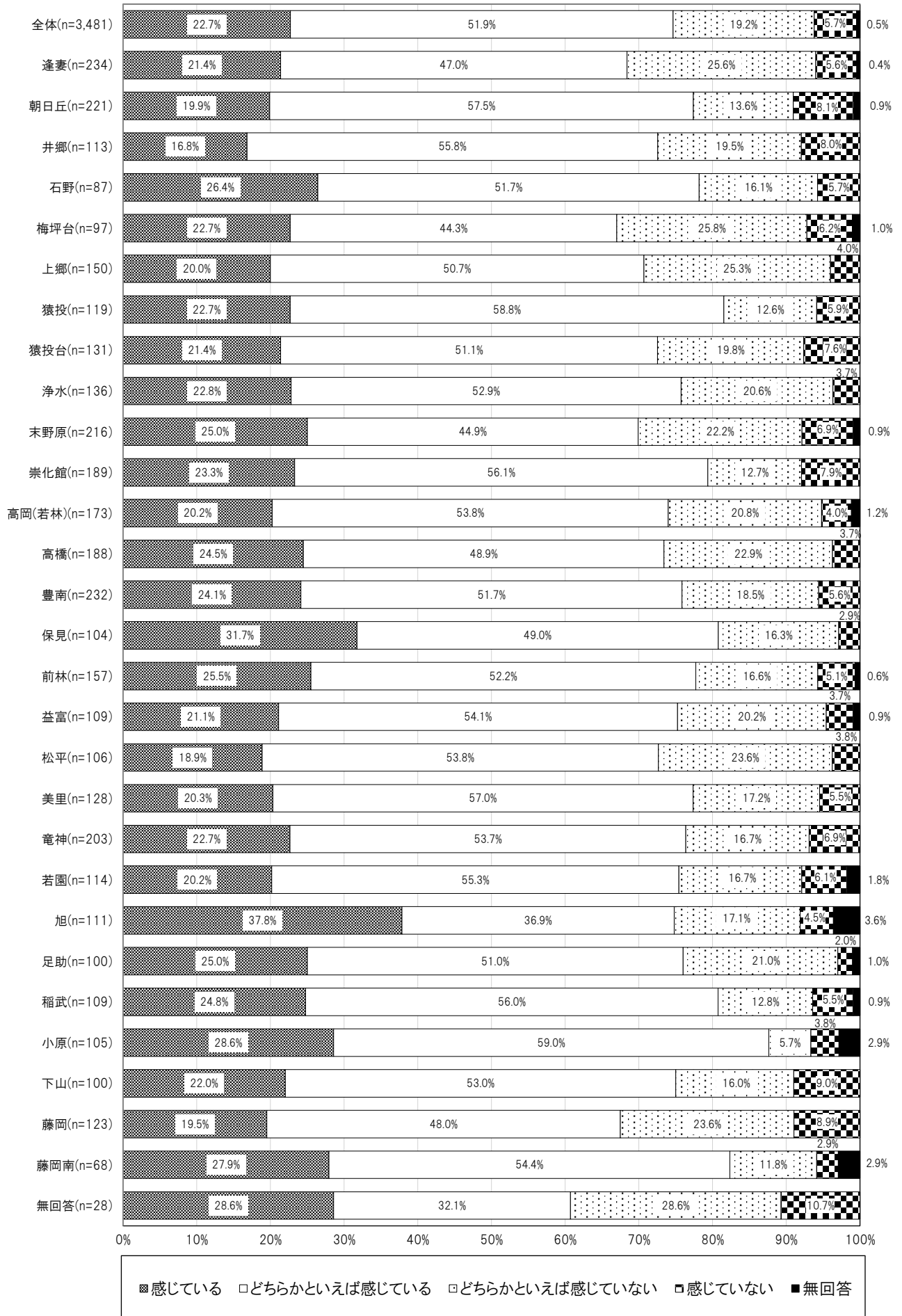
図表3-6-2 生きがいの有無(年齢別)



② 「生きがいの有無」×「居住地区」

居住地区別にみると、生きがいを感じている市民の割合は、小原が 87.6%と最も高く、次いで藤岡南が 82.3%となっています。一方、梅坪台が 67.0%と最も低く、次いで藤岡が 67.5%と低くなっています。

図表3-6-3 生きがいの有無(居住地区別)

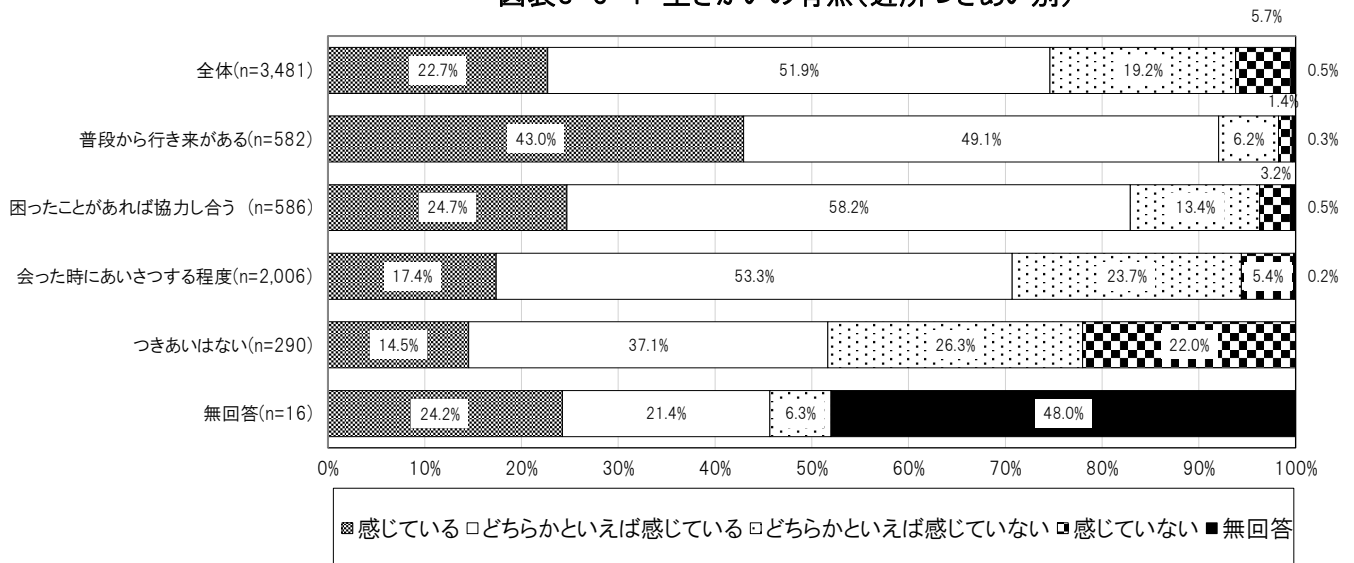


3) 設問間分析結果

① 「生きがいの有無」×「近所づきあい」

近所づきあい別にみると、「普段から行き来がある」と回答した市民で 92.1%と最も多くなっています。一方、「つきあいはない」と回答した市民の割合では 51.6%と低くなっています。近所づきあいがあるほど、生きがいを感じる傾向があります。

図表3-6-4 生きがいの有無(近所づきあい別)

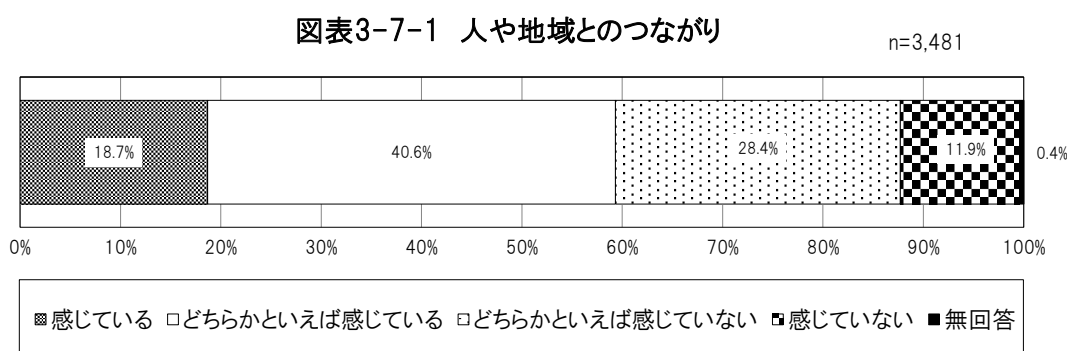


(3) 人や地域とのつながり

問 17	あなたは、暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じていますか。(1 つに ○)
------	---

1) 全体集計結果

暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている(「感じている」+「どちらかというと感じている」)と回答した市民の割合は 59.3%となっています。一方、つながりを感じていない(「どちらかというと感じていない」+「感じていない」)と回答した市民の割合は 40.3%となっています。

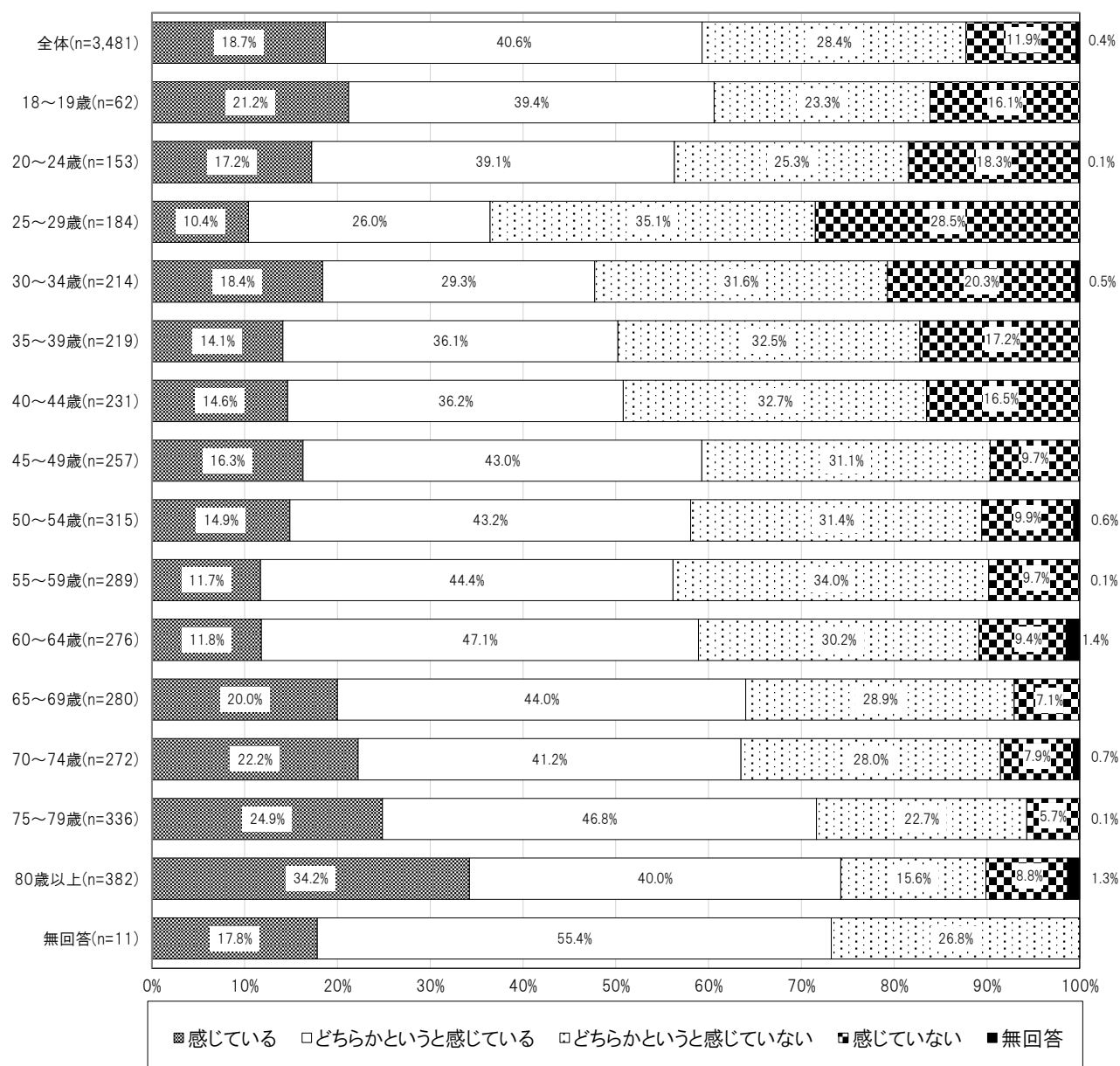


2) 属性分析結果

① 「人や地域とのつながり」×「年齢」

年齢別にみると、暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は 80 歳以上が 74.2%と最も高く、次いで 75～79 歳が 71.7%となっています。一方、25～29 歳が 36.4%と最も低くなっています。暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は、18～19 歳で約 60%となっていますが、20 代で低下し、30 歳を超えると年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあります。

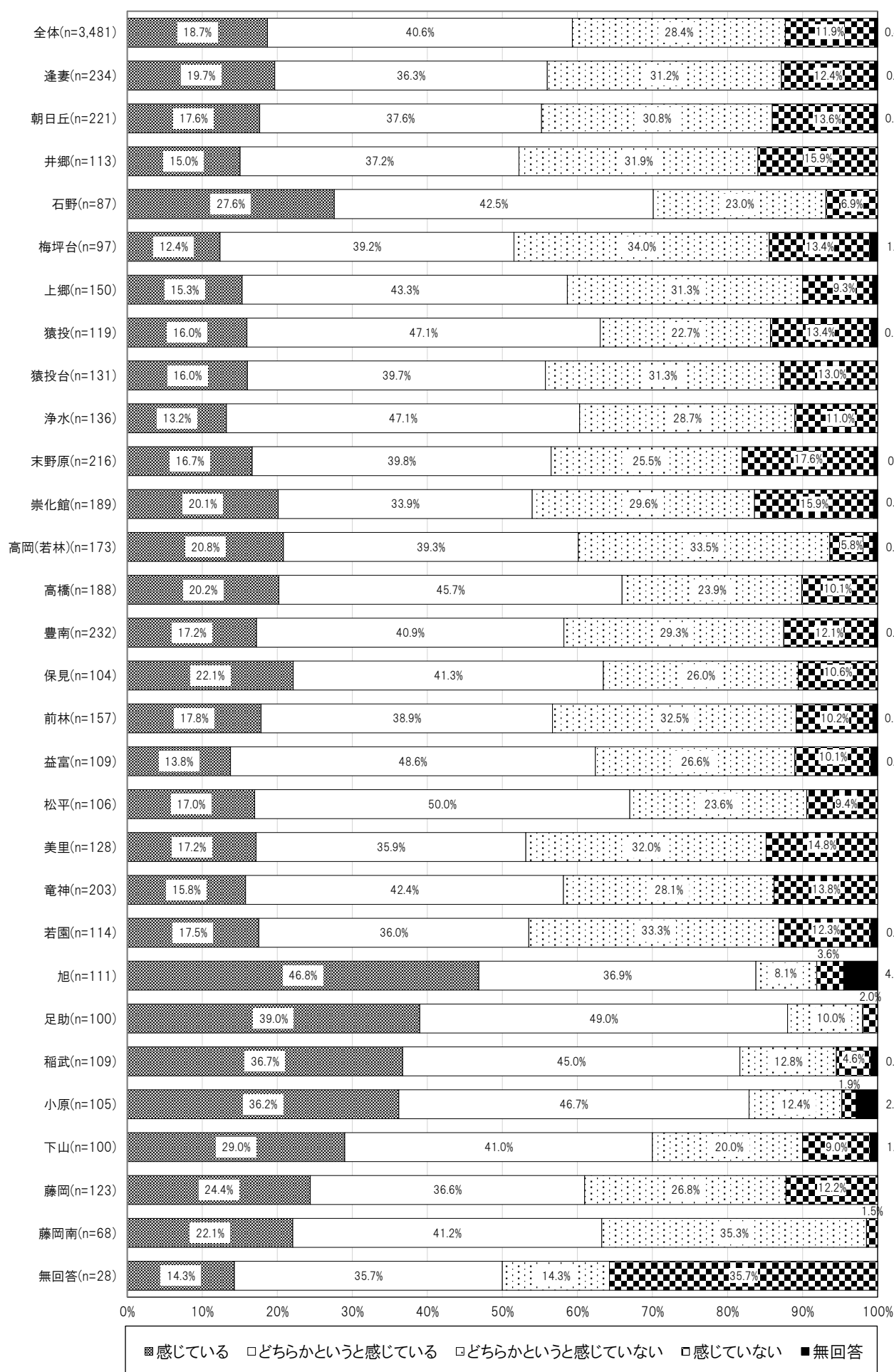
図表3-7-2 人や地域とのつながり(年齢別)



② 「人や地域とのつながり」×「居住地区」

居住地区別でみると、暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は足助が 88.0%と最も高く、次いで旭が 83.7%となっており、主に山村地域（旭、足助、稲武、小原、下山）や石野、松平で高い傾向にあります。一方、梅坪台が 51.6%と最も低く、次いで井郷が 52.2%となっています。

図表3-7-3 人や地域とのつながり(居住地区別)

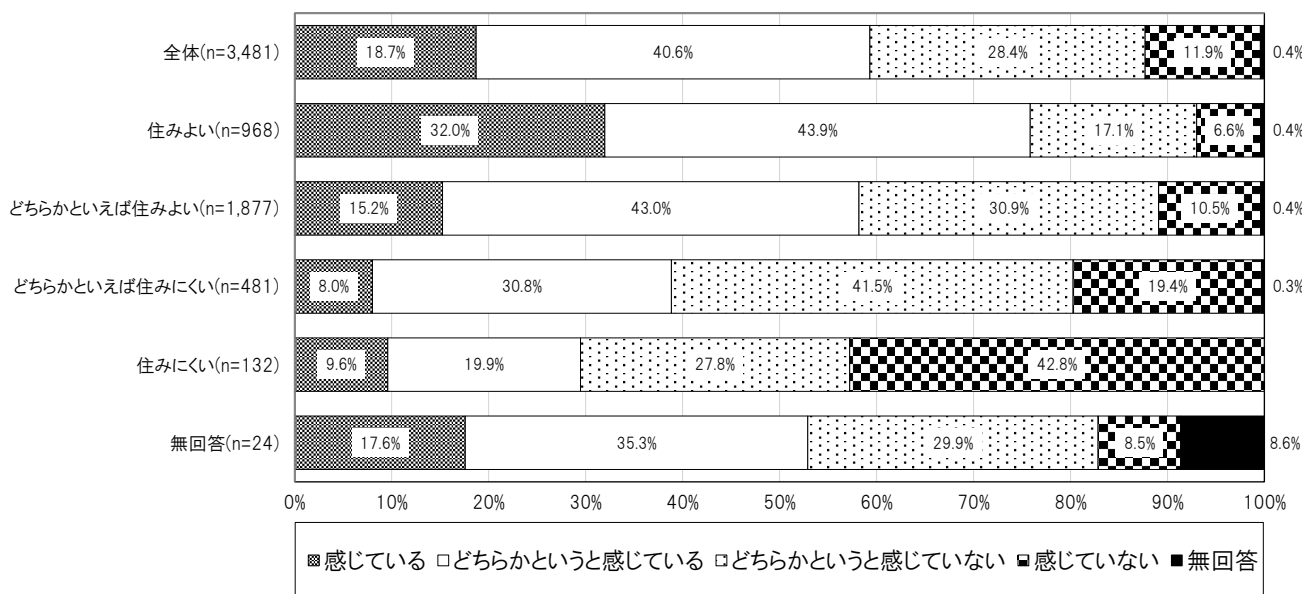


3) 設問間分析結果

① 「人や地域とのつながり」×「住みよさ」

住みよさ別にみると、暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 75.9%と最も高くなっています。一方、「住みにくい」と回答した市民では 29.5%と低くなっています。人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は、住みよいと感じる人ほど高い傾向にあります。

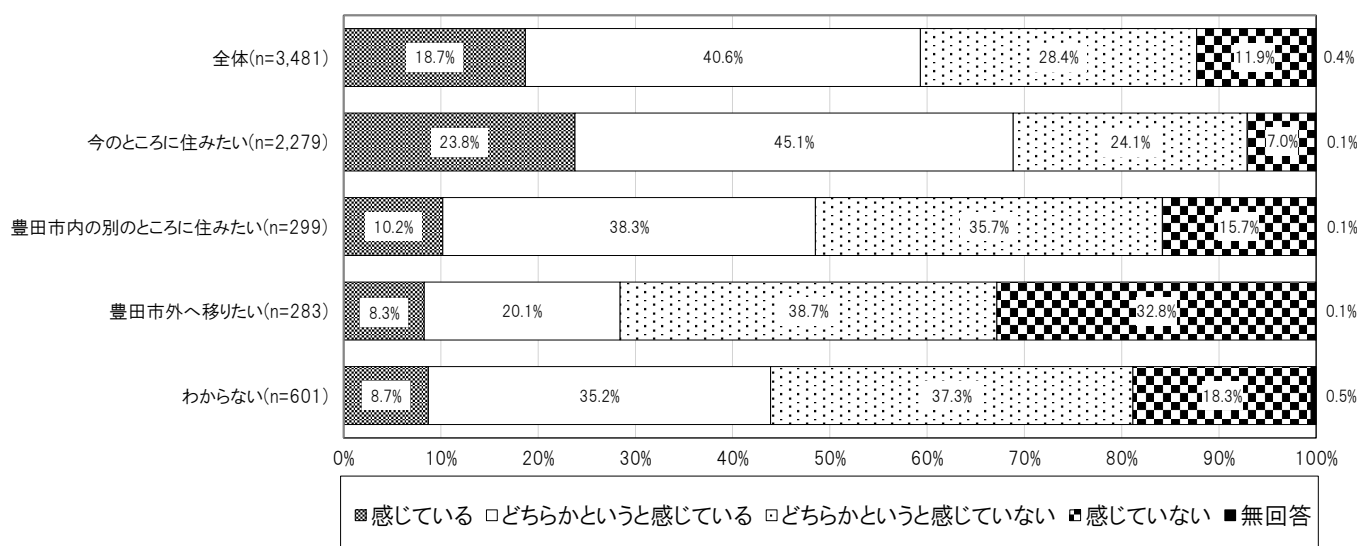
図表3-7-4 人や地域とのつながり(住みよさ別)



② 「人や地域とのつながり」×「定住意識」

定住意識別にみると、暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は、「今のところに住みたい」と回答した市民で 68.9%と最も高くなっています。一方、「豊田市外へ移りたい」と回答した市民では 28.4%と低くなっています。人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は、定住意識が高いほど高い傾向にあります。

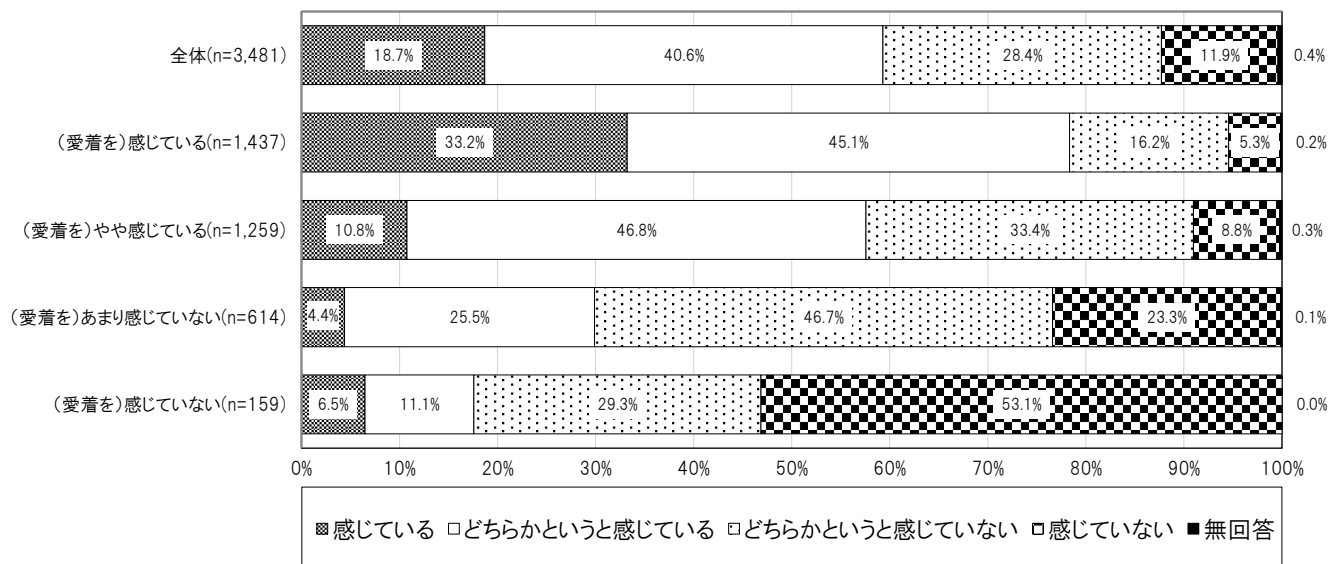
図表3-7-5 人や地域とのつながり(定住意識別)



③ 「人や地域とのつながり」×「豊田市や居住地域への愛着」

豊田市や居住地域への愛着別にみると、暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は、「(愛着を) 感じている」と回答した市民で 78.3%と最も高くなっています。一方、「(愛着を) 感じていない」と回答した市民では 17.6%と低くなっています。人や地域とのつながりを感じる市民の割合は、愛着を感じる人ほど高い傾向にあります。

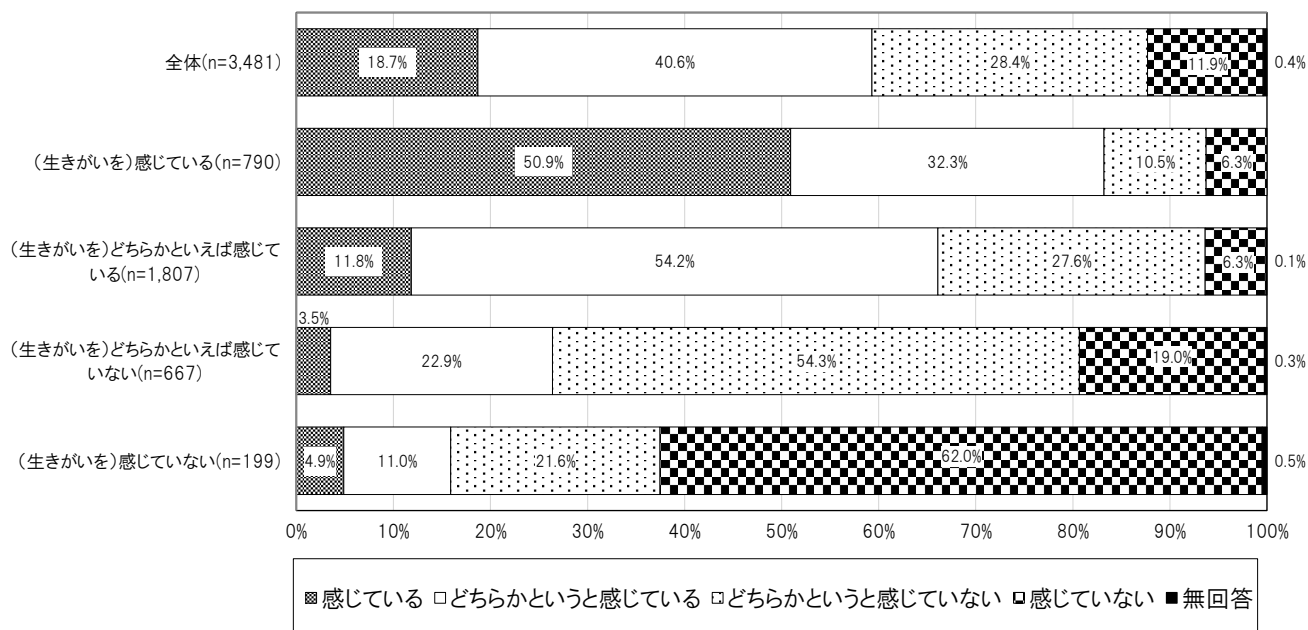
図表3-7-6 人や地域とのつながり(豊田市や居住地域への愛着別)



④ 「人や地域とのつながり」×「生きがいの有無」

生きがい別にみると、暮らしの中で人や地域とのつながりがあると感じている市民の割合は、「(生きがいを) 感じている」と回答した市民で 83.2%と最も高くなっています。一方、「(生きがいを) 感じていない」と回答した市民では 15.9%と低くなっています。人や地域とのつながりを感じる市民の割合は、生きがいを感じる人ほど高い傾向にあります。

図表3-7-7 人や地域とのつながり(生きがいの有無別)



(4) 自分らしく過ごせる場所の有無

問 18

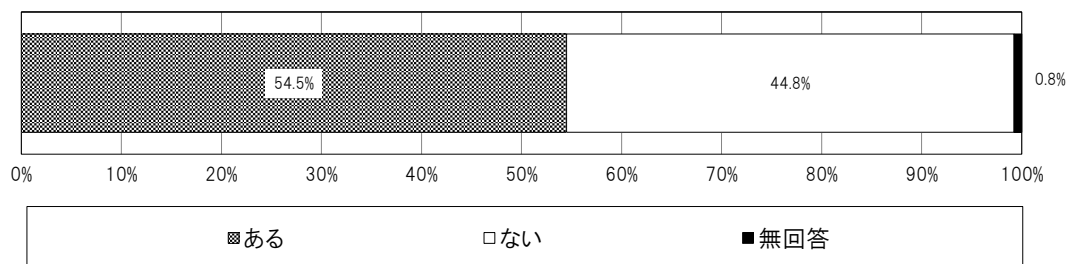
あなたは、家、学校、職場以外に、自分らしく過ごせる場所がありますか。
(1 つに○)

1) 全体集計結果

家、学校、職場以外に、自分らしく過ごせる場所が「ある」と回答した市民の割合は 54.5% でした。一方、ないと回答した市民の割合は 44.8% でした。

図表3-8-1 自分らしく過ごせる場所

n=3,481

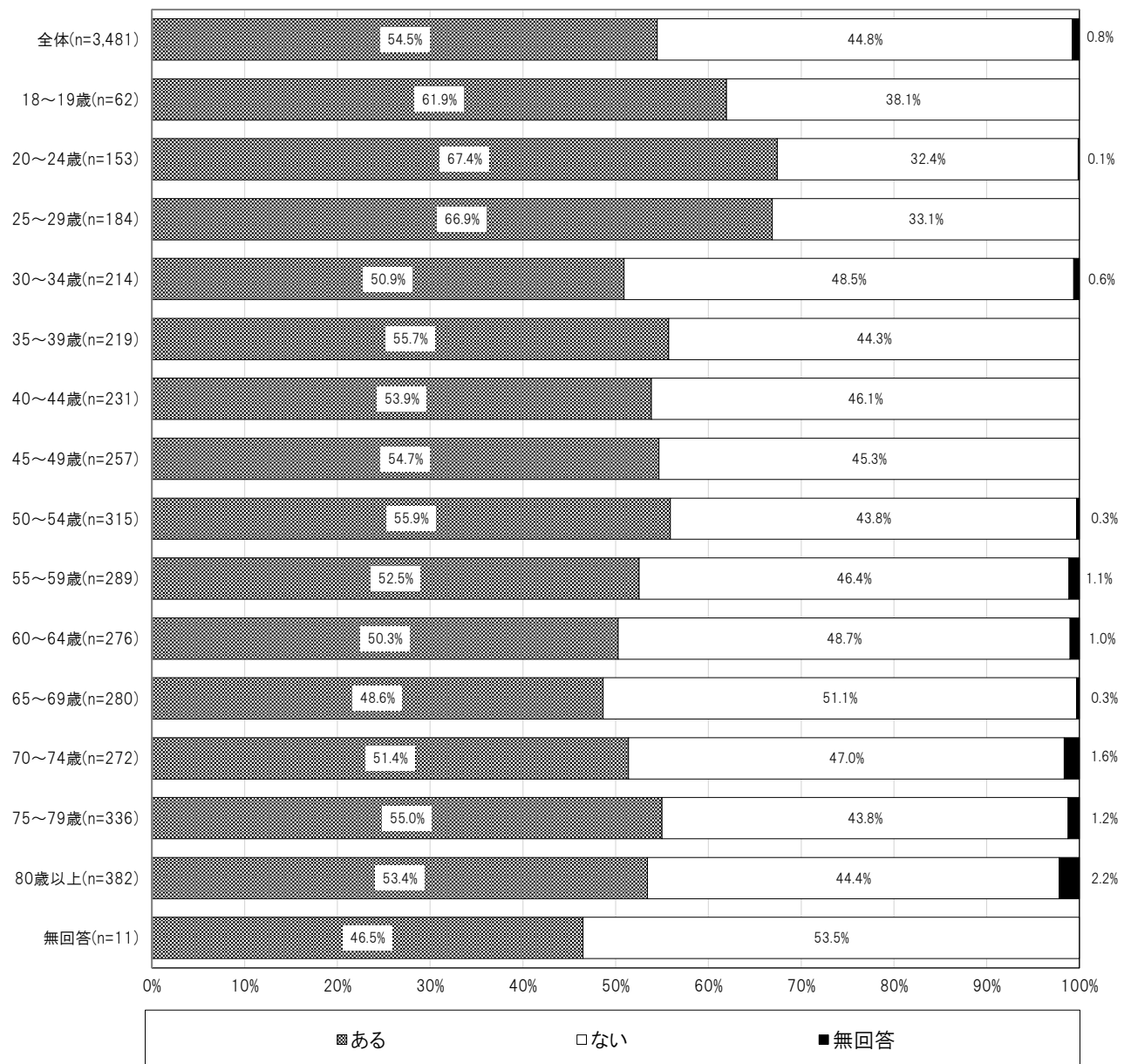


2) 属性分析結果

① 「自分らしく過ごせる場所の有無」×「年齢」

年齢別にみると、家、学校、職場以外に、自分らしく過ごせる場所が「ある」と回答した市民の割合は、20～24 歳が 67.4%と最も高く、次いで 25～29 歳が 66.9%となっています。一方、65～69 歳が 48.6%、60～64 歳が 50.3%と低くなっています。

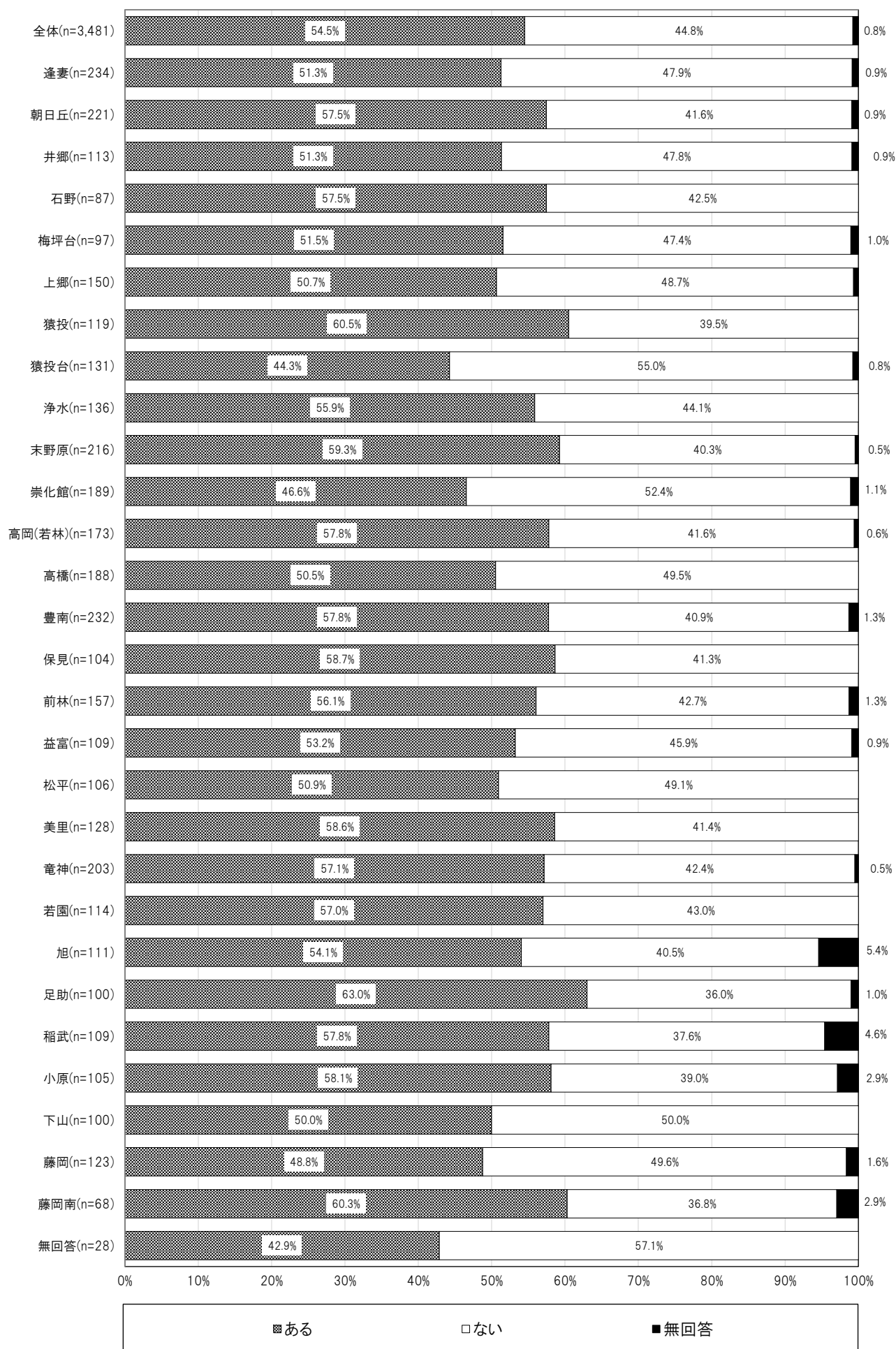
図表3-8-2 自分らしく過ごせる場所(年齢別)



② 「自分らしく過ごせる場所の有無」×「居住地区」

居住地区別にみると、自分らしく過ごせる場所が「ある」と回答した市民の割合は、足助が63.0%と最も高く、次いで猿投が60.5%、藤岡南が60.3%となっています。一方、猿投台は44.3%と最も低く、次いで崇化館が46.6%、藤岡が48.8%と低くなっています。

図表3-8-3 自分らしく過ごせる場所(居住地区別)

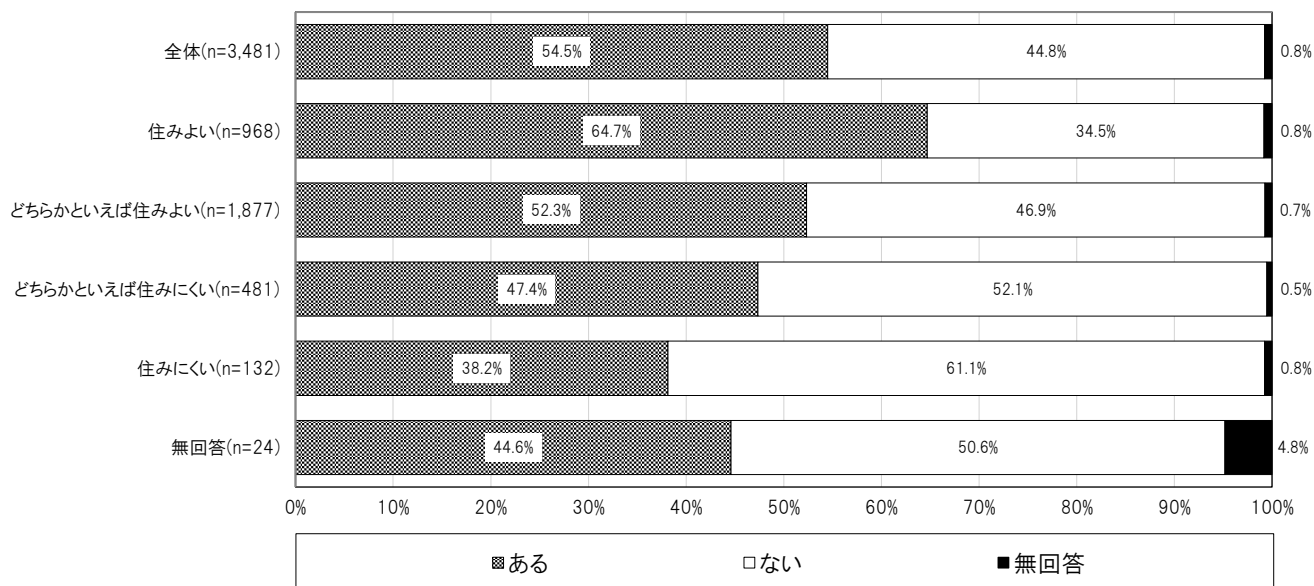


3) 設問間分析結果

① 「自分らしく過ごせる場所の有無」×「住みよさ」

住みよさ別にみると、自分らしく過ごせる場所が「ある」と回答した市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 64.7%と最も高くなっています。一方、「住みにくい」と回答した市民では 38.2%と最も低くなっています。住みよいと感じる人ほど、自分らしく過ごせる場所があると感じる傾向があります。

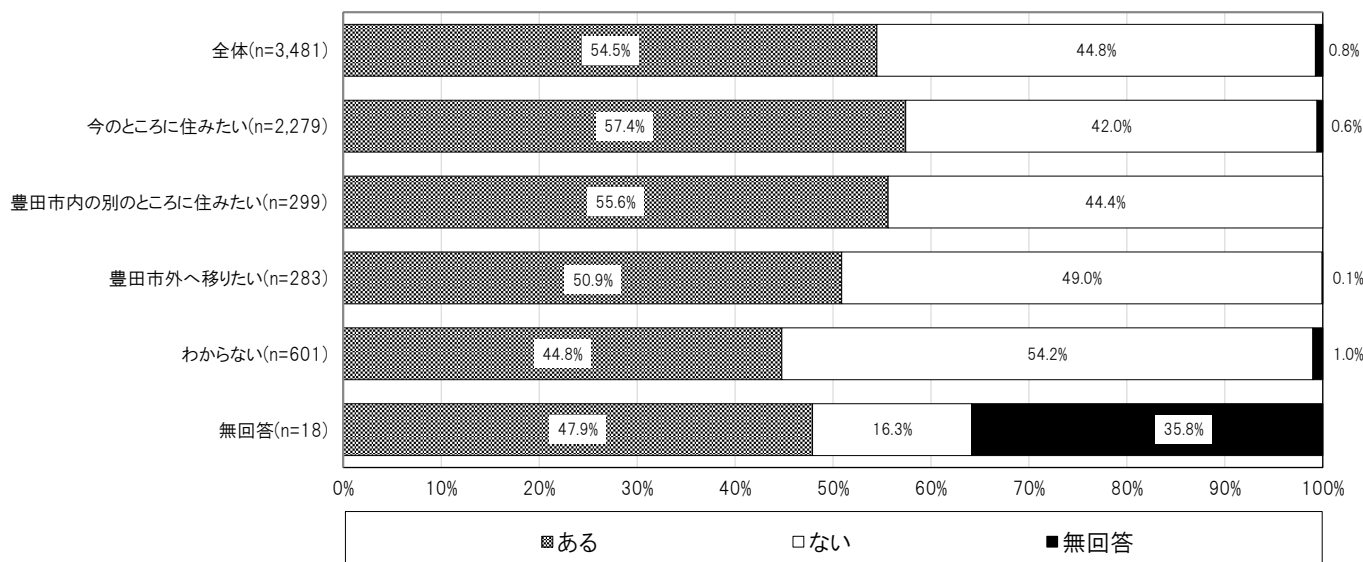
図表3-8-4 自分らしく過ごせる場所(住みよさ別)



② 「自分らしく過ごせる場所の有無」×「定住意識」

定住意識別にみると、自分らしく過ごせる場所が「ある」と回答した市民の割合は、「今のところに住みたい」と回答した市民で 57.4%と最も高くなっています。一方、「わからない」と回答した市民では 44.8%と最も低くなっています。

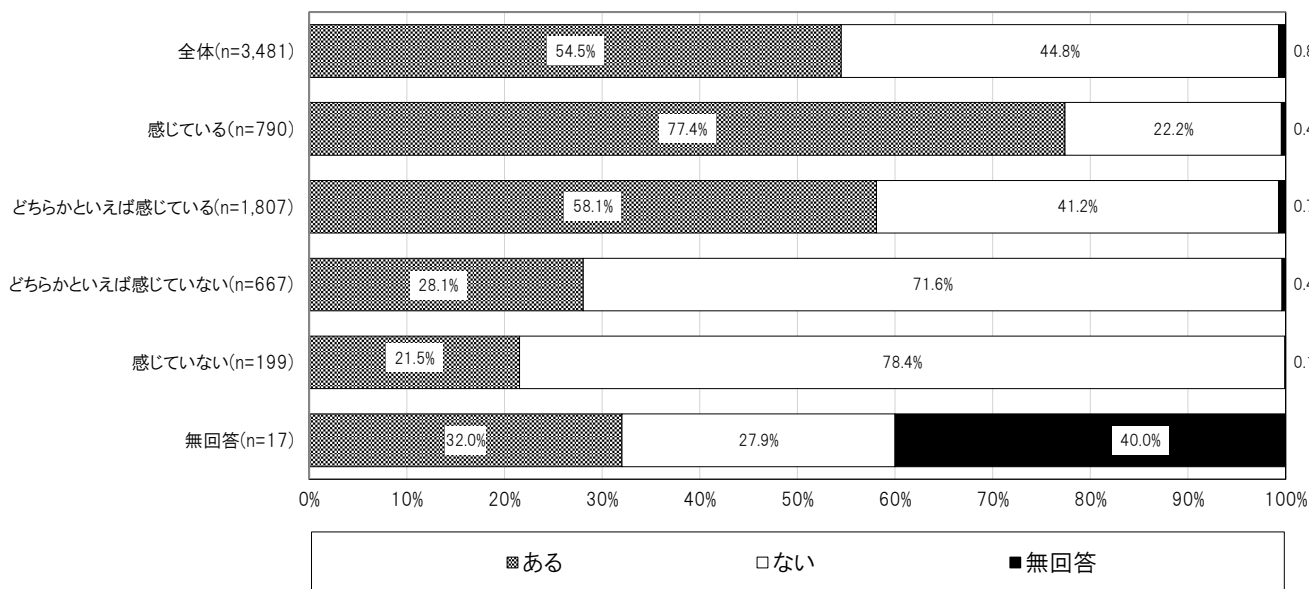
図表3-8-5 自分らしく過ごせる場所(定住意識別)



③ 「自分らしく過ごせる場所の有無」×「生きがいの有無」

生きがい別にみると、自分らしく過ごせる場所があると回答した市民の割合は、生きがいを「感じている」と回答した市民で 77.4%と最も高くなっています。一方、生きがいを「感じていない」と回答した市民では 21.5%と最も低くなっています。生きがいを感じる人ほど、自分らしく過ごせる場所があると感じる傾向があります。

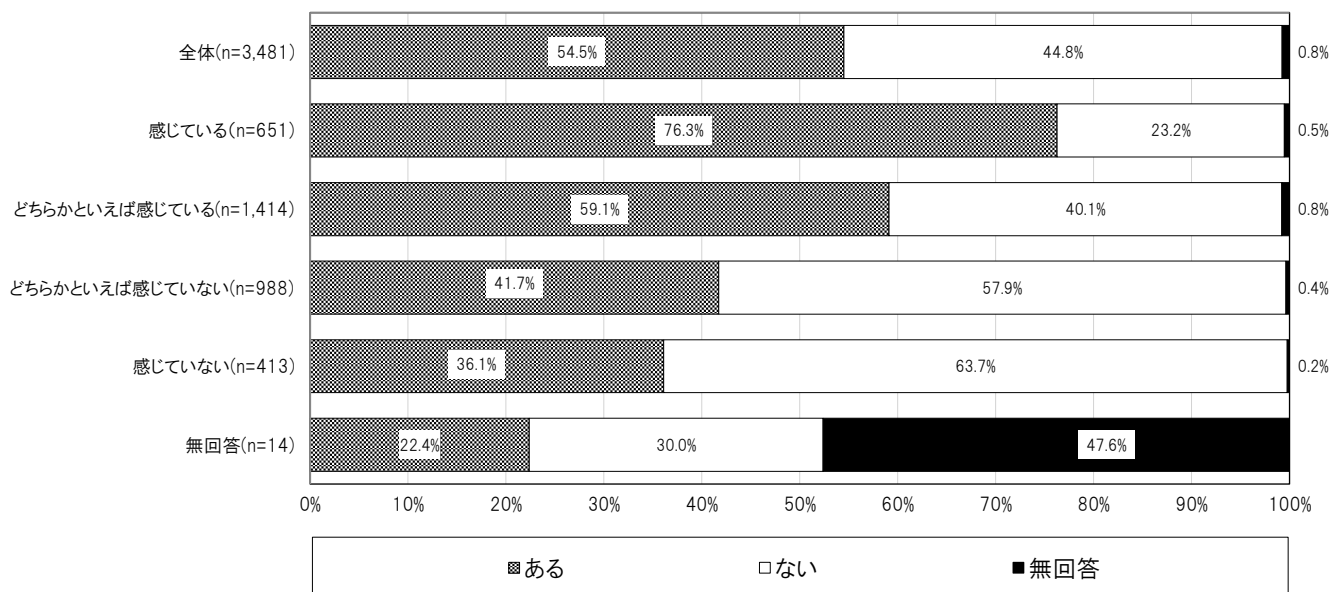
図表3-8-6 自分らしく過ごせる場所(生きがいの有無別)



④ 「自分らしく過ごせる場所の有無」×「人や地域とのつながりの有無」

人や地域とのつながりの有無別にみると、自分らしく過ごせる場所が「ある」と回答した市民の割合は、「つながりを感じている」と回答した市民で 76.3%と最も高くなっています。一方、「つながりを感じていない」と回答した市民では 36.1%と最も低くなっています。人や地域とのつながりを感じる人ほど、自分らしく過ごせる場所があると感じる傾向があります。

図表3-8-7 自分らしく過ごせる場所(人や地域とのつながりの有無別)



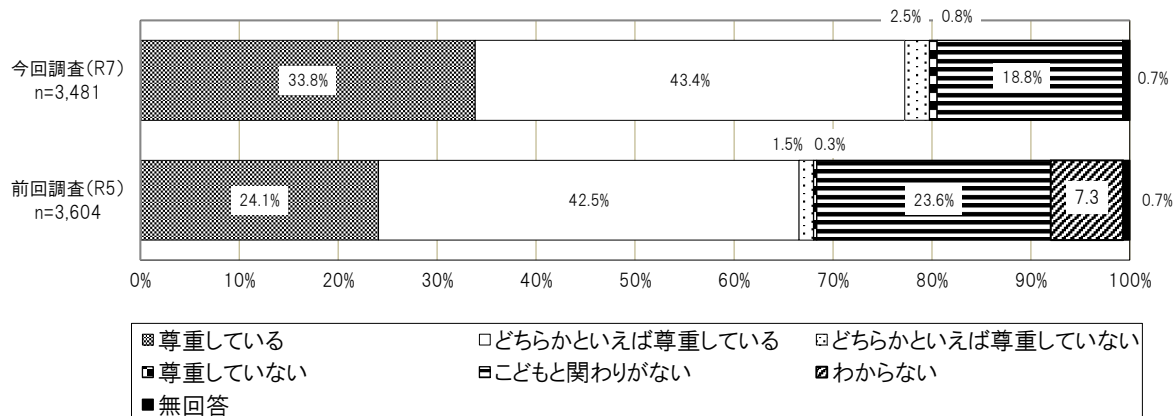
(5) こどもの意見の尊重

問 19 あなたは、自分と関わりのあるこどもの意見を尊重していますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

自分と関わりのあるこどもの意見を尊重していると回答した市民の割合(「尊重している」+「どちらかといえば尊重している」)は 77.2% となっており、前回調査と比較すると 10.6 ポイント増加しています。一方、尊重していない(「どちらかといえば尊重していない」+「尊重していない」)と回答した市民の割合は 3.3% で、前回調査から 1.5 ポイント増加しています。

図表3-9-1 こどもの意見の尊重(性別)(前回調査との比較) ※今回調査から「わからない」を削除

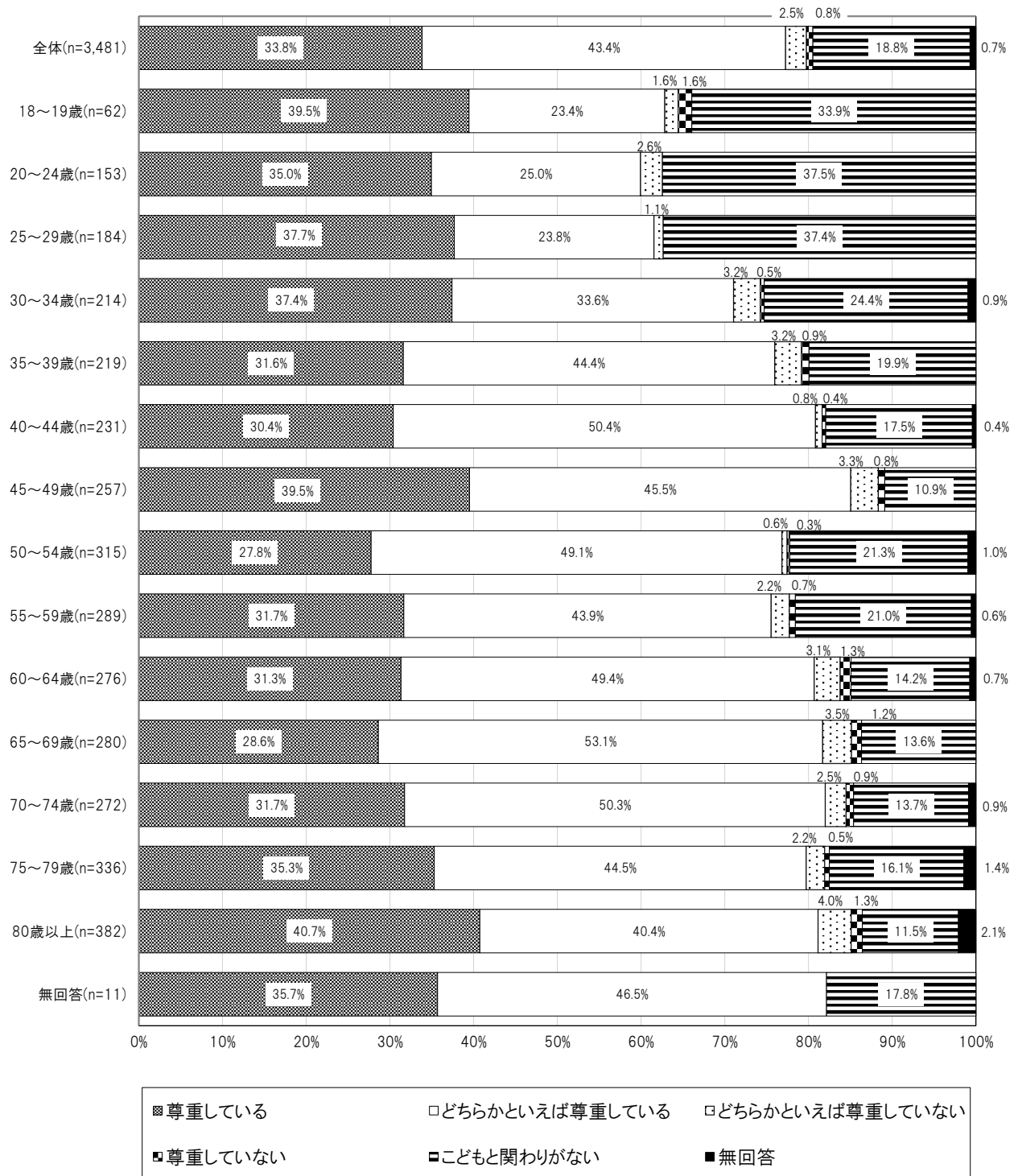


2) 属性分析結果

① 「こどもの意見の尊重」×「年齢」

年齢別にみると、自分と関わりのあるこどもの意見を尊重していると回答した市民の割合は、45～49 歳が 85.0% と最も高く、次いで 70～74 歳の 82.0%、65～69 歳が 81.7% となっています。一方、20～24 歳が 60.0% と最も低く、次いで 25～29 歳が 61.5%、18～19 歳が 62.9% となっています。

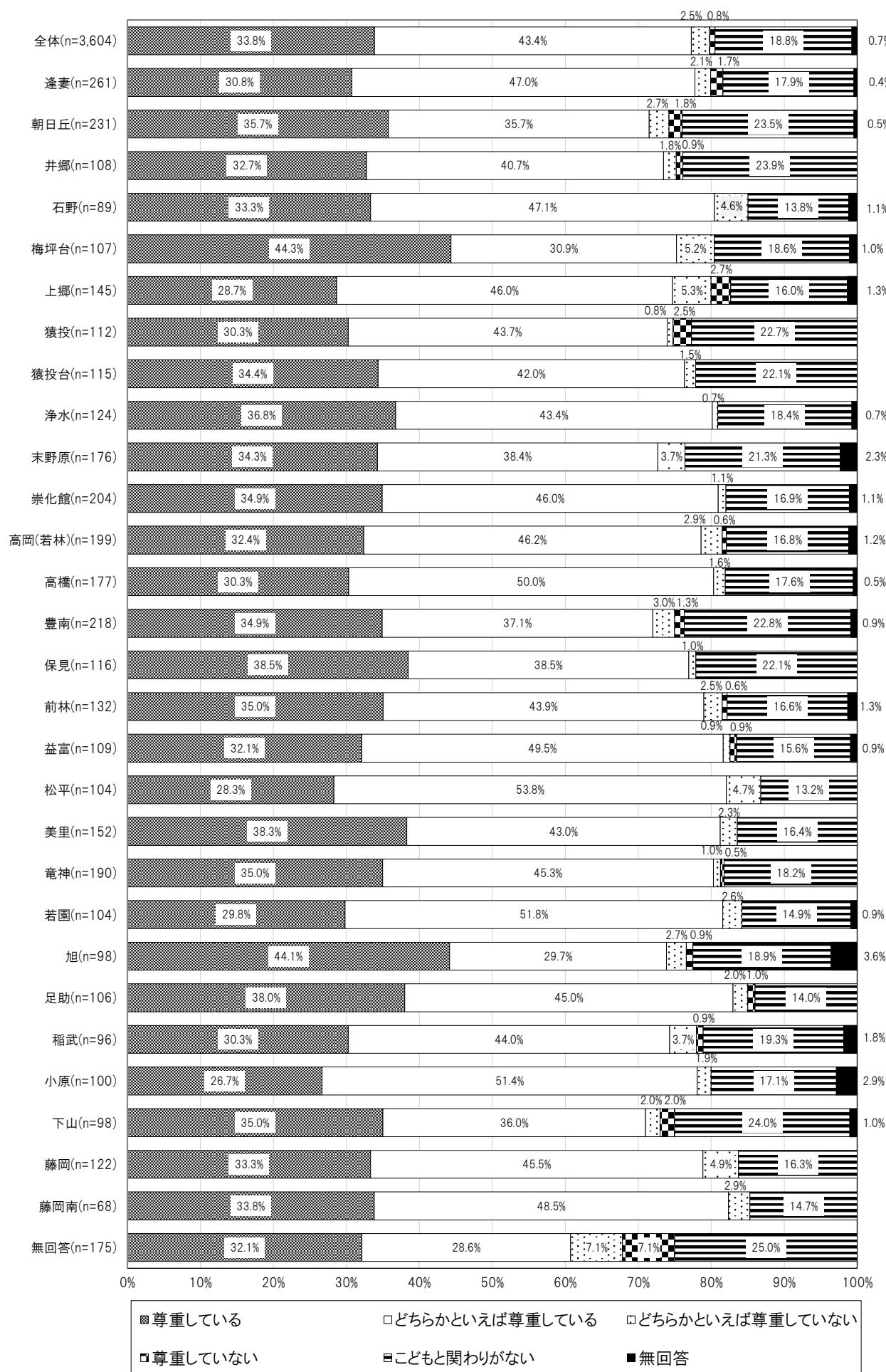
図表3-9-2 こどもの意見の尊重(年齢別)



② 「こどもの意見の尊重」×「居住地区」

居住地区別にみると、自分と関わりのあるこどもの意見を尊重していると回答した市民の割合は、足助が 83.0%と最も高く、次いで藤岡南の 82.3%、松平の 82.1%となっています。一方、下山が 71.0%と最も低いですが、すべての地区で 70%を超えています。

図表3-9-3 こどもの意見の尊重(居住地区別)



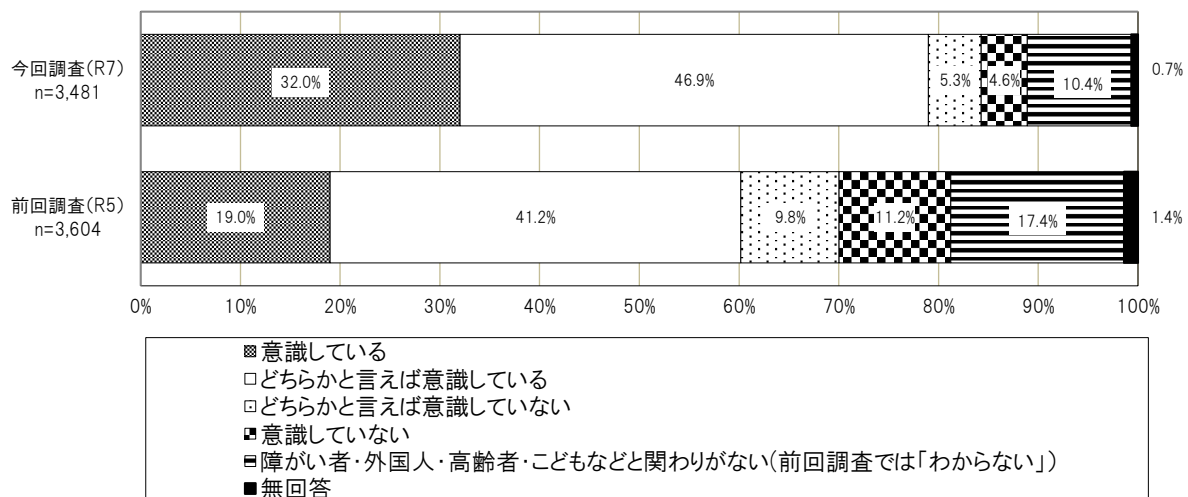
(6) 要配慮者との意思疎通に関する意識

問 20	あなたは、障がい者・外国人・高齢者・子どもなどへ情報発信や会話をする際に、分かりやすい表現や伝え方を意識していますか。(1 つに○)
------	--

1) 全体集計結果

日常生活や仕事・地域などで活動する中で、障がい者・外国人・高齢者・子どもなどへ情報発信や会話をする際に、分かりやすい表現や伝え方を意識しているかについて、意識している（「意識している」＋「どちらかと言えば意識している」）と回答した市民の割合は 78.9%で、前回調査と比較すると 18.7 ポイント増加しています。一方、意識していない（「どちらかと言えば意識していない」＋「意識していない」）と回答した市民の割合は 9.9%で、前回調査と比較すると 11.1 ポイント減少しています。

図表3-10-1 要配慮者との意思疎通に関する意識(前回調査との比較)

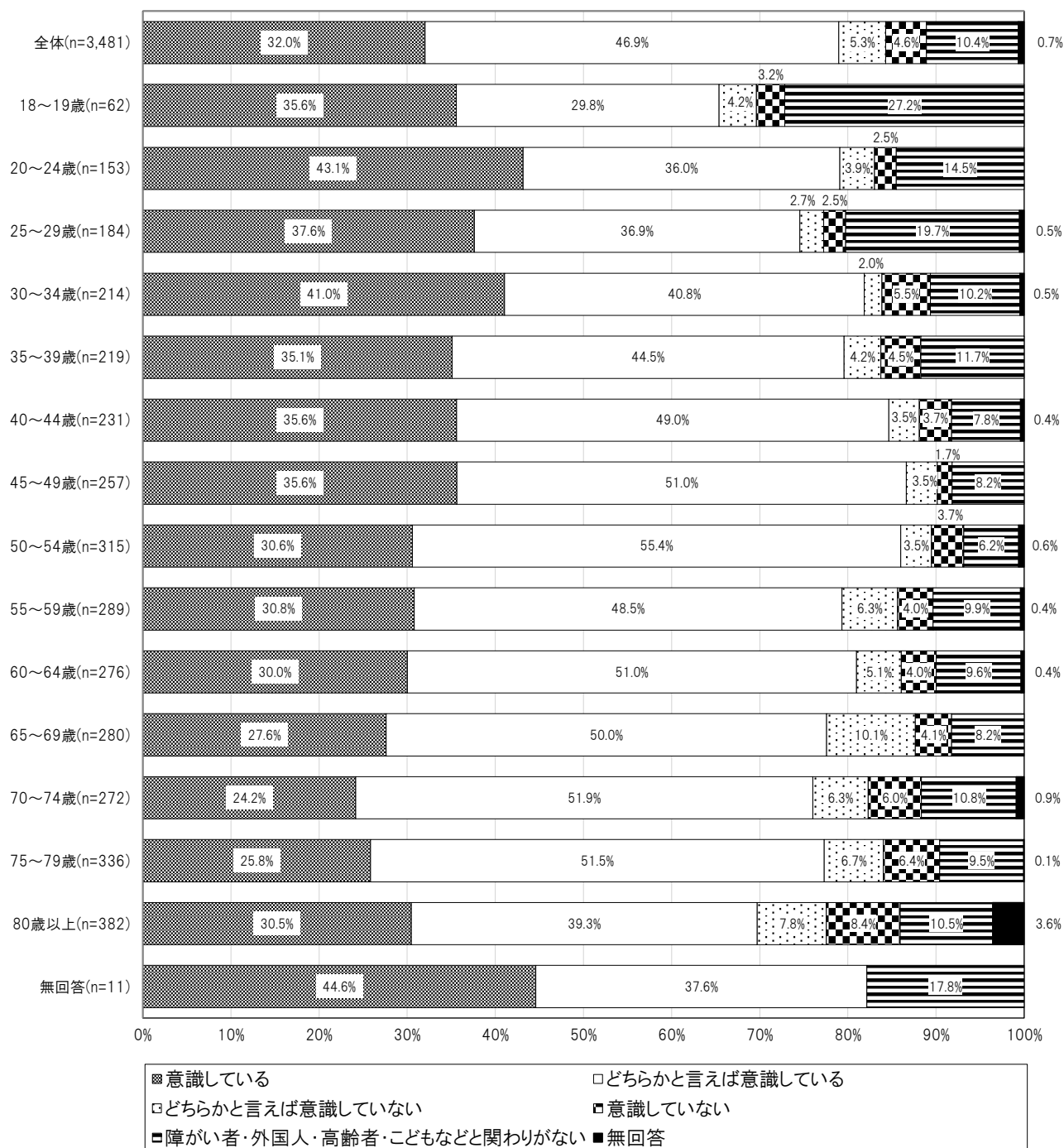


2) 属性分析結果

① 「要配慮者との意思疎通に関する意識」×「年齢」

年齢別にみると、意識していると回答した市民の割合は、45～49 歳が 86.6%と最も高く、次いで 50～54 歳が 86.0%、40～44 歳が 84.6%となっています。一方、意識していないと回答した市民の割合は、80 歳以上が 16.2%と最も高く、次いで 65～69 歳が 14.2%、75～79 歳が 13.1%となっています。

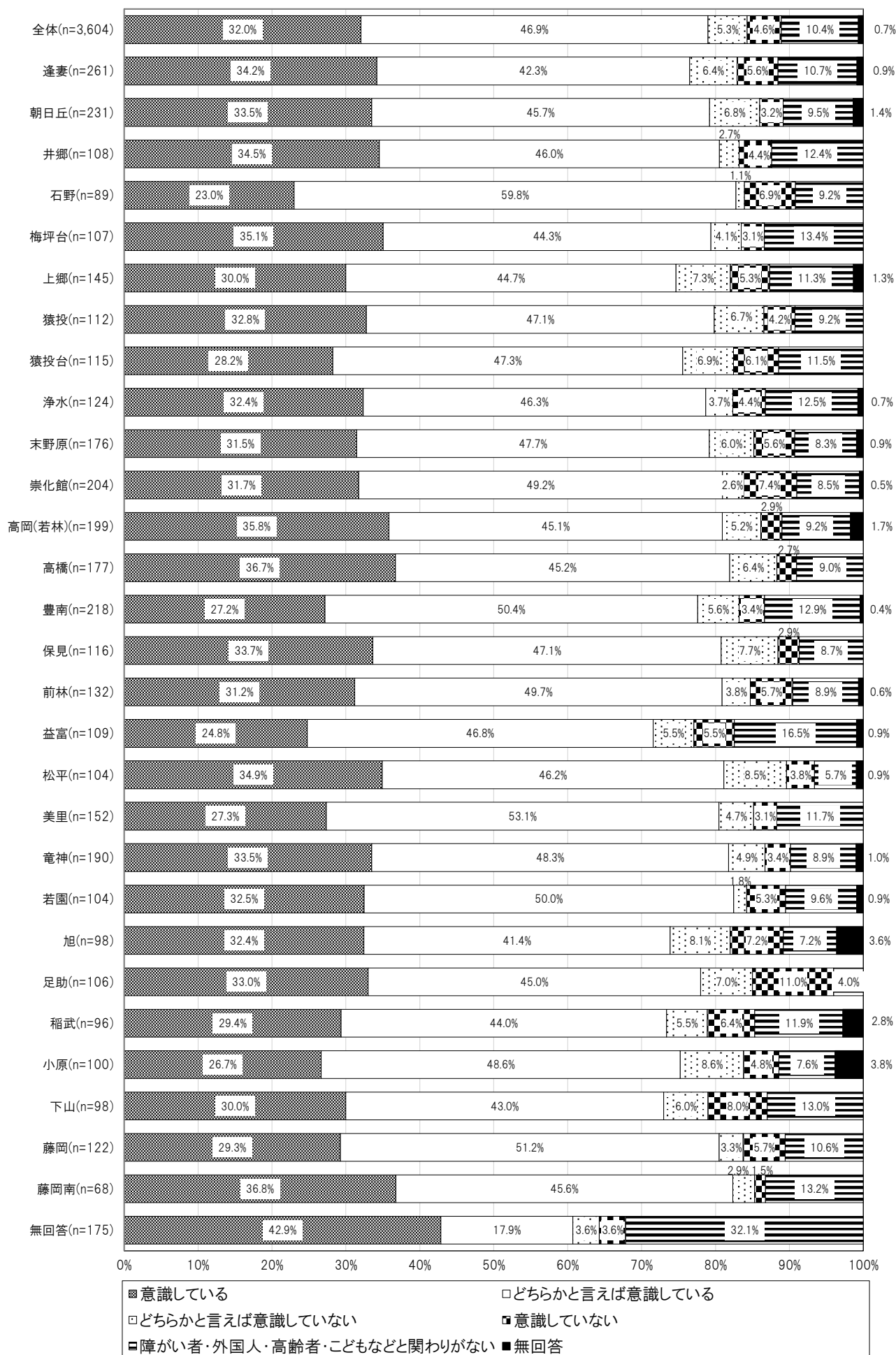
図表3-10-2 要配慮者との意思疎通に関する意識(年齢別)



② 「要配慮者との意思疎通に関する意識」×「居住地区」

居住地区別にみると、意識していると回答した市民の割合は、石野が 82.8%と最も高く、次いで若園が 82.5%、藤岡南が 82.4%となっています。一方、益富が 71.6%、下山が 73.0%、稲武が 73.4%と低くなっています。

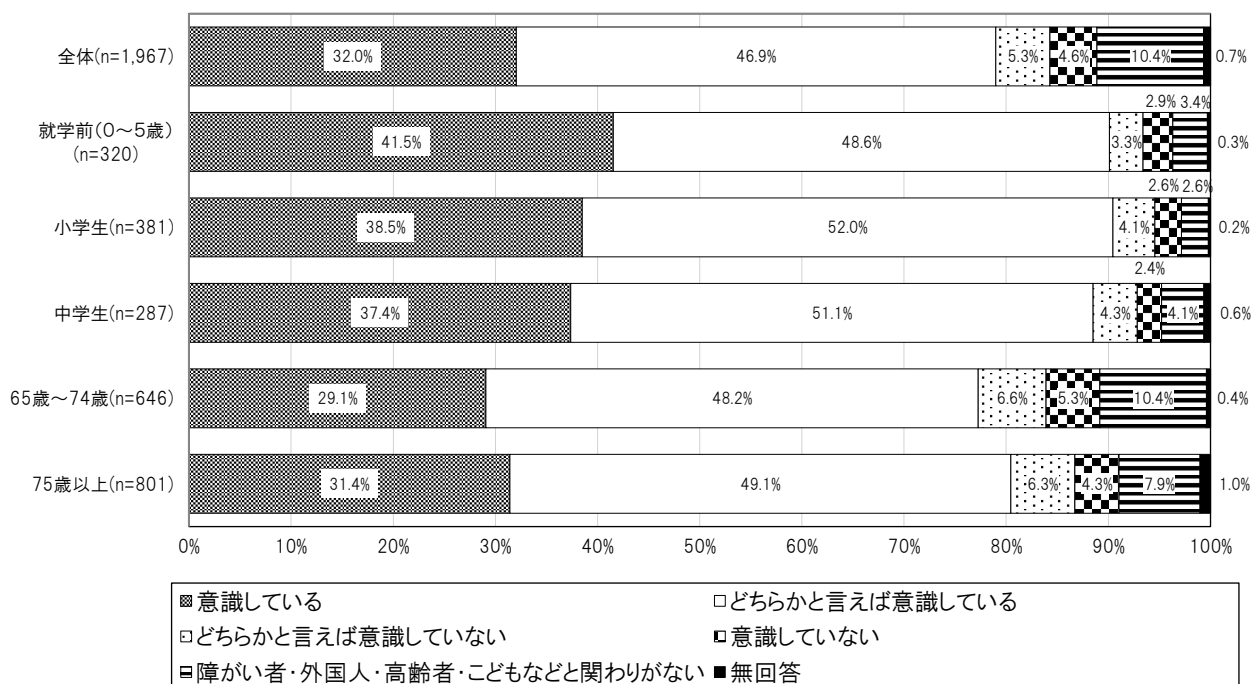
図表3-10-3 要配慮者との意思疎通に関する意識(居住地区別)



③ 「要配慮者との意思疎通に関する意識」×「同居の家族」

同居の家族別にみると、乳幼児、小中学生と同居している市民が、分かりやすい表現や伝え方を意識している傾向にあります。

図表3-10-4 要配慮者との意思疎通に関する意識(同居の家族別)



3 災害への備え

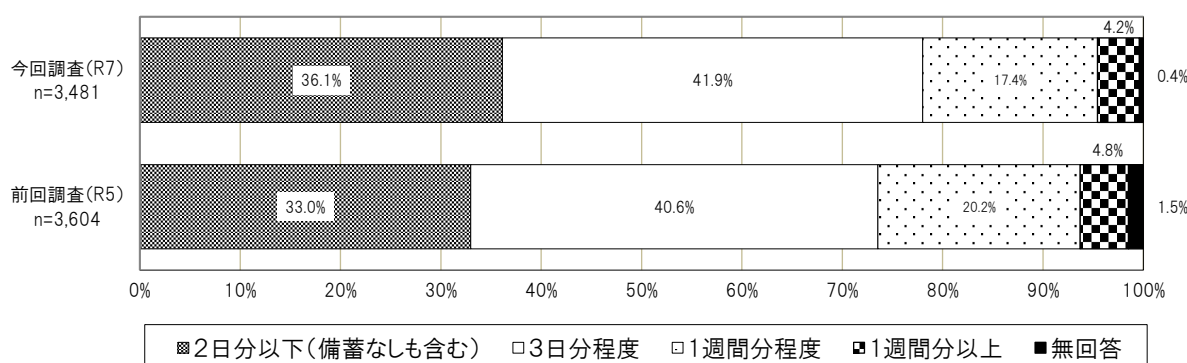
(1) 食料、飲料の備蓄

問 21	あなたは、どれくらい食料、飲料水（冷蔵庫や倉庫などに保管している食料、飲料水も含む。）を備蓄していますか。（1 つに○）
------	--

1) 全体集計結果

食料、飲料の備蓄状況は、「3 日分程度」が 41.9%と最も多く、前回調査と比較して 1.3 ポイント増加しています。また、「3 日分程度以上」の備蓄をしていると回答をした市民の割合は、63.5%であり、前回調査から 2.1 ポイント減少しています。

図表3-11-1 食料・飲料の備蓄（前回調査との比較）

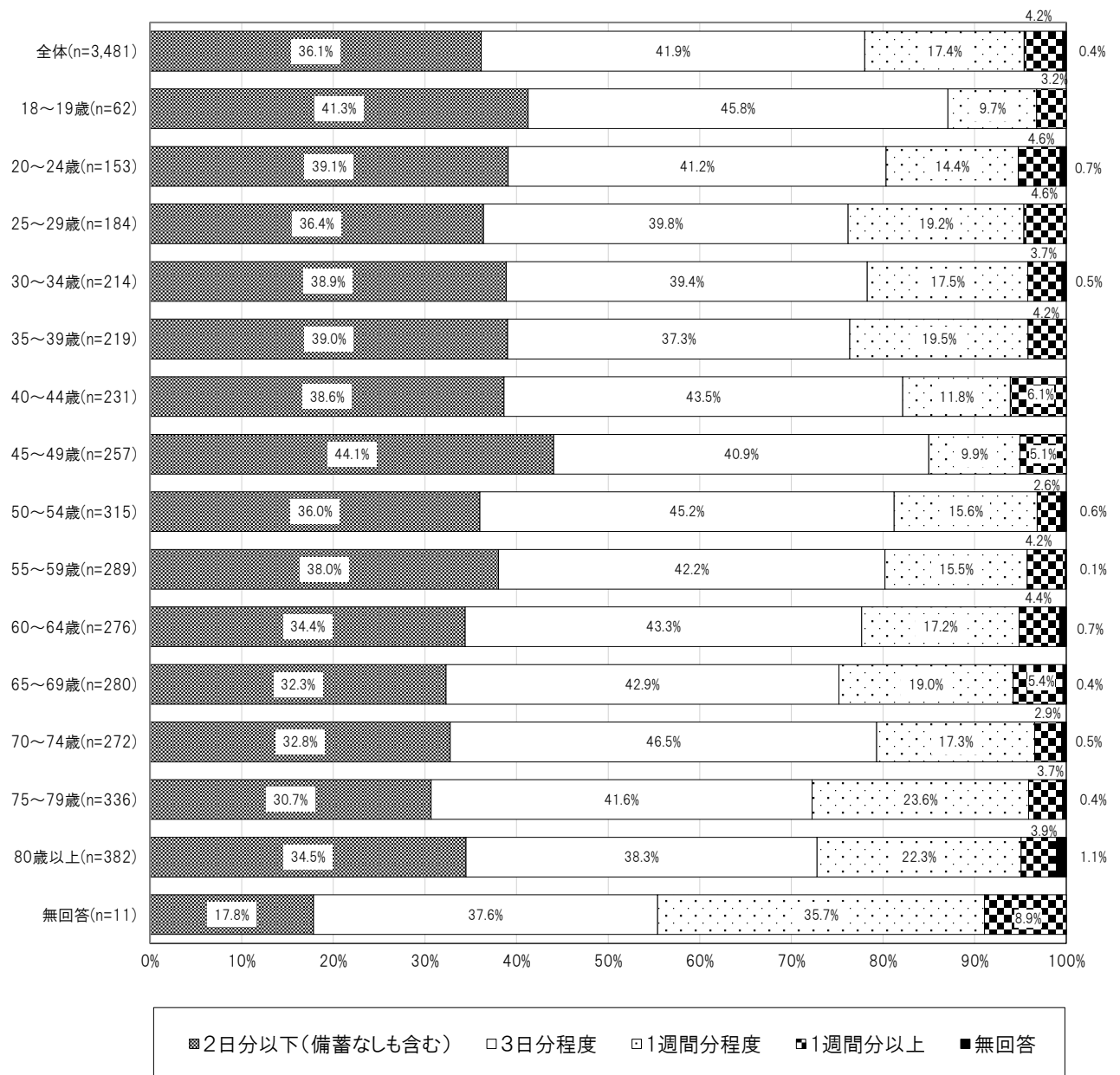


2) 属性分析結果

① 「食料・飲料の備蓄」×「年齢」

年齢別にみると、「3 日分程度以上」の備蓄をしていると回答した市民の割合は、75～79 歳が 68.9%と最も高く、次いで 65～69 歳が 67.3%、70～74 歳が 66.7%となっています。また、「2 日分以下（備蓄なしも含む）」と回答した市民の割合は、45～49 歳が 44.1%、18～19 歳が 41.3%と高くなっています。

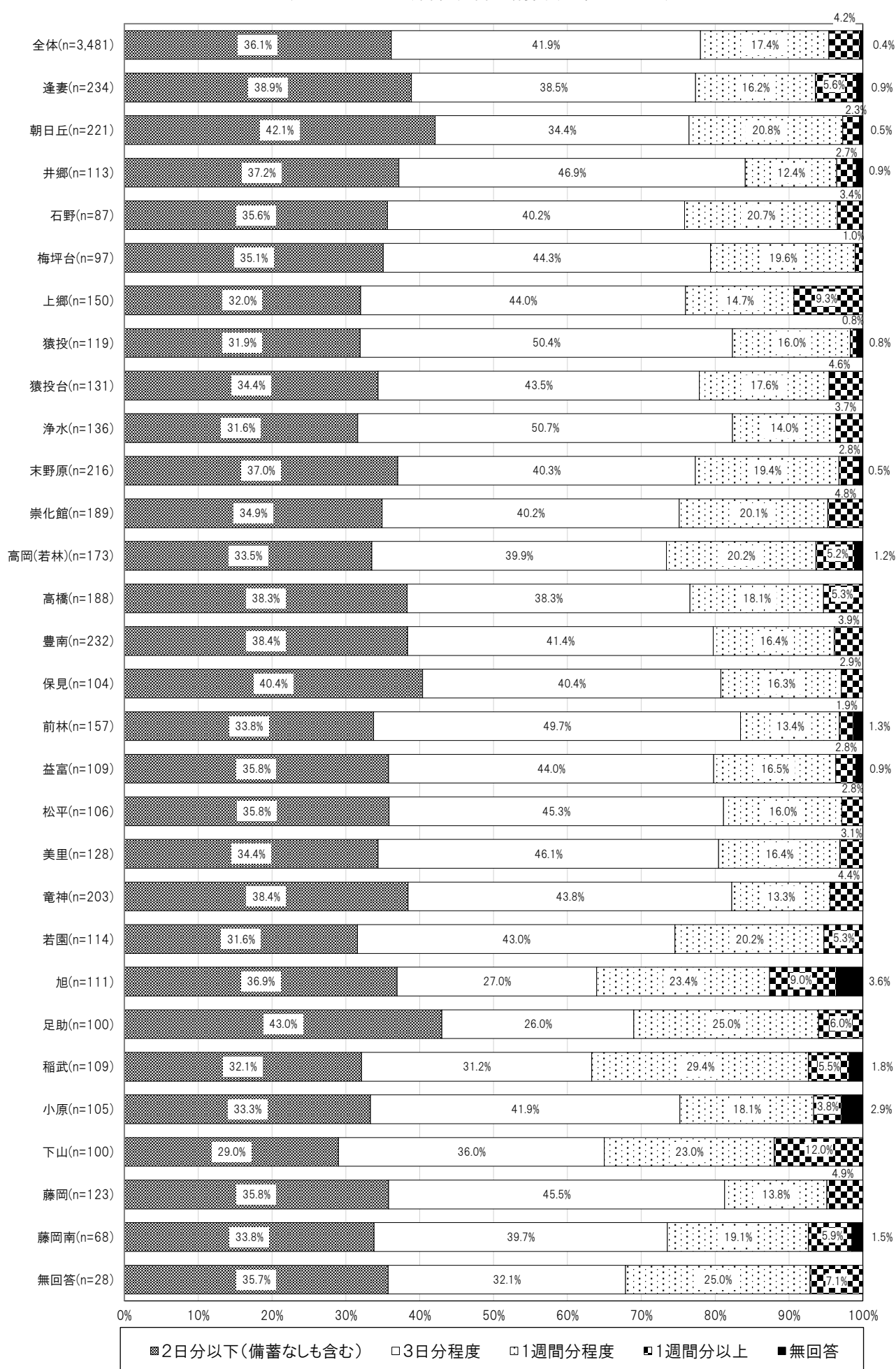
図表3-11-2 飲料、食料の備蓄(年齢別)



② 「食料・飲料の備蓄」×「居住地区」

居住地区別にみると、「3日分程度以上」の備蓄をしていると回答した市民の割合は、下山が71.0%と最も高く、次いで若園が68.5%、浄水が68.4%となっています。また、「2日分以下(備蓄なしも含む)」と回答した市民の割合は、足助が43.0%と最も高く、朝日丘が42.1%となっています。

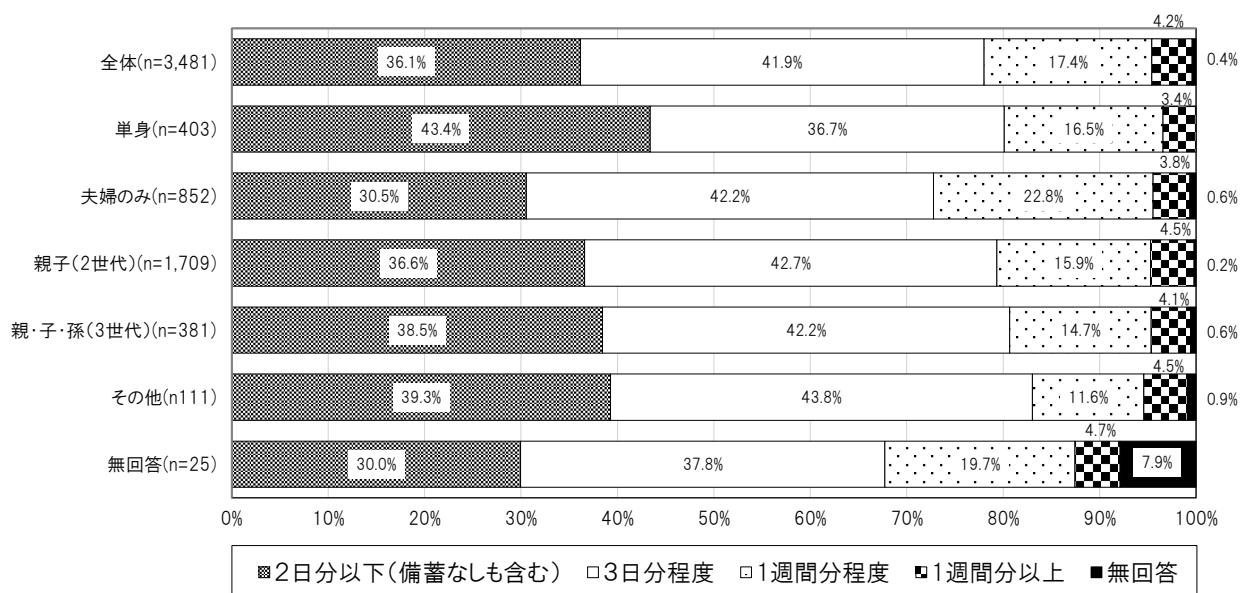
図表3-11-3 食料、飲料の備蓄(居住地区別)



③ 「食料・飲料の備蓄」×「家族構成」

家族構成別にみると、「3日分程度以上」の備蓄をしていると回答した市民の割合は、夫婦のみ世帯の68.8%が最も高く、次いで親子（2世代）世帯が63.1%となっています。「2日分以下（備蓄なしも含む）」と回答した市民の割合は、単身世帯が43.4%と最も高くなっています。

図表3-11-4 食料、飲料の備蓄(家族構成別)



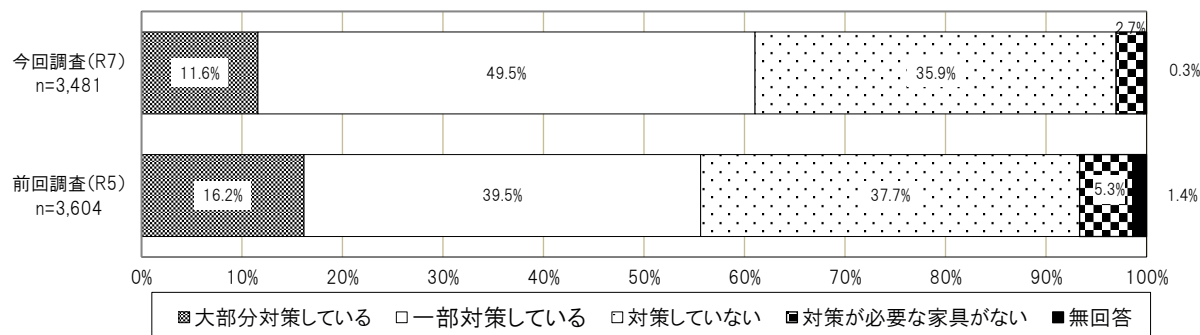
(2) 家具の転倒防止対策

問 22	あなたは、家具（例：タンス、棚、書庫、テレビ、冷蔵庫、ピアノなど）の転倒防止対策を行っていますか。（1 つに○）
-------------	--

1) 全体集計結果

家具の転倒防止対策をしている（「大部分対策している」＋「一部対策している」）と回答した市民の割合は、61.1%となっており、前回調査と比較して 5.4 ポイント増加しています。

図表3-12-1 家具の転倒防止対策(前回調査との比較)

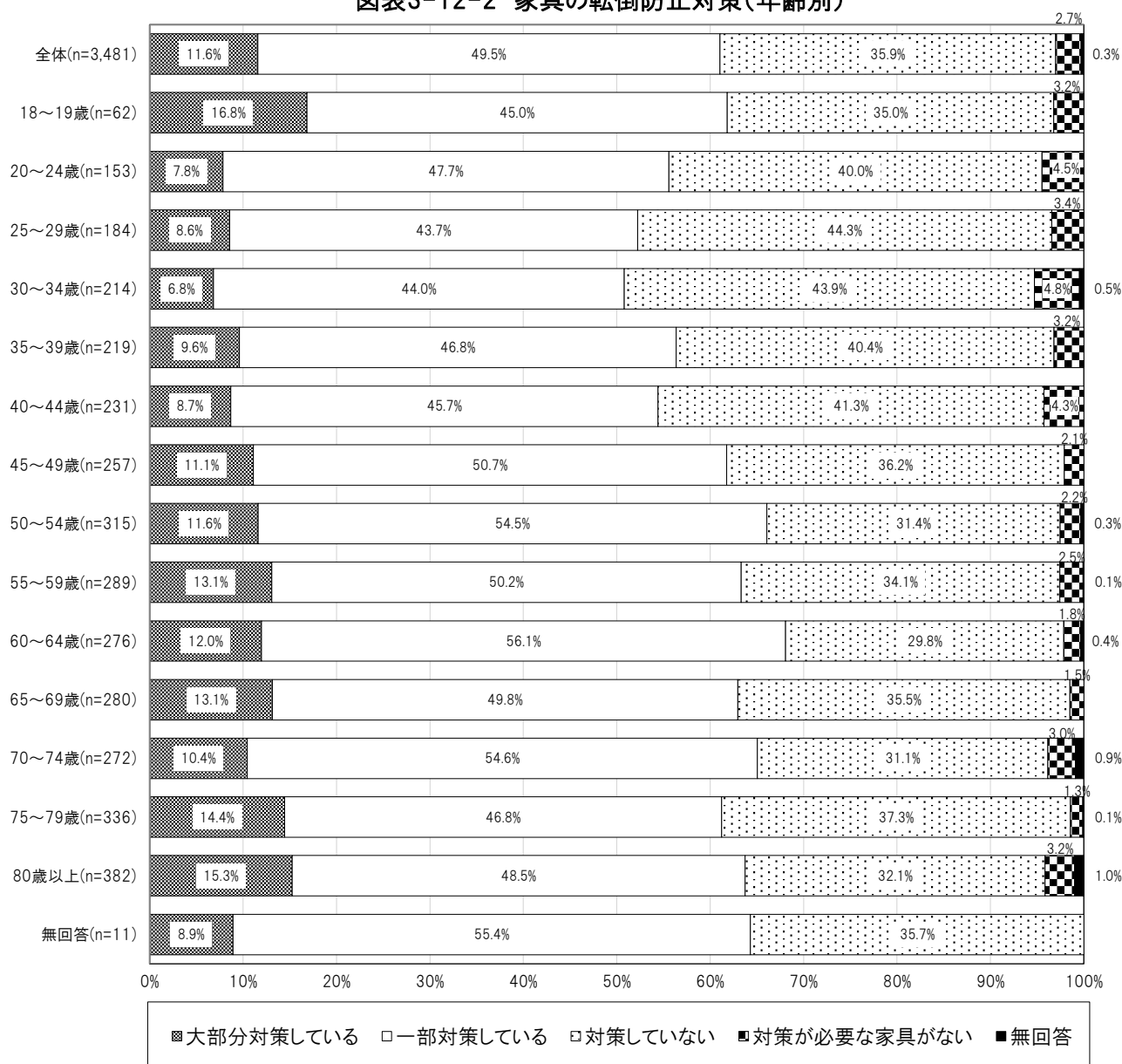


2) 属性分析結果

① 「家具の転倒防止対策」×「年齢」

年齢別にみると、家具の転倒防止対策をしていると回答した市民の割合は、60～64 歳が 68.1%と最も高く、次いで 50～54 歳が 66.1%となっています。一方、30～34 歳が 50.8%、25～29 歳が 52.3%と低くなっています。

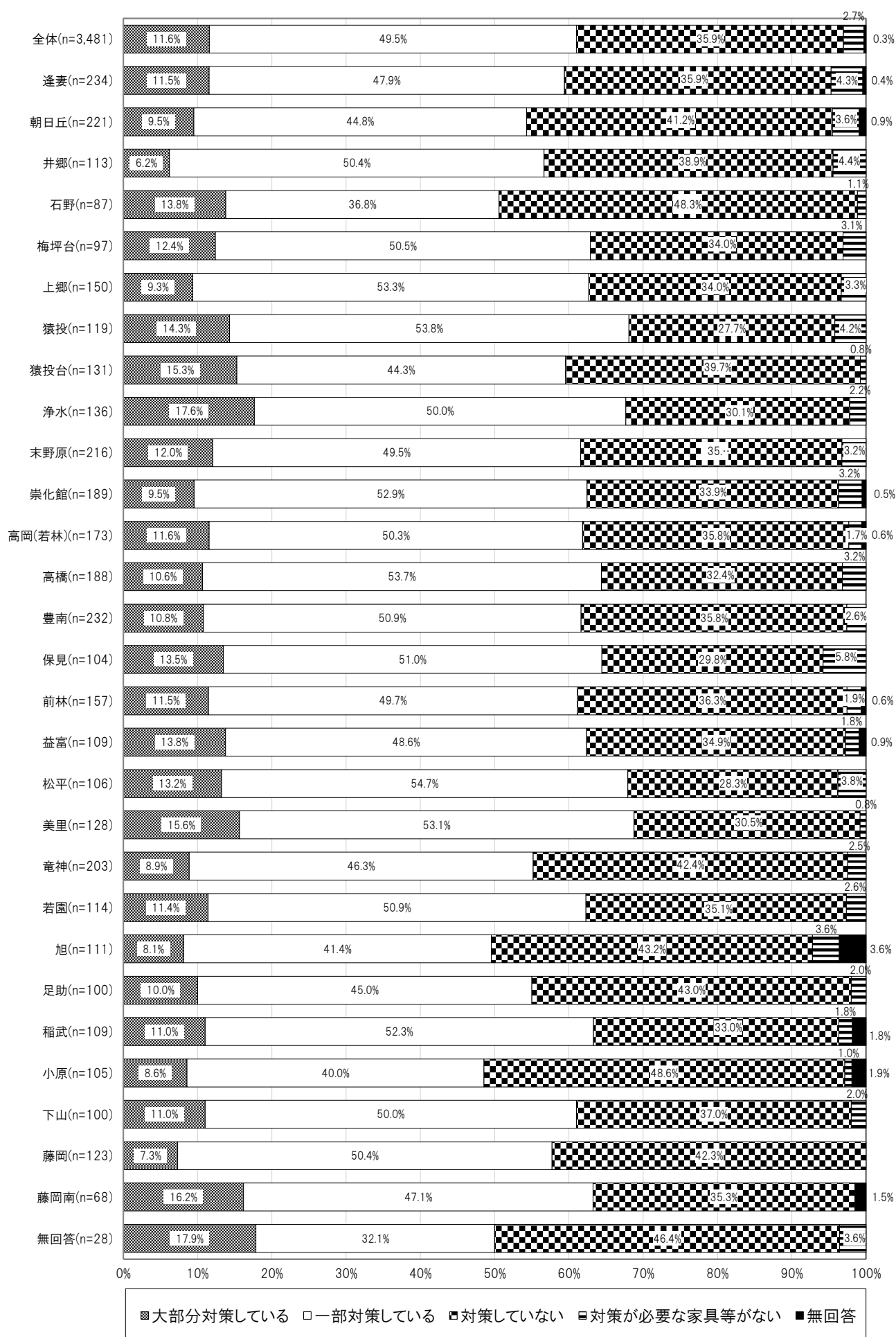
図表3-12-2 家具の転倒防止対策(年齢別)



② 「家具の転倒防止対策」×「居住地区」

居住地区別にみると、家具の転倒防止対策をしていると回答した市民の割合は、美里が68.7%と最も高く、次いで猿投が68.1%、松平が67.9%となっています。一方、小原が48.6%、旭が49.5%、石野が50.6%と低くなっています。

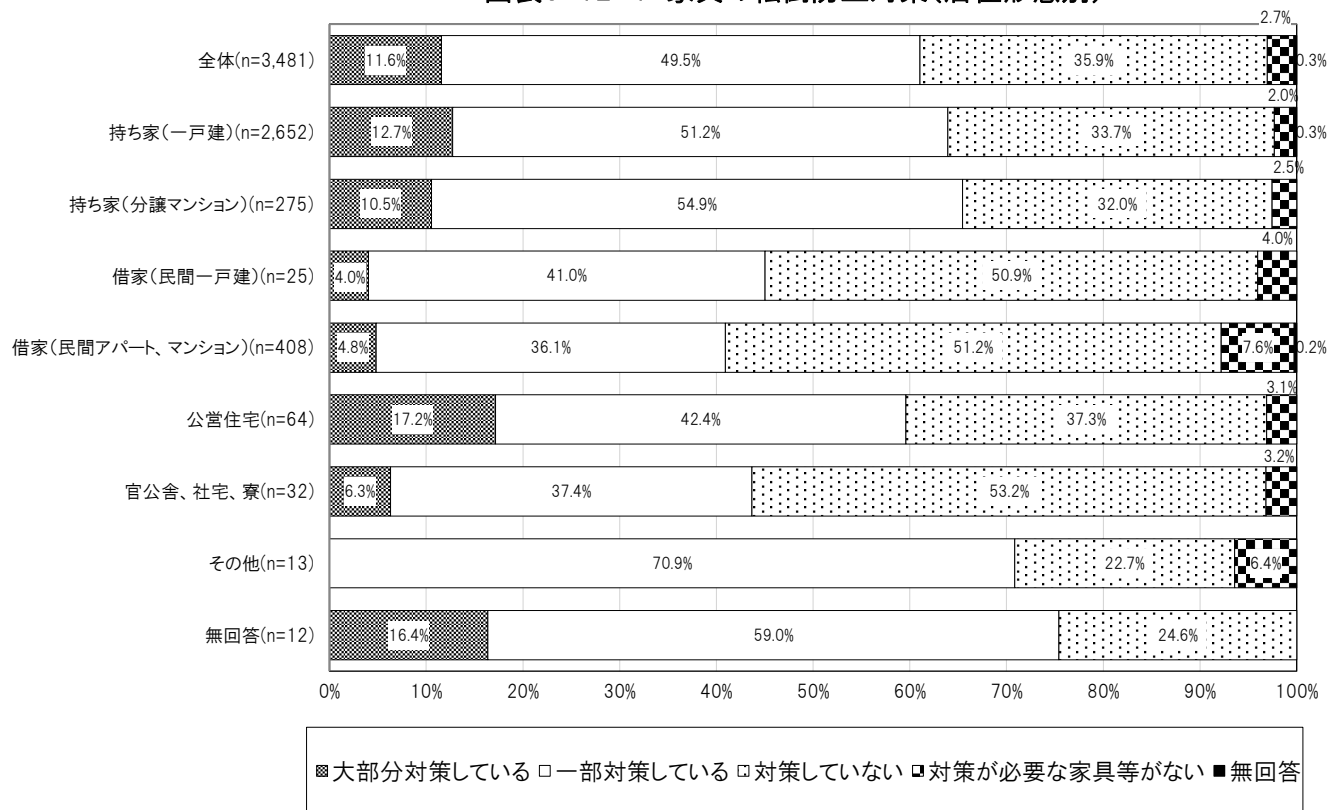
図表3-12-3 家具の転倒防止対策(居住地区別)



③ 「家具の転倒防止対策」×「居住形態」

居住形態別にみると、家具の転倒防止対策をしていると回答した市民の割合は、その他を除き、持ち家（分譲マンション）が65.4%、持ち家（一戸建）が63.9%と持ち家で高い傾向にあります。

図表3-12-4 家具の転倒防止対策（居住形態別）



(3) 危険箇所の認識

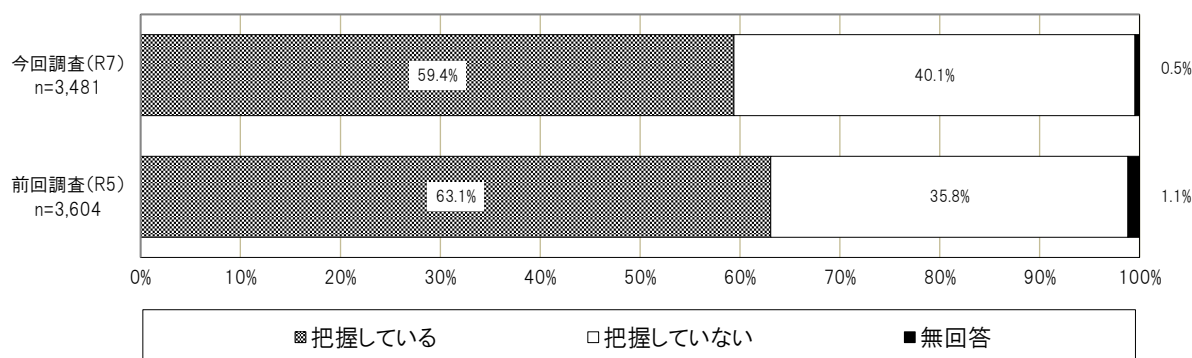
問 23

あなたは、自宅周辺の災害リスク（浸水、土砂災害など）や危険箇所について、ハザードマップ等により把握していますか。（1 つに○）

1) 全体集計結果

自宅周辺の災害リスク（浸水、土砂災害など）や危険箇所について「把握している」と回答した市民の割合は、59.4%となっており、前回調査と比較して 3.7 ポイント減少しています。

図表3-13-1 危険箇所の認識(前回調査との比較)

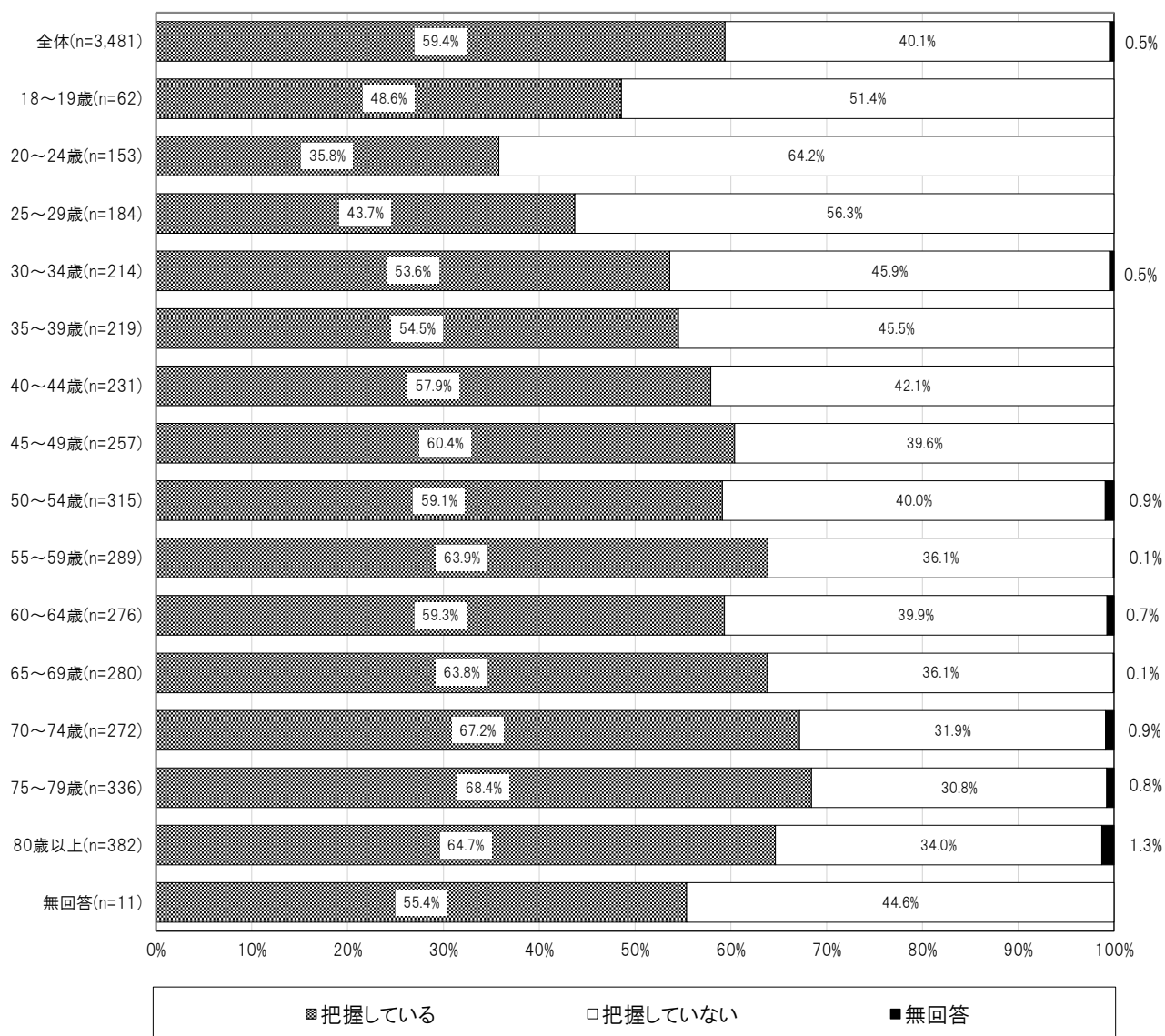


2) 属性分析結果

① 「危険箇所の認識」×「年齢」

年齢別にみると、周囲の危険箇所を「把握している」と回答した市民の割合は、75～79 歳が 68.4%と最も高く、次いで 70～74 歳が 67.2%となっています。一方、20～24 歳が 35.8%、25～29 歳が 43.7%と低くなっています。

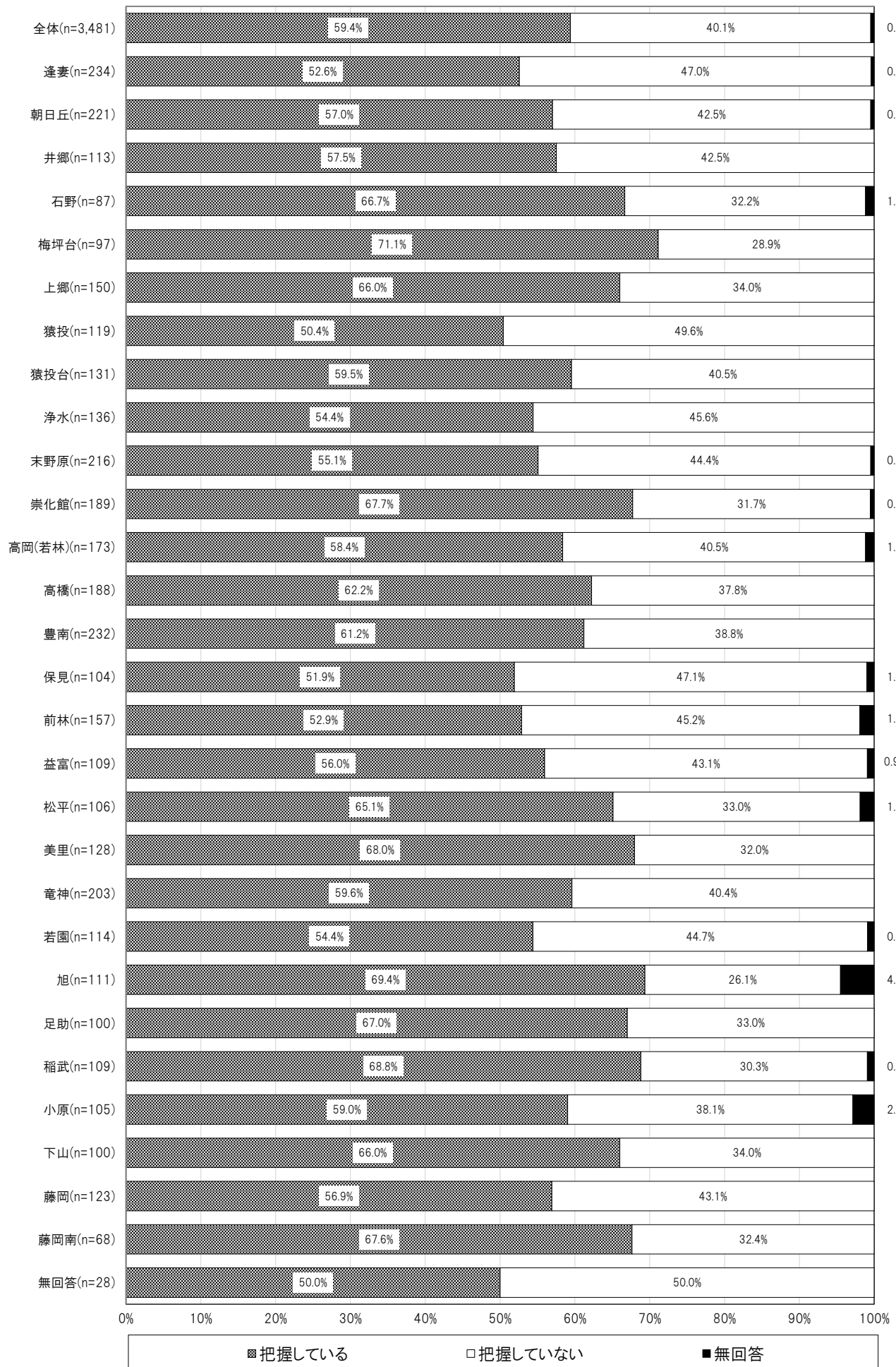
図表3-13-2 危険箇所の認識(年齢別)



② 「危険箇所の認識」×「居住地区」

居住地区別にみると、周囲の危険箇所を「把握している」と回答した市民の割合は、梅坪台が71.1%と最も高く、次いで旭が69.4%となっています。一方、猿投が50.4%、保見が51.9%と低くなっています。

図表3-13-3 危険箇所の認識(居住地区別)



(4) 避難情報の違いの認識

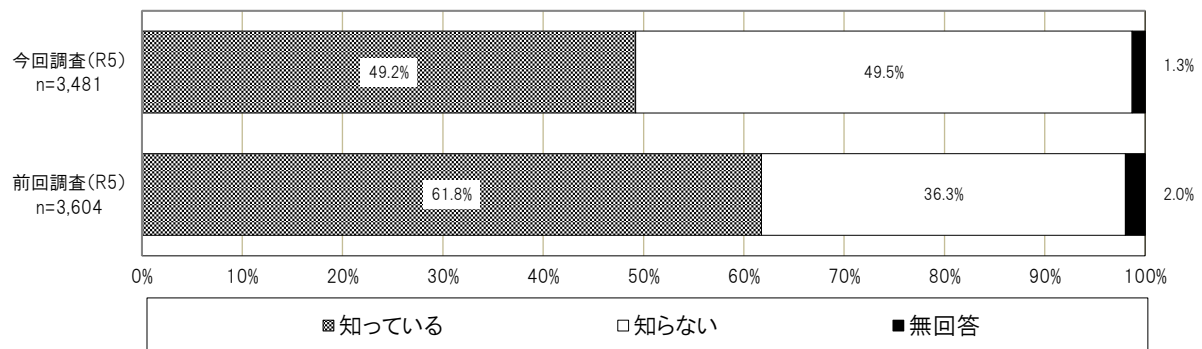
問 24	あなたは、災害発生の恐れがあるときに市が発表する「警戒レベル」や「避難情報（避難指示、高齢者等避難など）」について緊急度の違いやとるべき行動を知っていますか。(1 つに○)
------	--

※豊田市では、浸水害や土砂災害の危険度に応じた市民のとるべき避難行動等について、警戒レベル3～5を付した避難情報を発令し、緊急メールとよたなどの情報伝達手段により避難のタイミングをお伝えしています。

1) 全体集計結果

災害発生の恐れがあるときに市が発表する「警戒レベル」や「避難情報（避難指示、高齢者等避難など）」の違いについて、「知っている」と回答した市民の割合は 49.2%で、前回調査と比較して 12.6 ポイント減少しています。

図表3-14-1 避難情報の違いの認識(前回調査との比較)

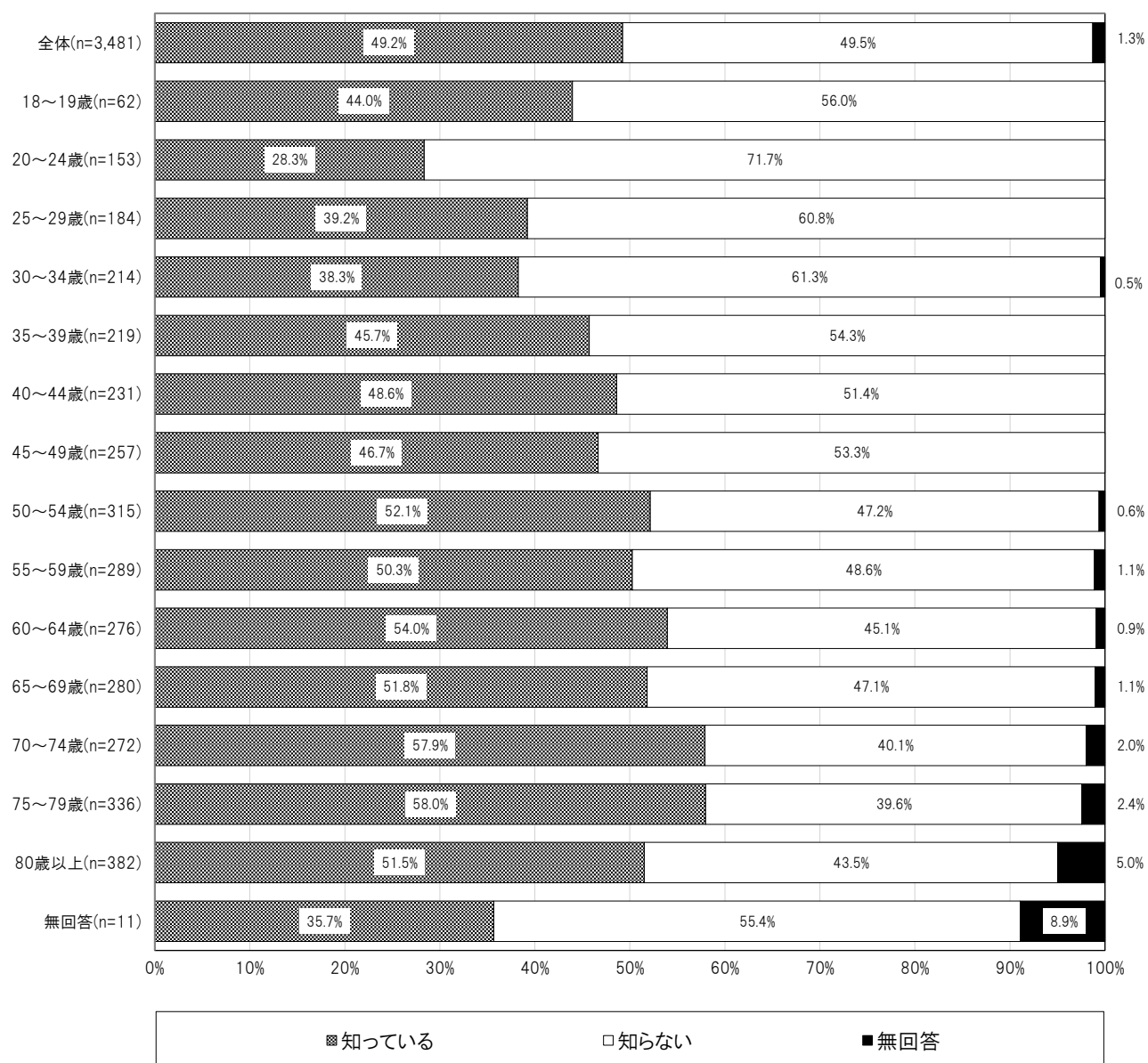


2) 属性分析結果

① 「避難情報の違いの認識」×「年齢」

年齢別にみると、「警戒レベル」や「避難情報（避難指示、高齢者等避難など）」の違いについて、「知っている」と回答した市民の割合は、75～79 歳が 58.0%と最も高く、次いで 70～74 歳が 57.9%、60～64 歳が 54.0%となっています。一方、20～24 歳は 28.3%と低くなっています。

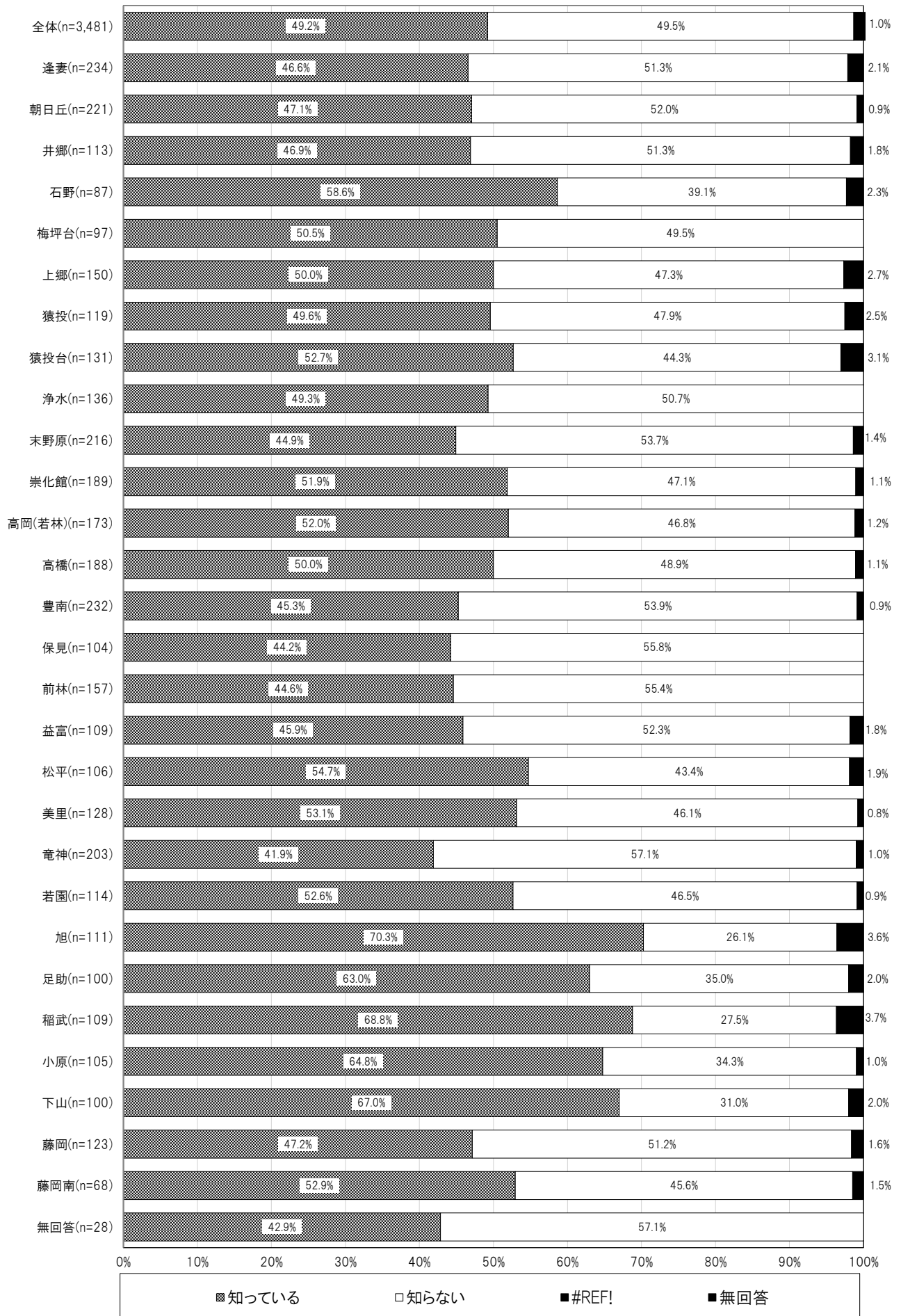
図表3-14-2 避難情報の違いの認識(年齢別)



② 「避難情報の違いの認識」×「居住地区」

居住地区別にみると、「警戒レベル」や「避難情報（避難指示、高齢者等避難など）」の違いについて、「知っている」と回答した市民の割合は、旭が 70.3%と最も高く、次いで稲武が 68.8%となっています。一方、竜神が 41.9%、保見が 44.2%と低くなっています。

図表3-14-3 避難情報の違いの認識(居住地区別)



(5) 防災訓練の参加状況

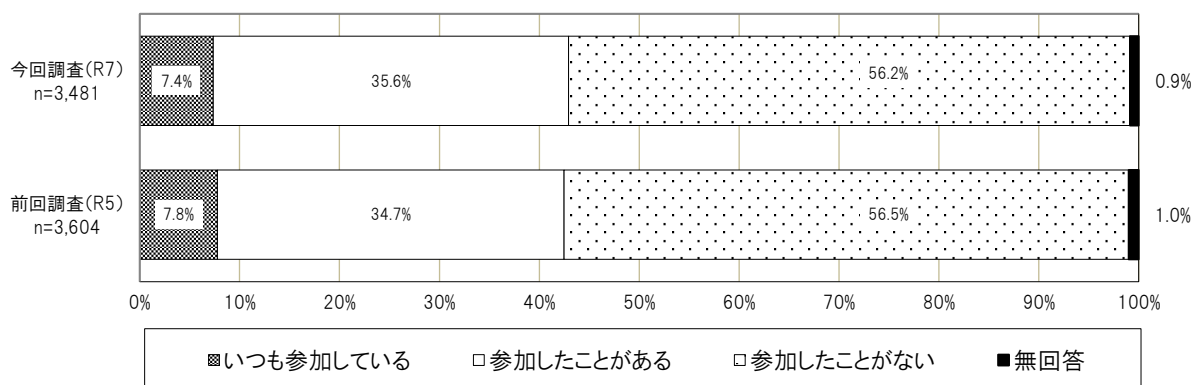
問 25

あなたは、地域で実施している防災訓練に参加していますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

地域で実施している防災訓練に参加経験がある(「いつも参加している」+「参加したことがある」)と回答した市民の割合は、43.0%で、前回調査と比較して 0.5 ポイント増加しています。

図表3-15-1 防災訓練の参加状況(前回調査との比較)

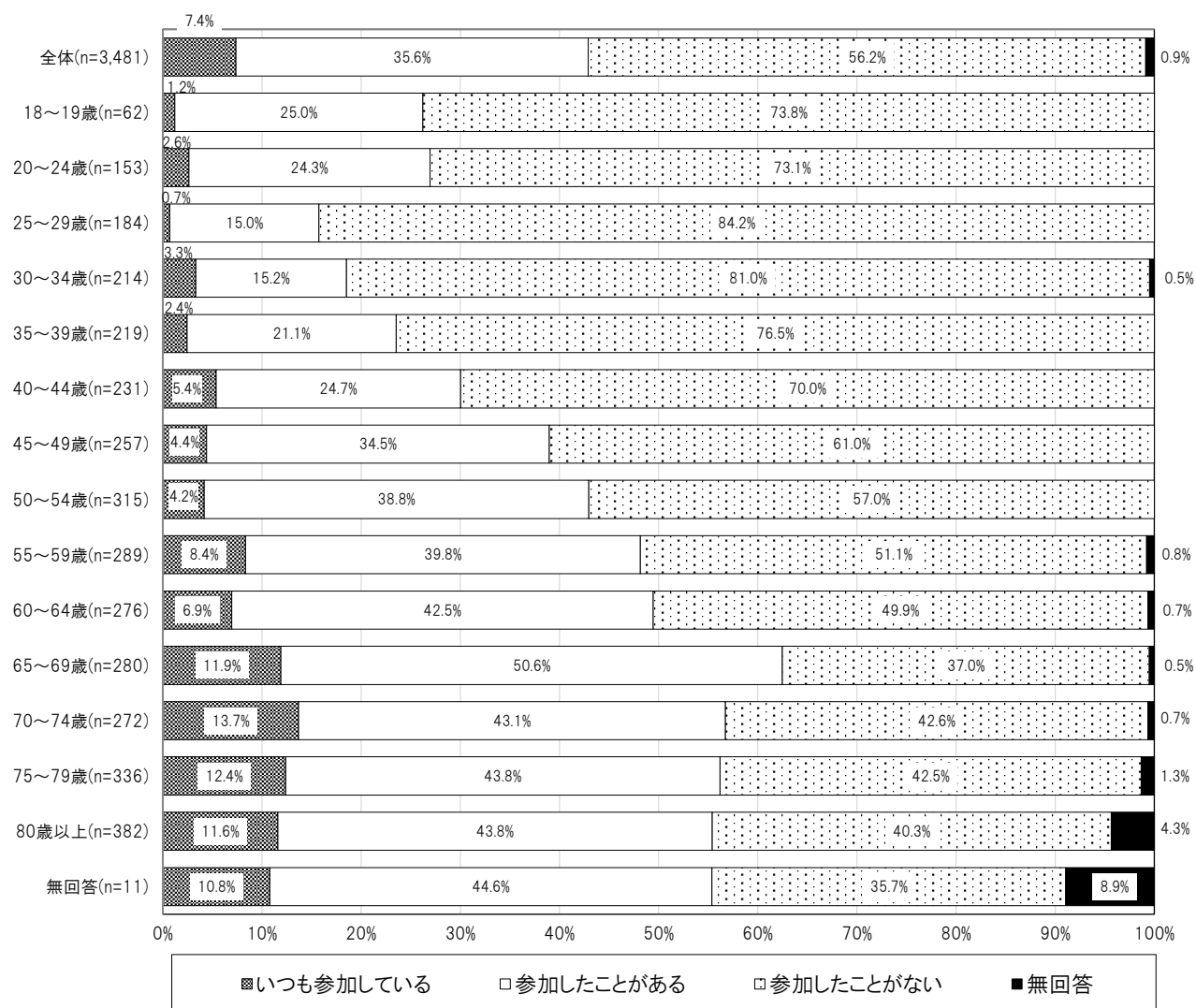


2) 属性分析結果

① 「防災訓練の参加状況」×「年齢」

年齢別にみると、地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、65～69 歳が 62.5%と最も高く、次いで 70～74 歳が 56.8%となっています。一方、25～29 歳が 15.7%、30～34 歳が 18.5%と低くなっています。地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、概ね年齢が高くなるのに比例して増加する傾向にあります。

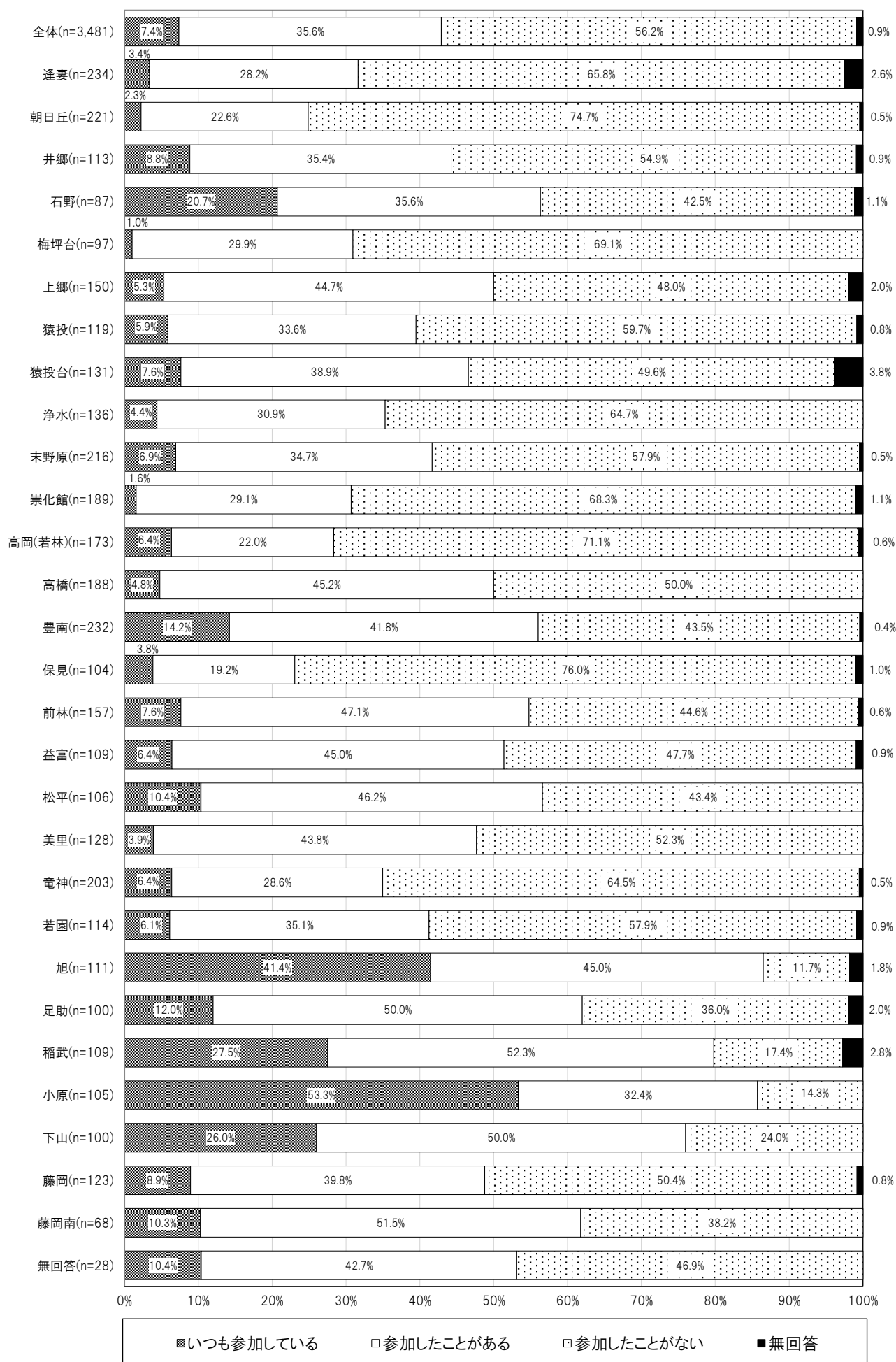
図表3-15-2 防災訓練の参加状況(年齢別)



② 「防災訓練の参加状況」×「居住地区」

居住地区別にみると、地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、旭が86.4%と最も高く、次いで小原が85.7%となっています。一方、保見が23.0%、朝日丘が24.9%と低くなっています。

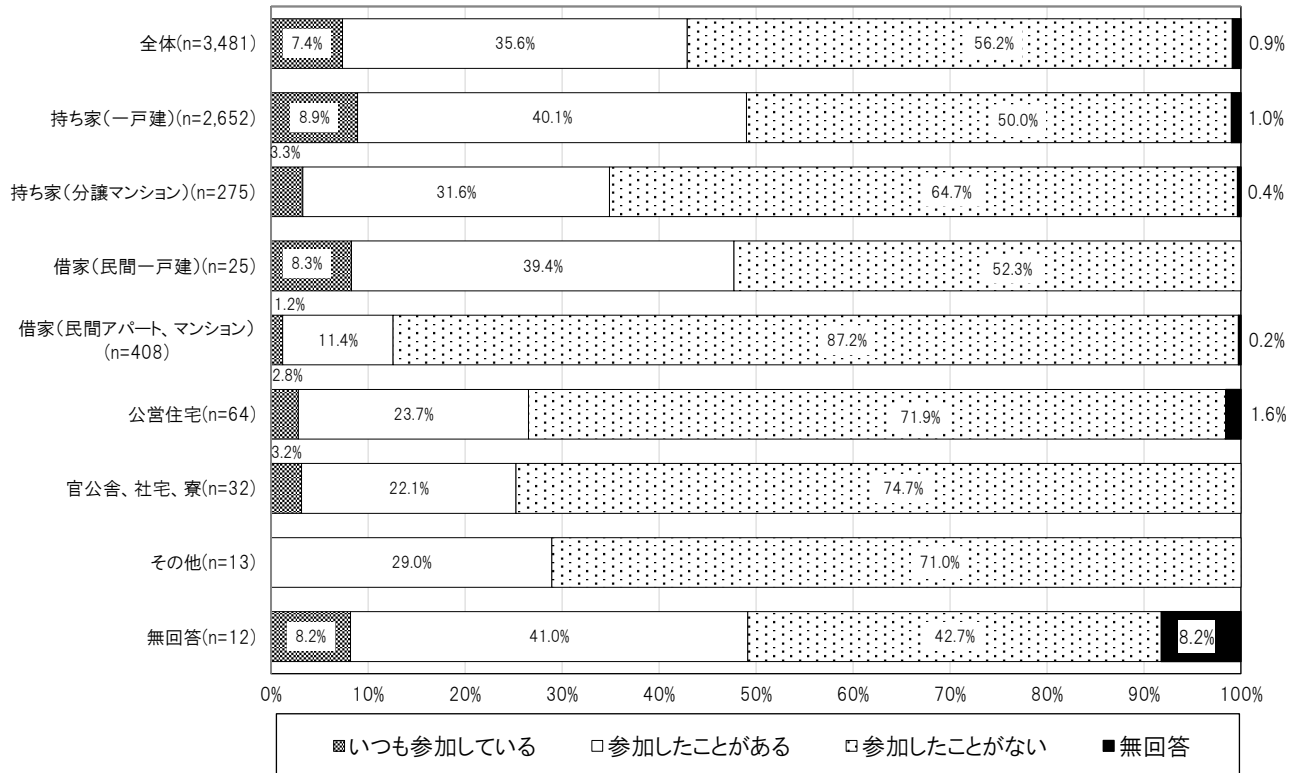
図表3-15-3 防災訓練の参加状況(居住地区別)



③ 「防災訓練の参加状況」×「居住形態」

居住形態別にみると、地域で実施している防災訓練に参加経験がある市民の割合は、持ち家（一戸建）が49.0%と最も高く、借家（民間一戸建）が47.7%となっています。一方、借家（民間アパート、マンション）は12.6%と最も低くなっています。

図表3-15-4 防災訓練の参加状況（居住形態別）



4 自身の活動等

(1) 自治区・地域活動への参加状況

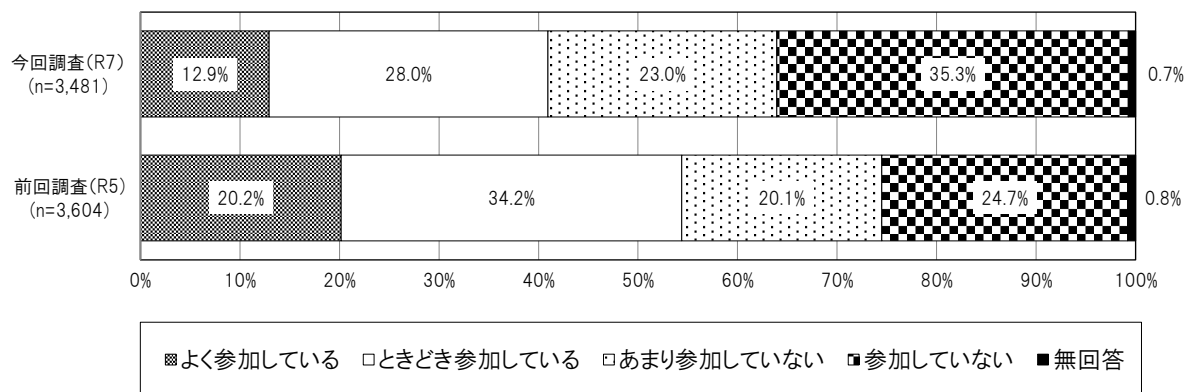
問 26 あなたは、地域の活動に参加していますか。(1 つに○)

※「地域の活動」とは、地区コミュニティ会議、自治区、子ども会など地域の団体が主体となって行われる活動のこと

1) 全体集計結果

地域の活動に参加している（「よく参加している」＋「ときどき参加している」）と回答した市民の割合は、40.9%となっており、前回調査と比較して 13.5 ポイント減少しています。

図表3-16-1 自治区・地域活動への参加状況(前回調査との比較)

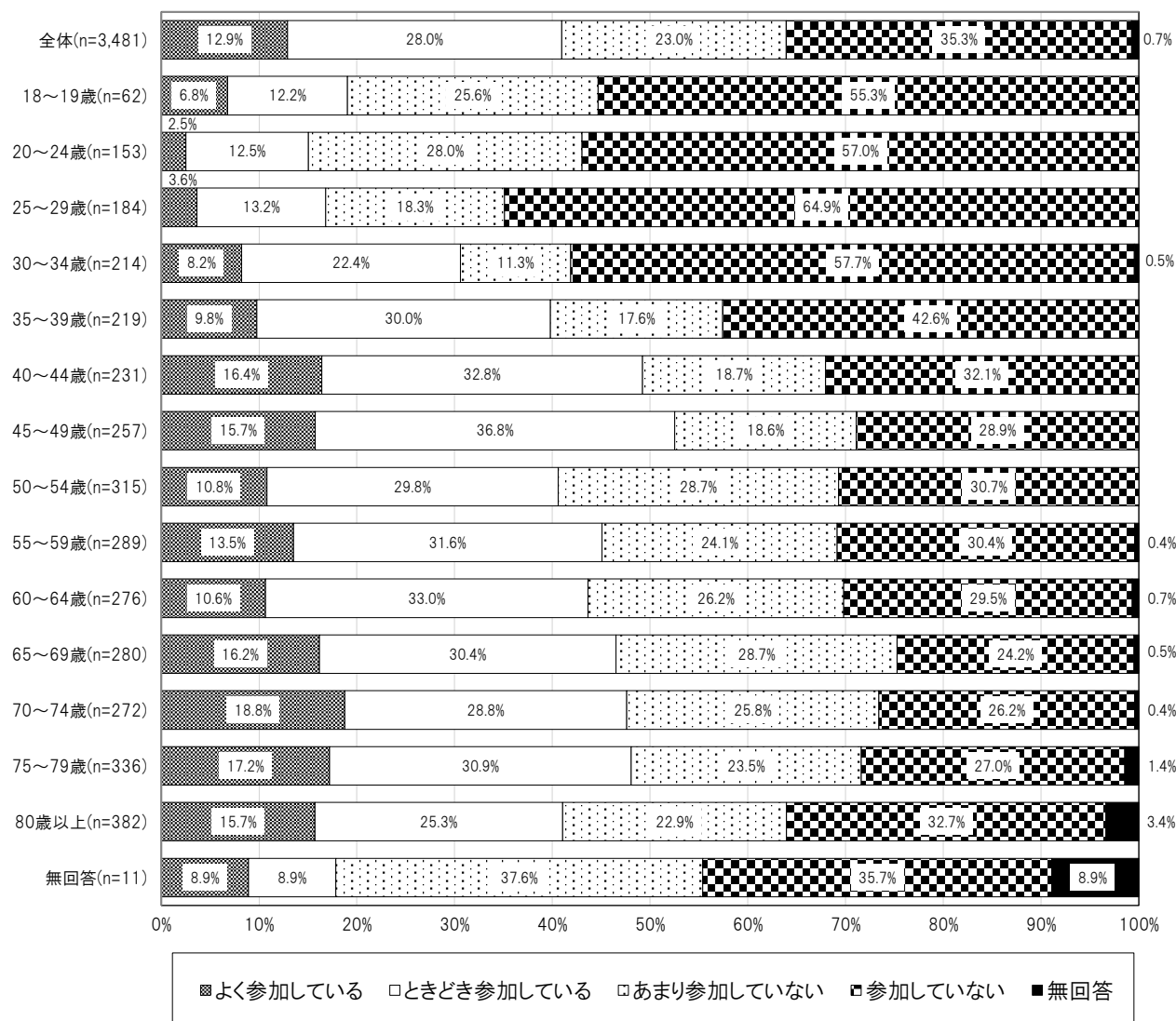


2) 属性分析結果

① 「自治区・地域活動への参加状況」×「年齢」

年齢別にみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、45～49 歳が 52.5%と最も高く、次いで 40～44 歳が 49.2%、75～79 歳が 48.1%となっています。一方、20～24 歳が 15.0%、25～29 歳が 16.8%と低くなっています。

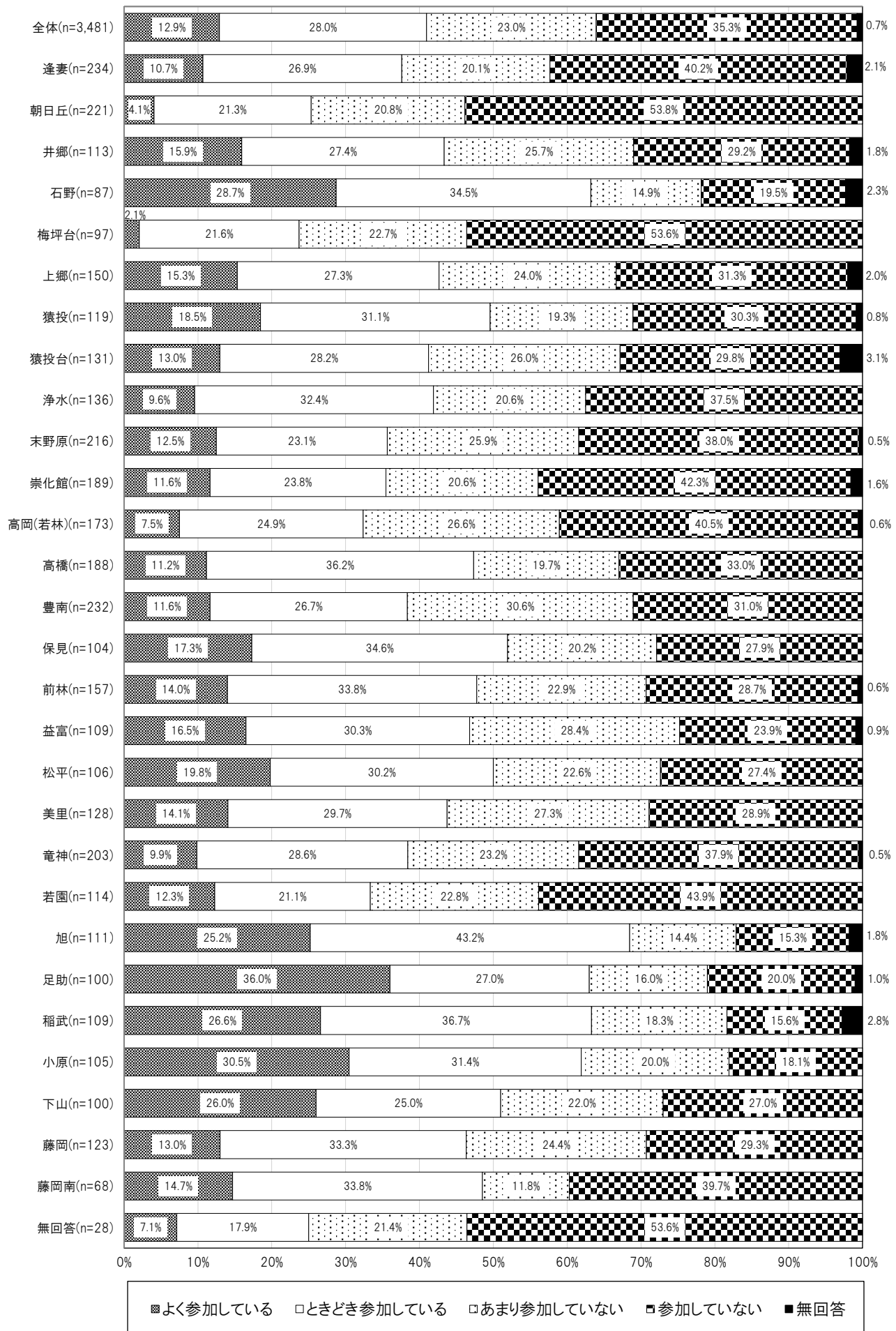
図表3-16-2 自治区・地域活動への参加状況(年齢別)



② 「自治区・地域活動への参加状況」×「居住地区」

居住地区別にみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、旭が 68.4%と最も高く、次いで稲武が 63.3%となっています。特に、足助は「よく参加している」と回答した市民の割合が 36.0%と最も高くなっており、次いで小原が 30.5%となっています。一方、地域の活動に参加していない（「あまり参加していない」＋「参加していない」）と回答した市民の割合は、梅坪台が 76.3%、朝日丘が 74.6%と高くなっています。

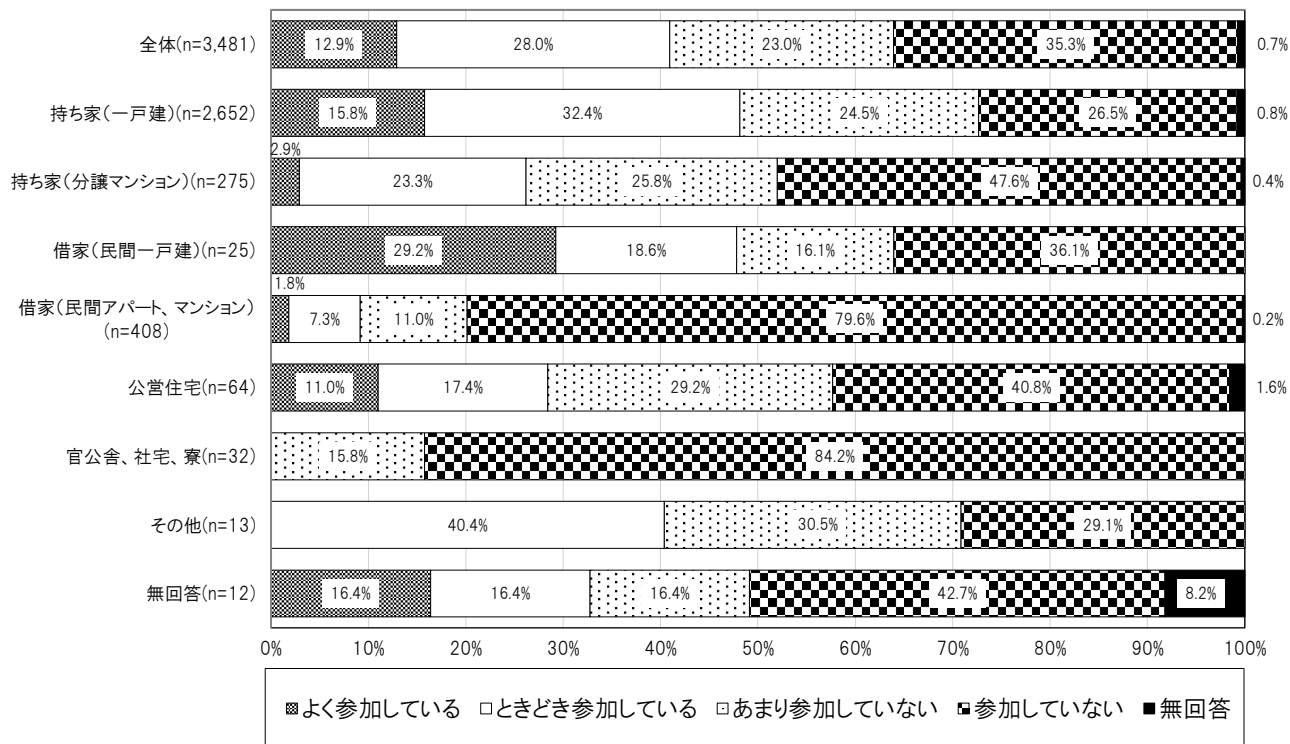
図表3-16-3 自治区・地域活動への参加状況(居住地区別)



③ 「自治区・地域活動への参加状況」×「居住形態」

居住形態別にみると、地域の活動に参加していると回答をした市民の割合は、持ち家（一戸建）が48.2%と最も高く、次いで借家（民間一戸建）が47.8%となっています。一方、借家（民間アパート、マンション）が9.1%となっており、一戸建以外の居住形態の場合に低くなる傾向があります。また、官公社、社宅、寮では、参加していると回答した市民はいませんでした。

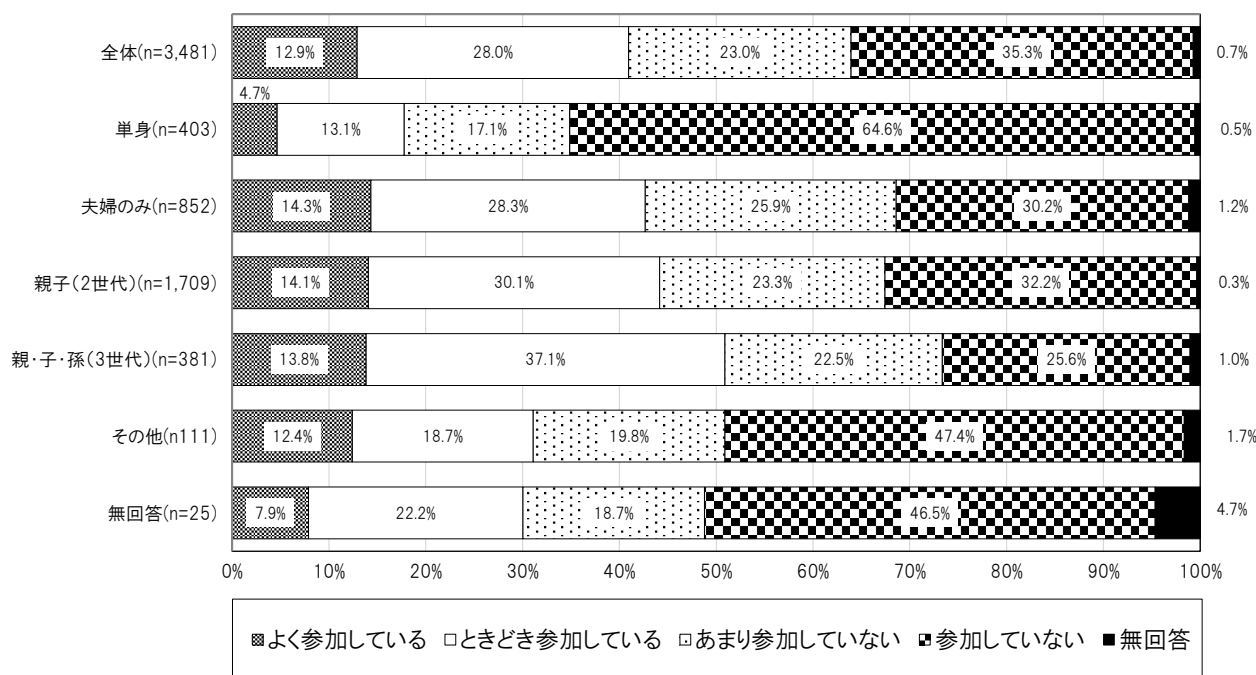
図表3-16-4 自治区・地域活動への参加状況（居住形態別）



④ 「自治区・地域活動への参加状況」×「家族構成」

家族構成別にみると、地域の活動に参加していると回答をした市民の割合は、親・子・孫（3世代）世帯が50.9%と最も高く、次いで親子（2世代）世帯が44.2%となっています。一方、単身世帯が17.8%と低くなっています。夫婦のみ、2世代、3世代の世帯が40%～50%超と高い傾向にあります。

図表3-16-5 自治区・地域活動への参加状況(家族構成別)

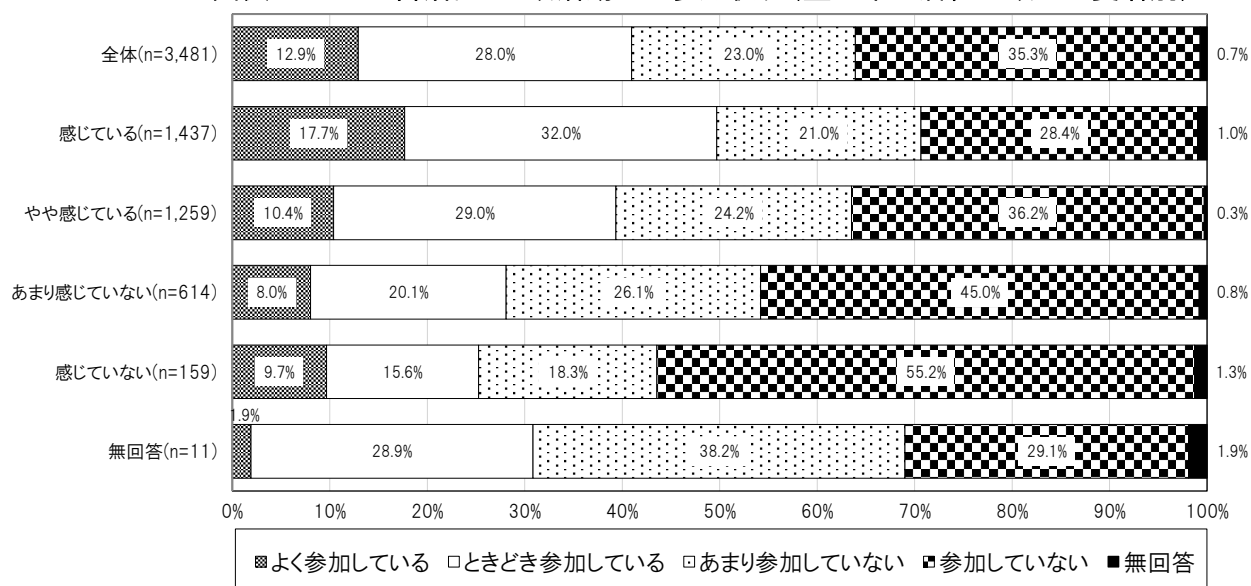


3) 設問間分析結果

① 「自治区・地域活動への参加状況」×「豊田市や居住地域への愛着」

豊田市や居住地域への愛着別にみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、「感じている」と回答した市民で 49.7%と最も高くなっています。一方、「感じていない」と回答した市民では 25.3%と低くなっています。地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、豊田市や居住地域への愛着を感じている市民ほど高い傾向にあります。

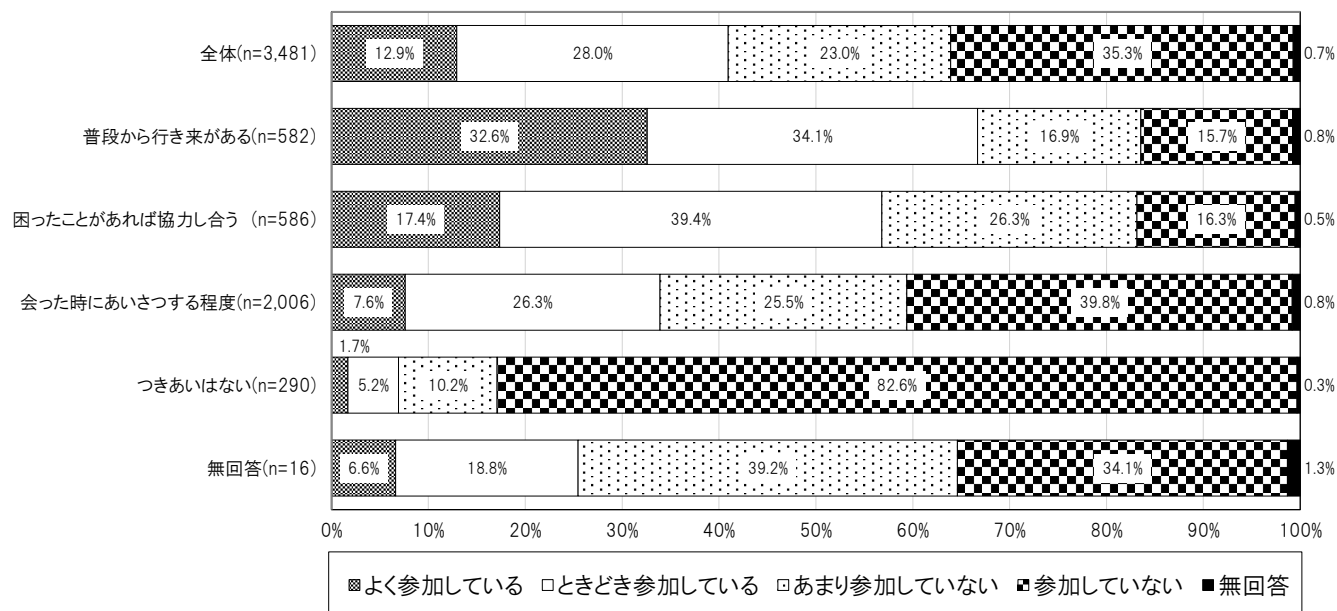
図表3-16-6 自治区・地域活動への参加状況(豊田市や居住地域への愛着別)



② 「自治区・地域活動への参加状況」×「近所づきあい」

近所づきあい別でみると、地域の活動に参加していると回答した市民の割合は、近所と「普段から行き来がある」と回答した市民で 66.7%と最も高くなっています。一方、「つきあいはない」と回答した市民では 6.9%と低くなっています。地域の活動に参加していると回答をした市民の割合は、近所づきあいがあるほど高くなる傾向にあります。

図表3-16-7 自治区・地域活動への参加状況(近所づきあい別)



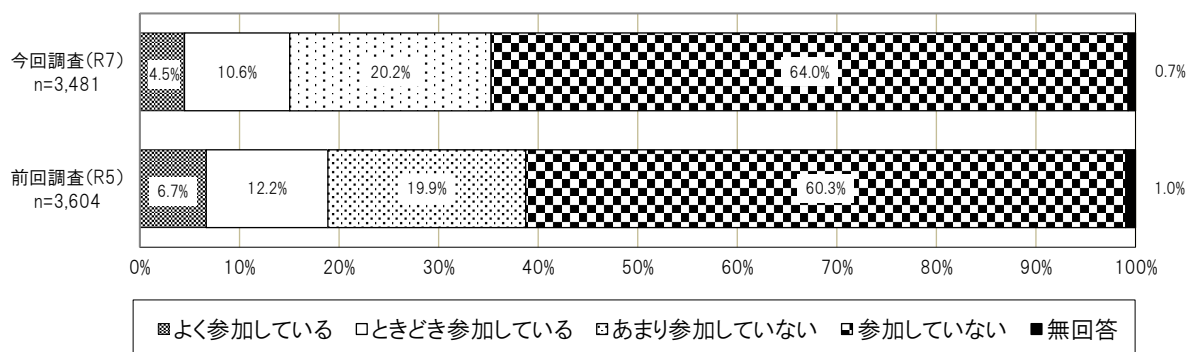
(2) ボランティア・NPO活動への参加状況

問 27 あなたは、ボランティア活動やNPO 活動などに参加していますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

ボランティア活動やNPO活動に参加している(「よく参加している」+「ときどき参加している」)と回答した市民の割合は、15.1%となっており、前回調査と比較して3.8ポイント減少しています。

図表3-17-1 ボランティア・NPO活動への参加状況(前回調査との比較)

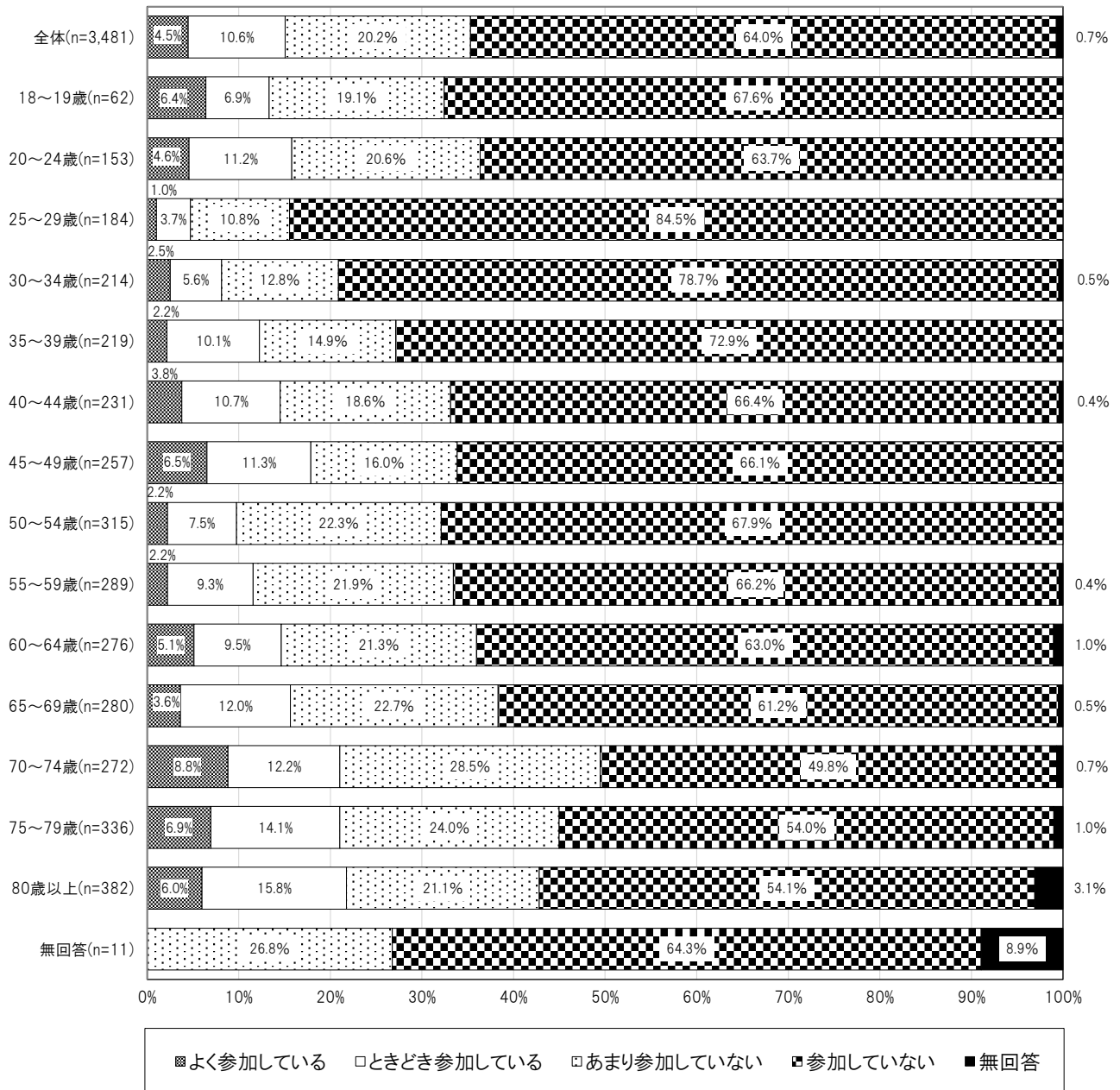


2) 属性分析結果

① 「ボランティア・NPO活動への参加状況」×「年齢」

年齢別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、80歳以上で21.8%と最も高くなっており、特に70歳以上の年代で高くなる傾向があります。

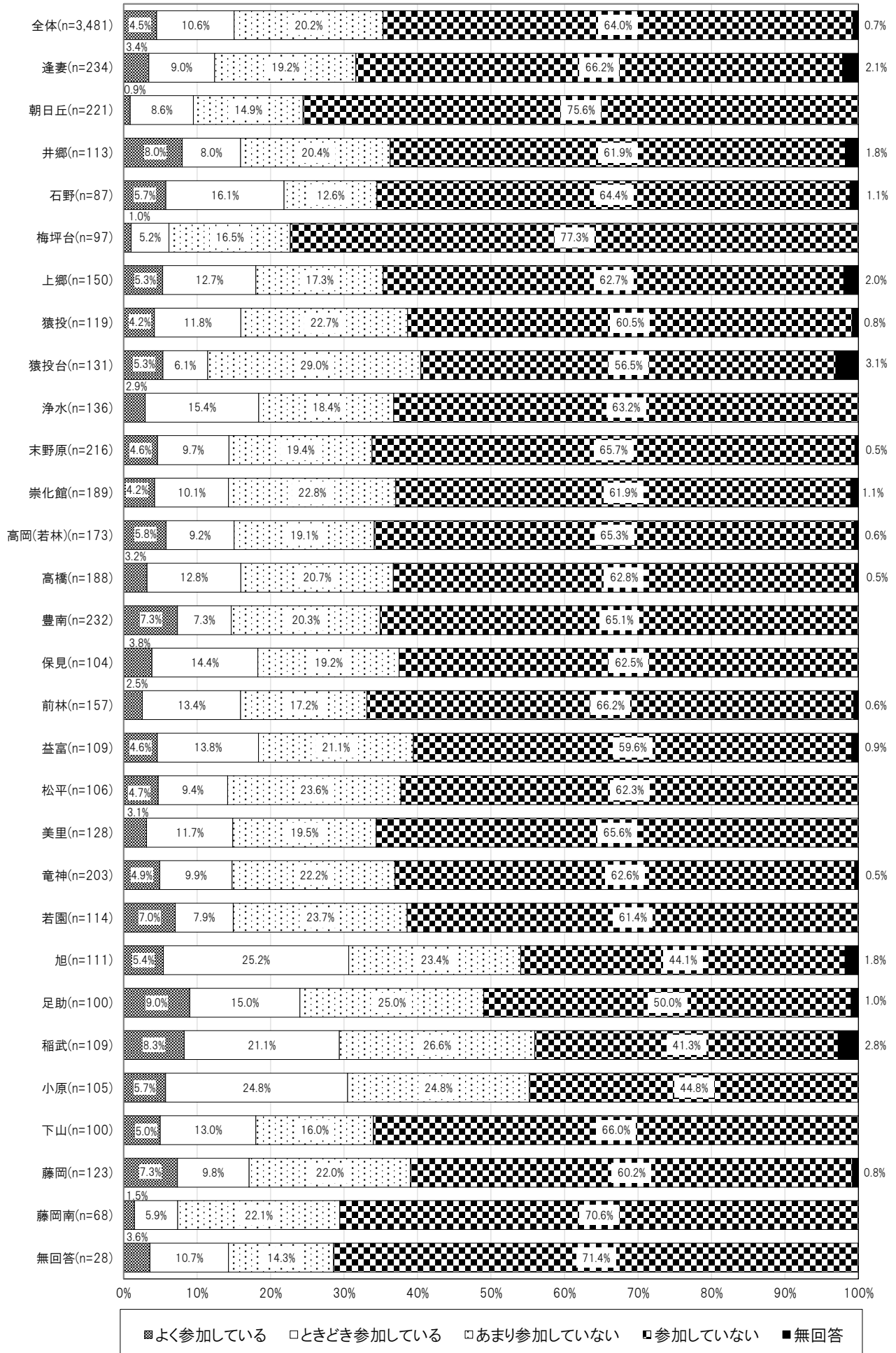
図表3-17-2 ボランティア・NPO活動への参加状況(年齢別)



② 「ボランティア・NPO活動への参加状況」×「居住地区」

居住地区別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、旭が30.6%と最も高く、次いで小原が30.5%、稲武が29.4%となっています。一方、梅坪台が6.2%、藤岡南が7.4%、朝日丘が9.5%と低くなっています。

図表3-17-3 ボランティア・NPO活動への参加状況(居住地区別)

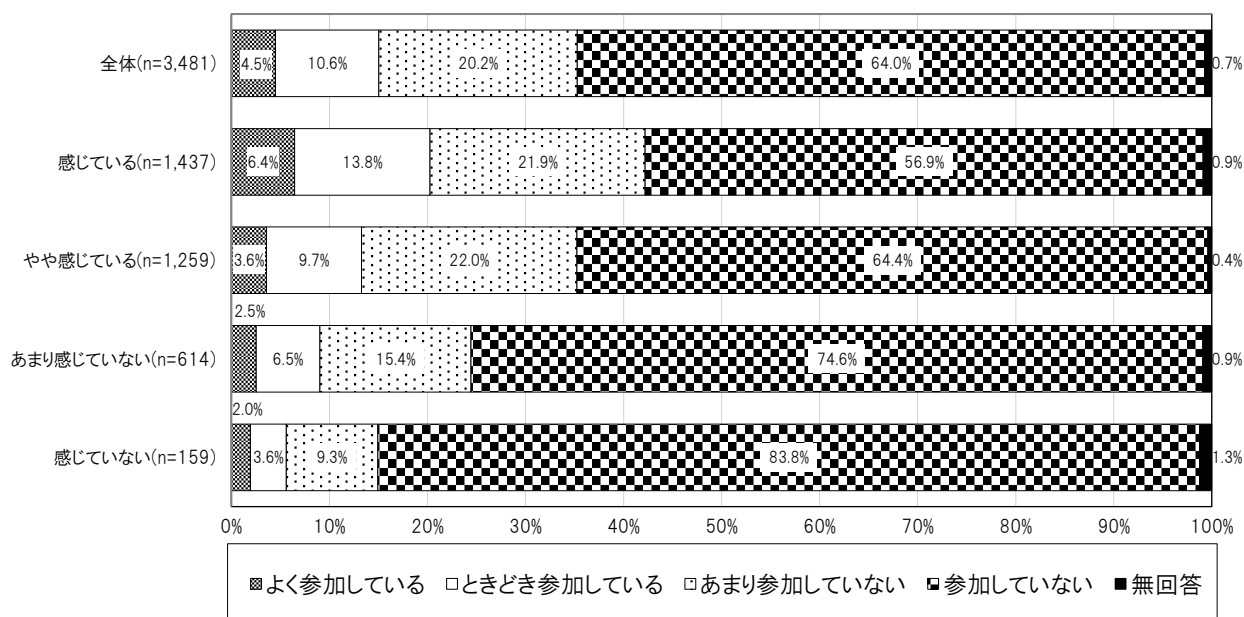


3) 設問間分析結果

① 「ボランティア・NPO活動への参加状況」×「豊田市や居住地域への愛着」

豊田市や居住地域への愛着別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、「感じている」と回答した市民で20.2%と最も高くなっています。一方、「感じていない」と回答した市民では5.6%と低くなっています。ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、豊田市や居住地域への愛着を感じているほど高い傾向にあります。

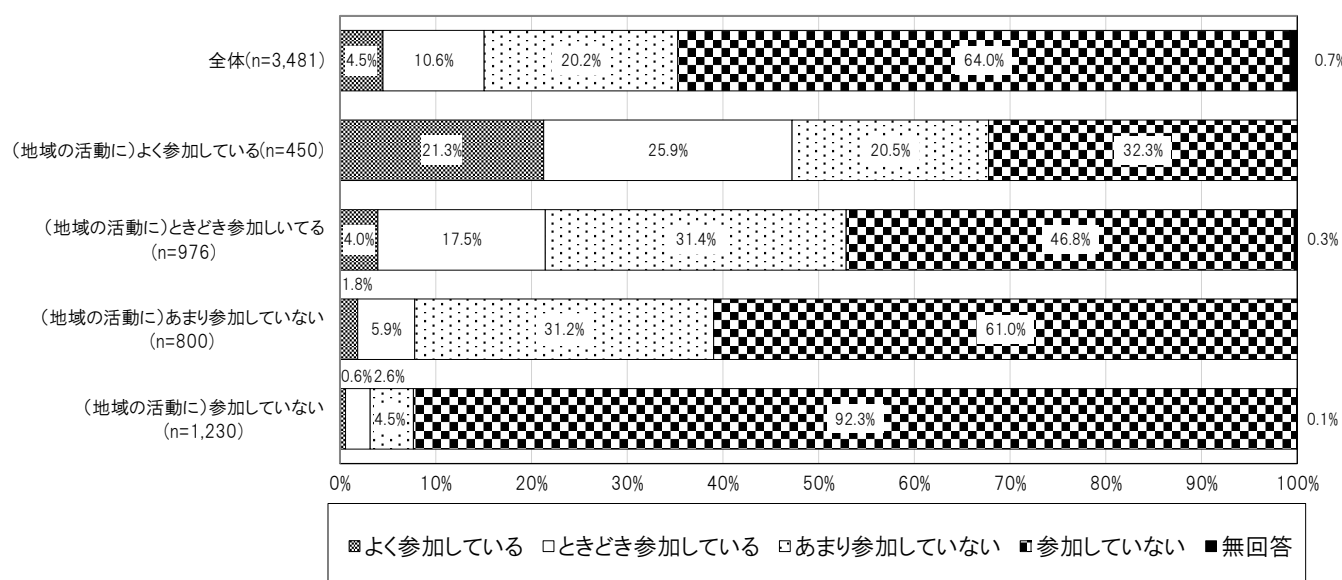
図表3-17-4 ボランティア・NPO活動への参加状況(豊田市や居住地域への愛着別)



② 「ボランティア・NPO活動への参加状況」×「自治区・地域活動への参加状況」

自治区・地域活動への参加状況別にみると、ボランティア活動やNPO活動に参加していると回答した市民の割合は、「(地域の活動に)よく参加している」と回答した市民で47.2%と最も高くなっています。一方、「(地域の活動に)参加していない」と回答した市民では3.2%と低くなっています。

図表3-17-5 ボランティア・NPO活動への参加状況(自治区・地域活動への参加状況別)



(3) 新たな活動や学びの機会への参加状況

問 28 あなたは、この1年以内に新たな活動や学びの機会に参加しましたか。(1つに○)

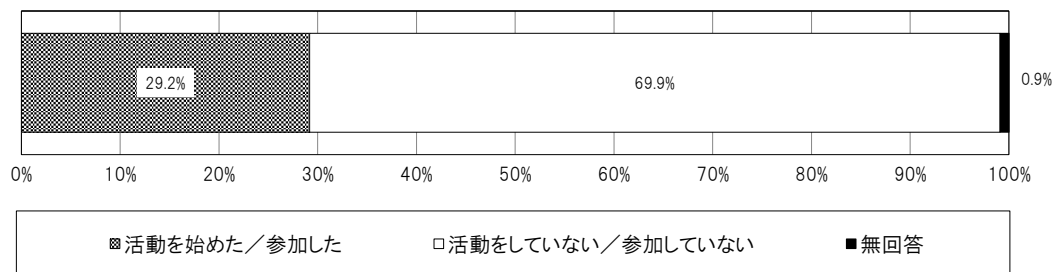
※「新たな活動や学びの機会」とは、スポーツ、文化活動、ボランティア活動、勉強・資格取得、趣味などを含む様々な場や機会のこと

1) 全体集計結果

この1年以内に新たな活動や学びの機会に「活動をはじめた/参加した」と回答した市民の割合は29.2%で、「活動をしていない/参加していない」と回答した市民の割合は69.9%となっています。

図表3-18-1 新たな活動や学びの機会の参加状況

n=3,481

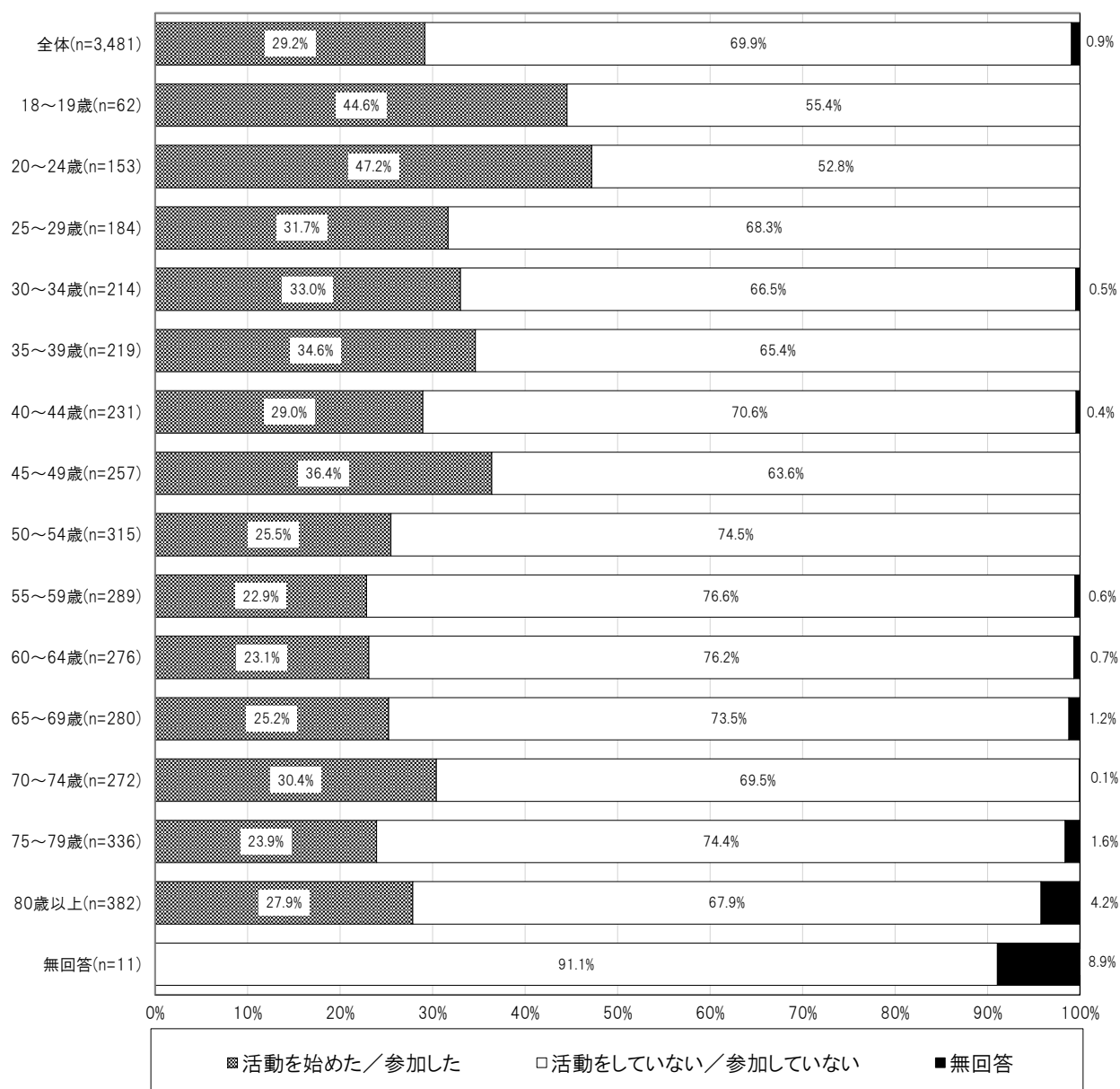


2) 属性分析結果

① 「新たな活動や学びの機会の参加状況」×「年齢」

年齢別にみると、この1年以内に新たな活動や学びの機会に「活動をはじめた/参加した」と回答した市民の割合は20～24歳が47.2%と最も高く、次いで18～19歳が44.6%となっています。一方、「活動をしていない/参加していない」と回答した市民の割合は55～59歳が76.6%と最も高く、次いで60～64歳が76.2%となっています。

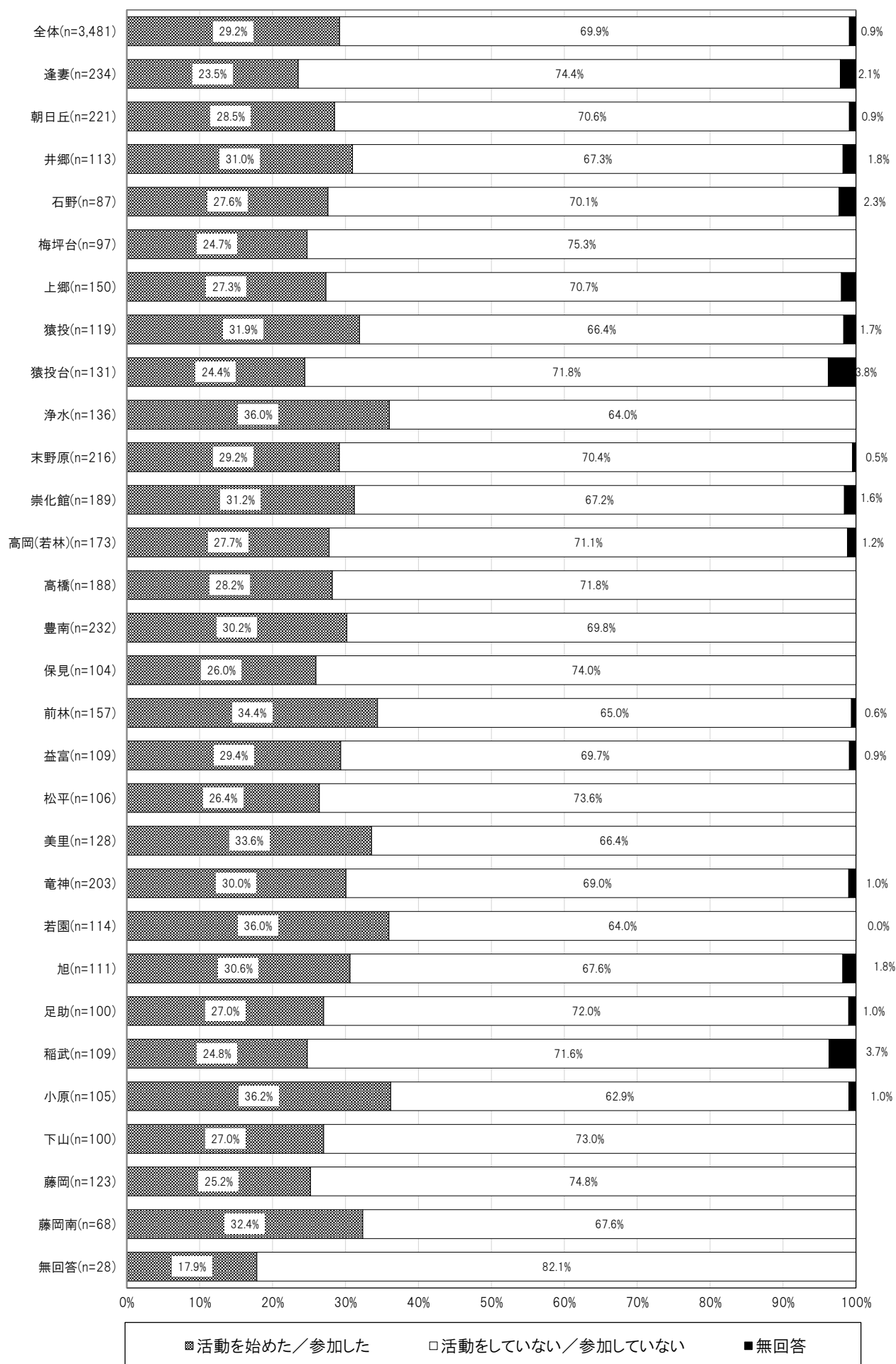
図表3-18-2 新たな活動や学びの機会の参加状況(年齢別)



② 「新たな活動や学びの機会の参加状況」×「居住地区」

居住地区別にみると、この1年以内に新たな活動や学びの機会に「活動を始めた/参加した」と回答した市民の割合は、小原が36.2%と最も高く、次いで浄水と若園が36.0%となっています。一方、「活動をしていない/参加していない」と回答した市民の割合は梅坪台が75.3%と最も高く、次いで藤岡が74.8%、逢妻が74.4%となっています。

図表3-18-3 新たな活動や学びの機会の参加状況(居住地区別)

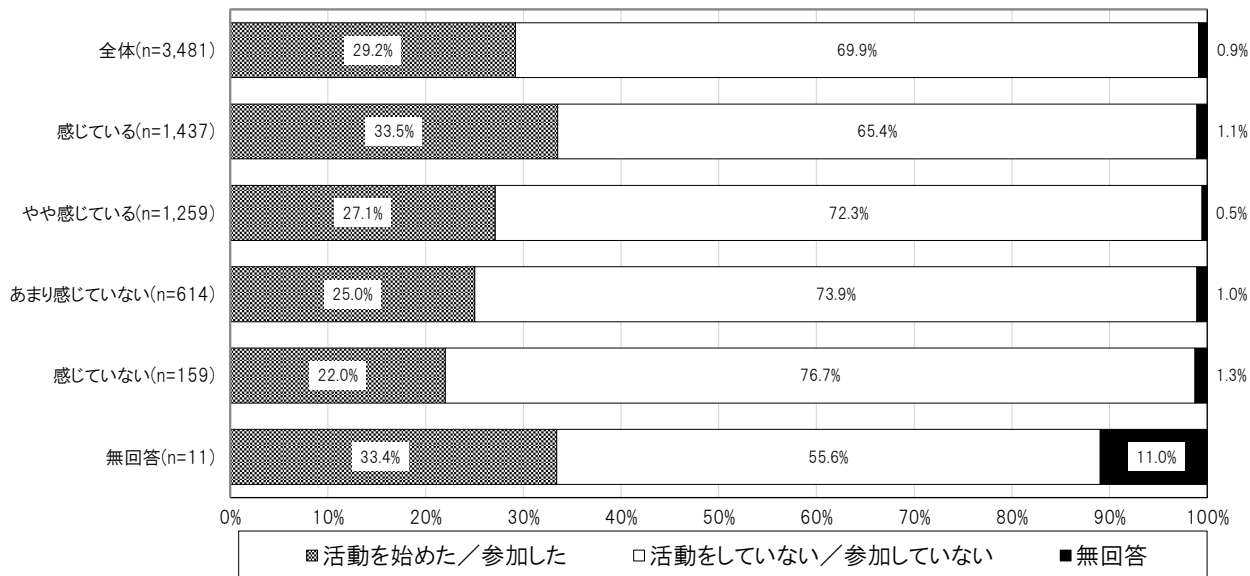


4) 設問間分析結果

① 「新たな活動や学びの機会の参加状況」×「豊田市や居住地域への愛着」

豊田市や居住地域への愛着別にみると、この1年以内に新たな活動や学びの機会に「活動を始めた/参加した」と回答した市民の割合は、豊田市や住居地域への愛着を「感じている」と回答した市民で33.5%と最も高くなっています。一方、愛着を「感じていない」と回答した市民の割合は22.0%と最も低くなっています。

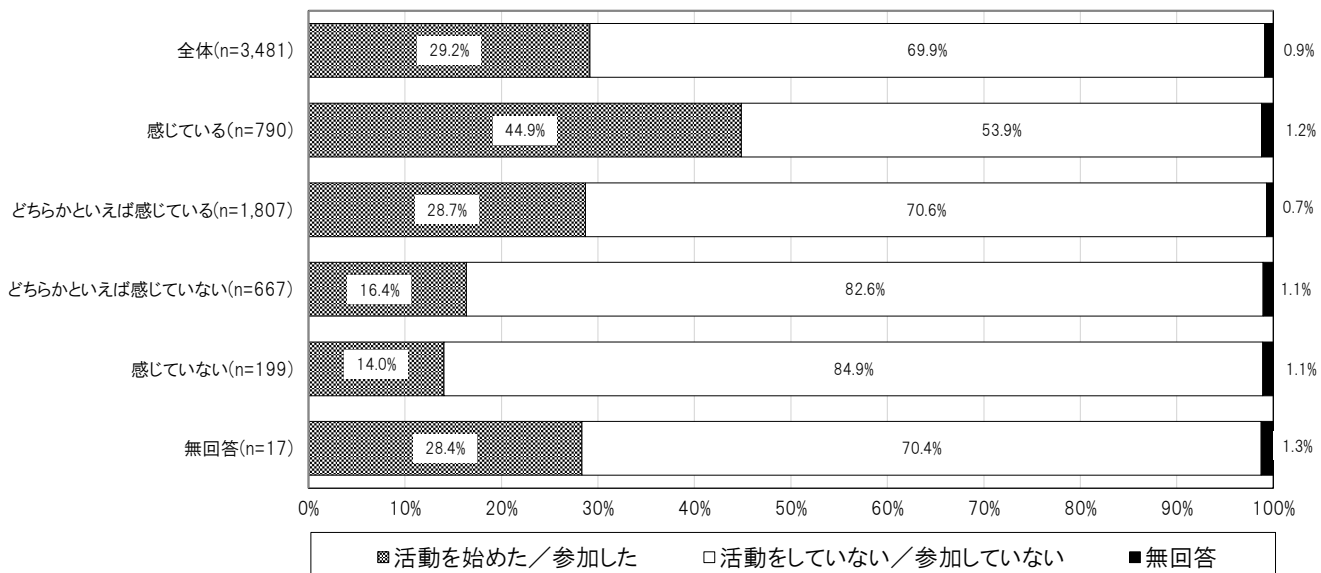
図表3-18-4 新たな活動や学びの機会の参加状況(豊田市や居住地域への愛着別)



② 「新たな活動や学びの機会の参加状況」×「生きがいの有無」

生きがいの有無別にみると、この1年以内に新たな活動や学びの機会に「活動を始めた/参加した」と回答した市民の割合は、生きがいを「感じている」と回答した市民で44.9%と最も高くなっています。一方、生きがいを「感じていない」と回答した市民の割合は14.0%と最も低くなっています。

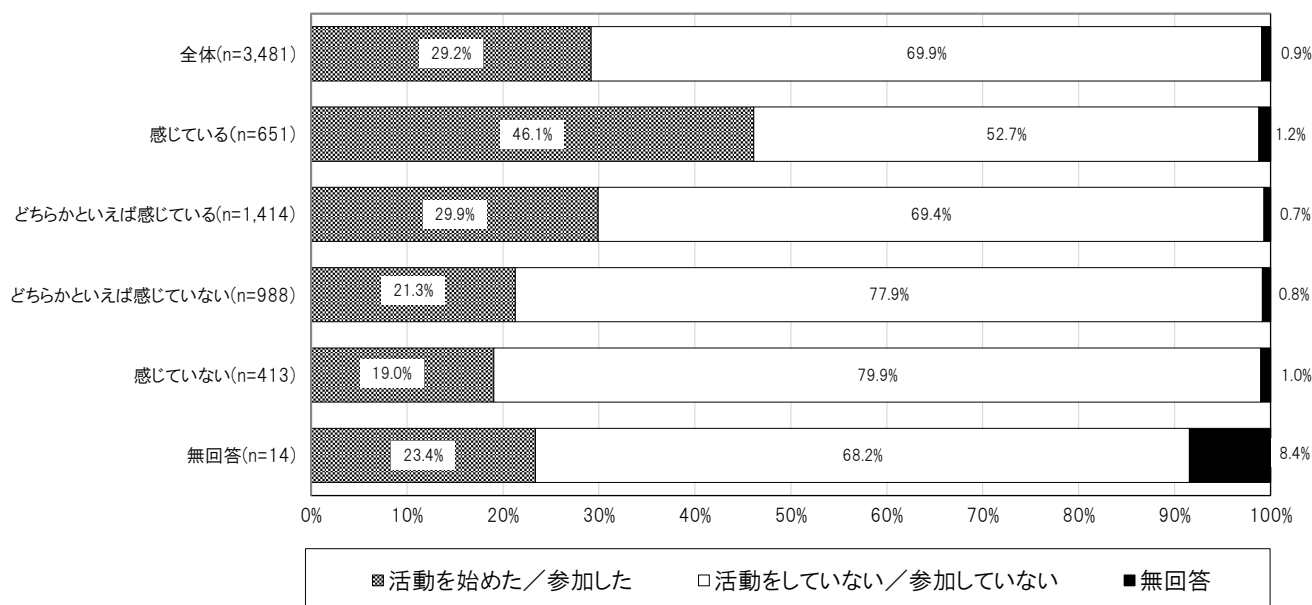
図表3-18-5 新たな活動や学びの機会の参加状況(生きがいの有無別)



③ 「新たな活動や学びの機会の参加状況」×「人や地域とのつながりの有無」

人や地域とのつながりの有無別にみると、この1年以内に新たな活動や学びの機会に「活動をはじめた/参加した」と回答した市民の割合は、人や地域とのつながりを「感じている」と回答した市民で46.1%と最も高くなっています。一方、つながりを「感じていない」と回答した市民の割合は19.0%と最も低くなっています。

図表3-18-6 新たな活動や学びの機会の参加状況(人や地域とのつながりの有無別)



(4) 希望する働き方の実現

問 29

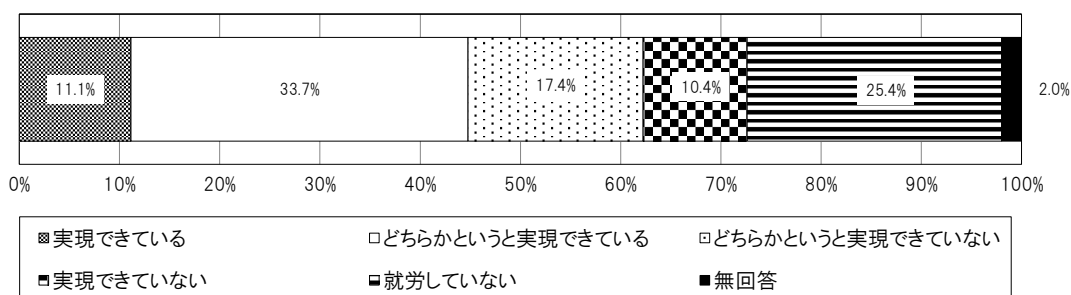
あなたは、ご自身が希望する働き方を実現できていると感じていますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

自身が希望する働き方を実現できている（「実現できている」＋「どちらかというと実現できている」）と回答した市民の割合は 44.8%で、実現できていない（「実現できていない」＋「どちらかというと実現できていない」）と回答した市民の割合は 27.8%となっています。

図表3-19-1 希望する働き方の実現

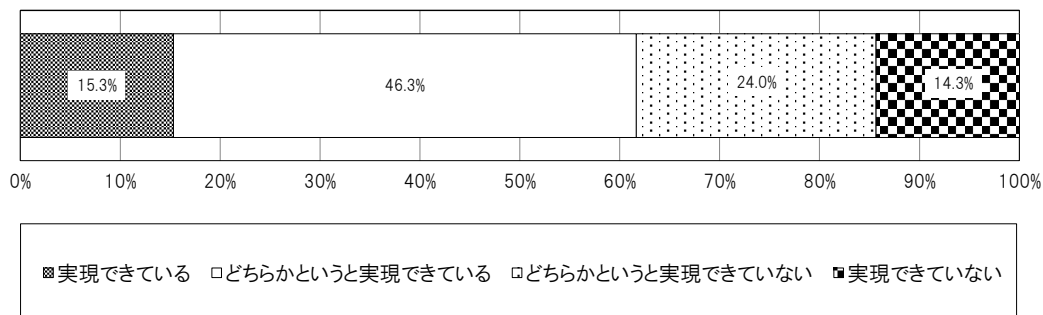
n=3,481



このうち、「就労していない」、「無回答」を除いて集計すると、自身が希望する働き方を実現できていると回答した市民の割合は 61.6%で、実現できていないと回答した市民の割合が 38.3%となっています。

図表3-19-2 希望する働き方の実現

n=2,528



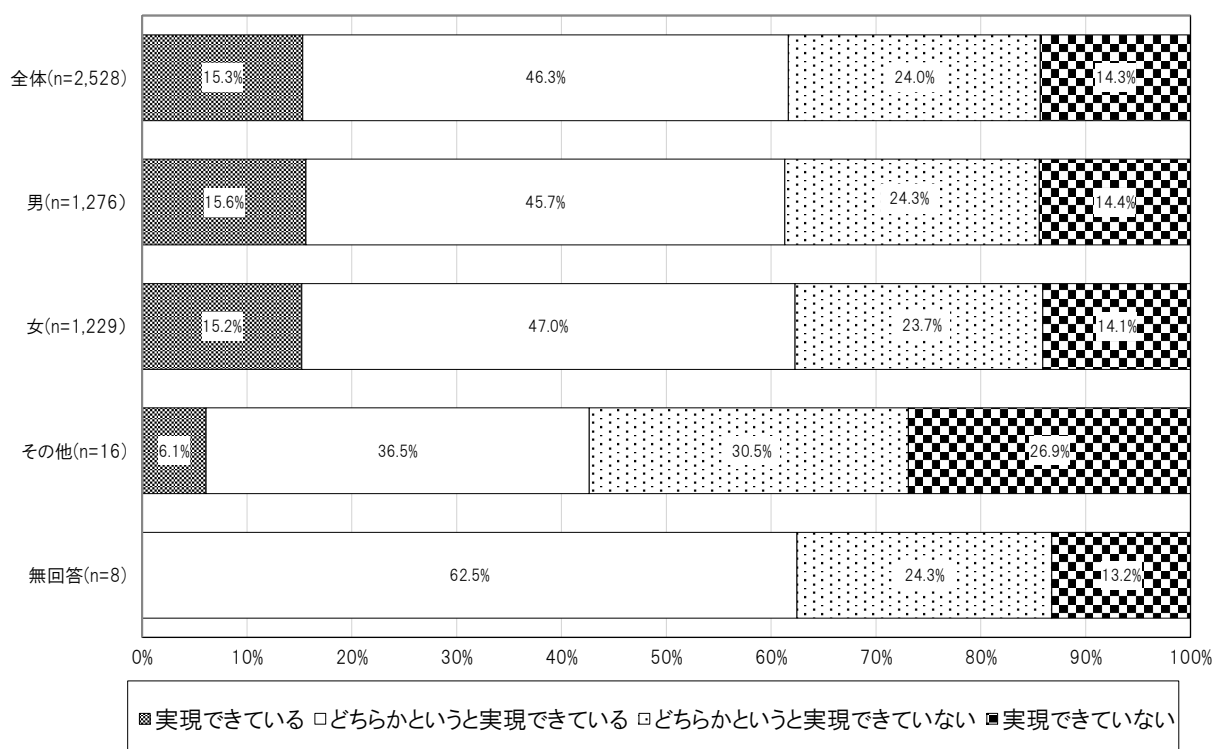
2) 属性分析結果

※本設問においては、「就労していない」、「無回答」と回答した市民を除いて属性分析を実施しました。

① 「希望する働き方の実現」×「性別」

性別でみると、希望する働き方を実現できていると回答した市民の割合は、男性で 61.3%、女性で 62.2%となっています。

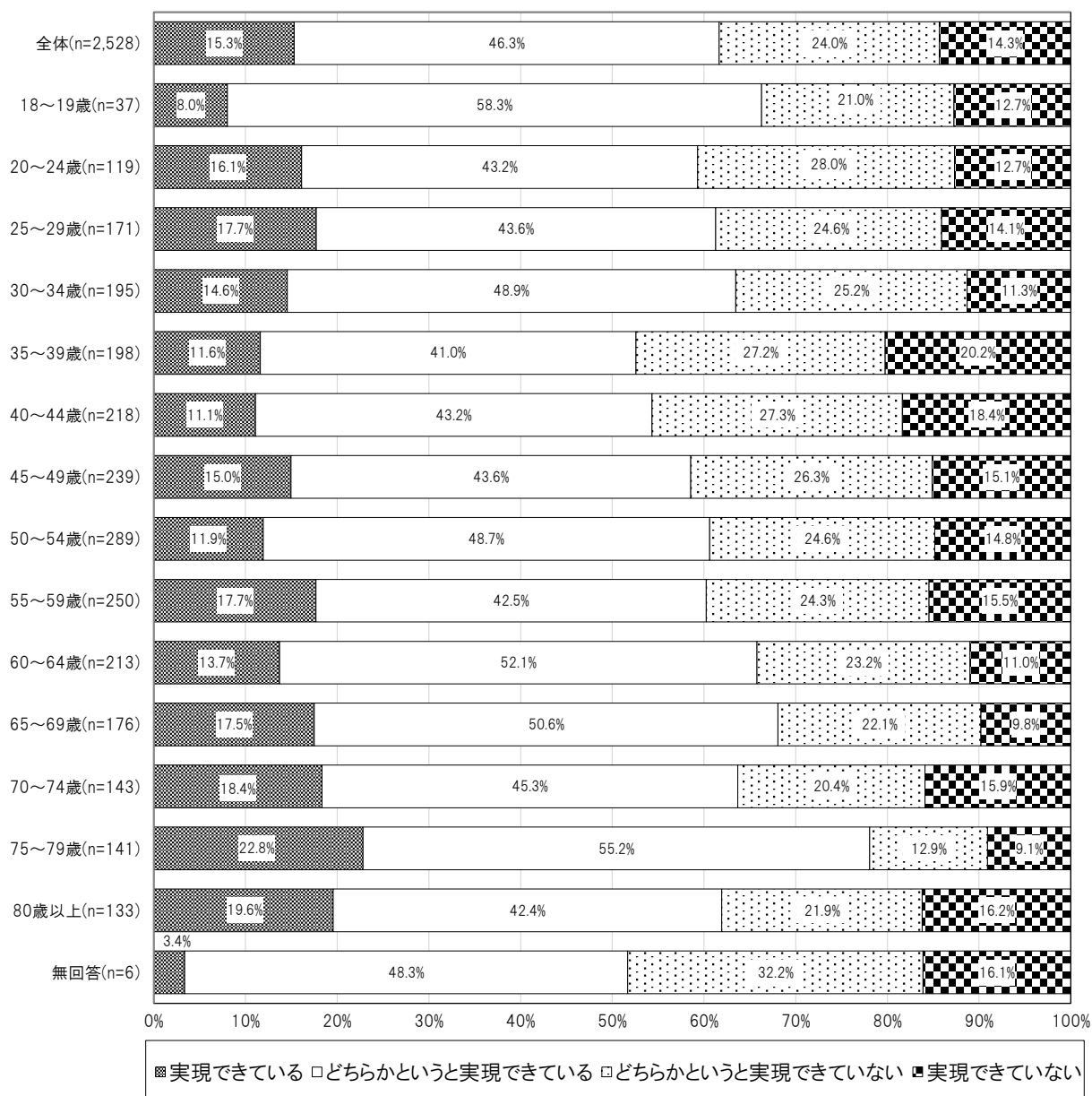
図表3-19-3 希望する働き方の実現(性別)



② 「希望する働き方の実現」×「年齢」

年齢別にみると、希望する働き方を実現できていると回答した市民の割合は、75～79 歳が 78.0%で最も高く、次いで 65～69 歳が 68.1%となっています。一方、実現できていないと回答した市民の割合は、35～39 歳が 47.4%と最も高く、次いで 40～44 歳が 45.7%となっています。

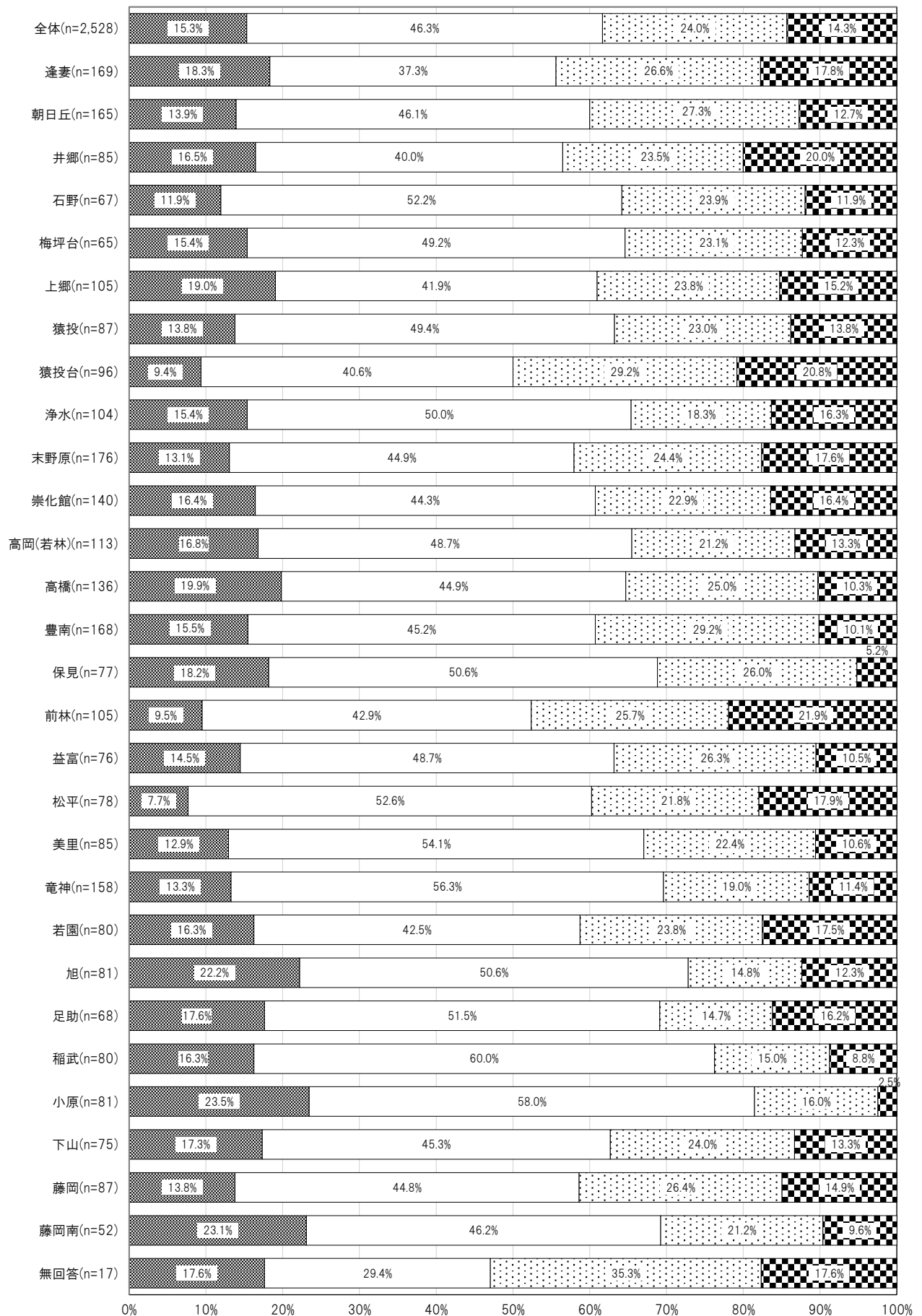
図表3-19-4 希望する働き方の実現(年齢別)



③ 「希望する働き方の実現」×「居住地区」

居住地区別にみると、希望する働き方を実現できていると回答した市民の割合は、小原が81.5%で最も高く、次いで稲武が76.3%、旭が72.8%となっています。一方、実現できていないと回答した市民の割合は、猿投台が50.0%と最も高く、次いで前林が47.6%、逢妻が44.4%となっています。

図表3-19-5 希望する働き方の実現(居住地区別)

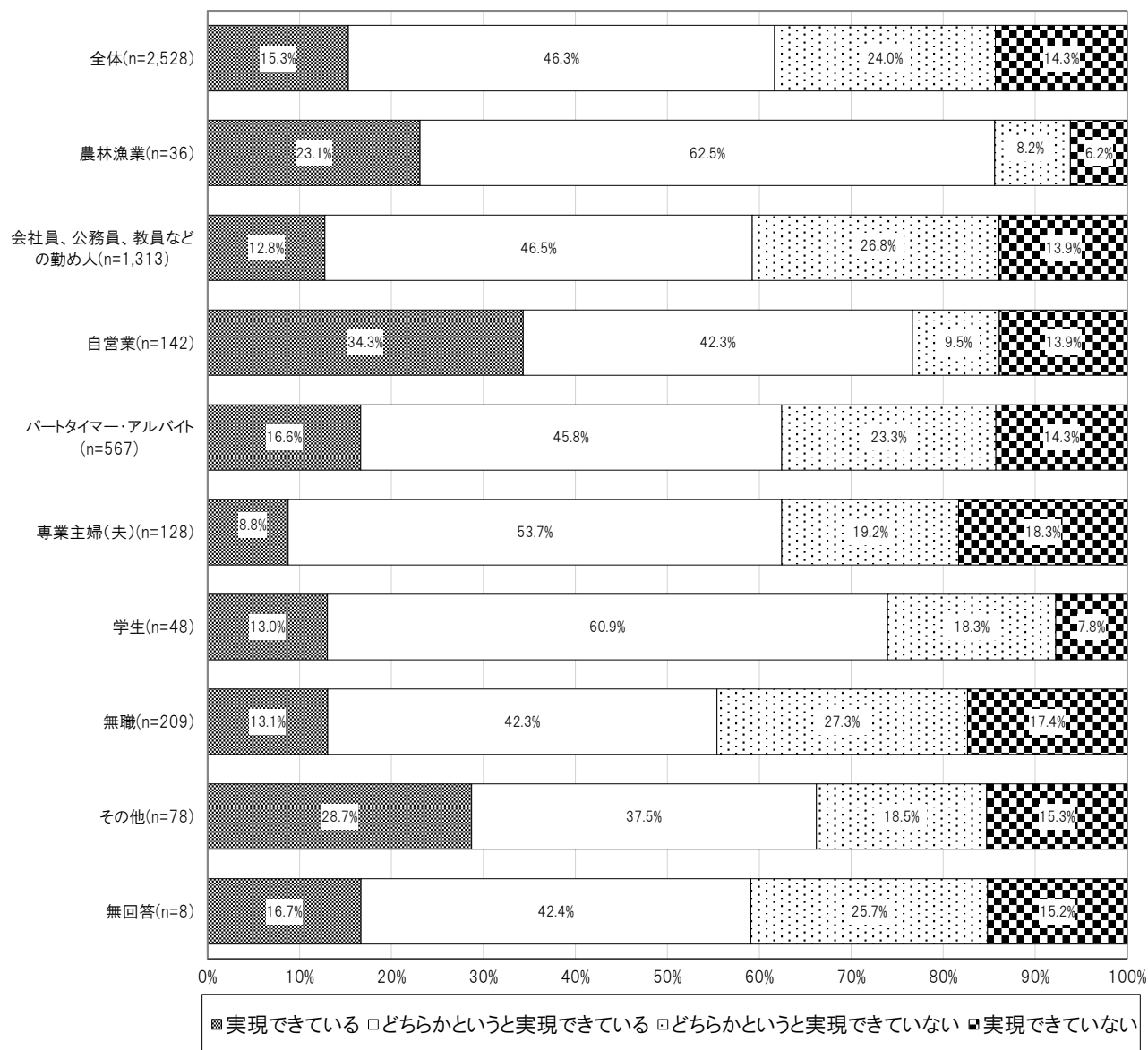


■実現できている □どちらかという実現できている □どちらかという実現できていない ■実現できていない

④ 「希望する働き方の実現」×「職業」

職業別にみると、希望する働き方を実現できていると回答した市民の割合は、農林漁業が85.6%で最も高く、次いで自営業が76.6%となっています。一方、実現できていないと回答した市民の割合は、無職を除き、会社員、公務員、教員などの勤め人が40.7%と最も高く、次いでパートタイマー・アルバイトが37.6%となっています。

図表3-19-6希望する働き方の実現(職業別)



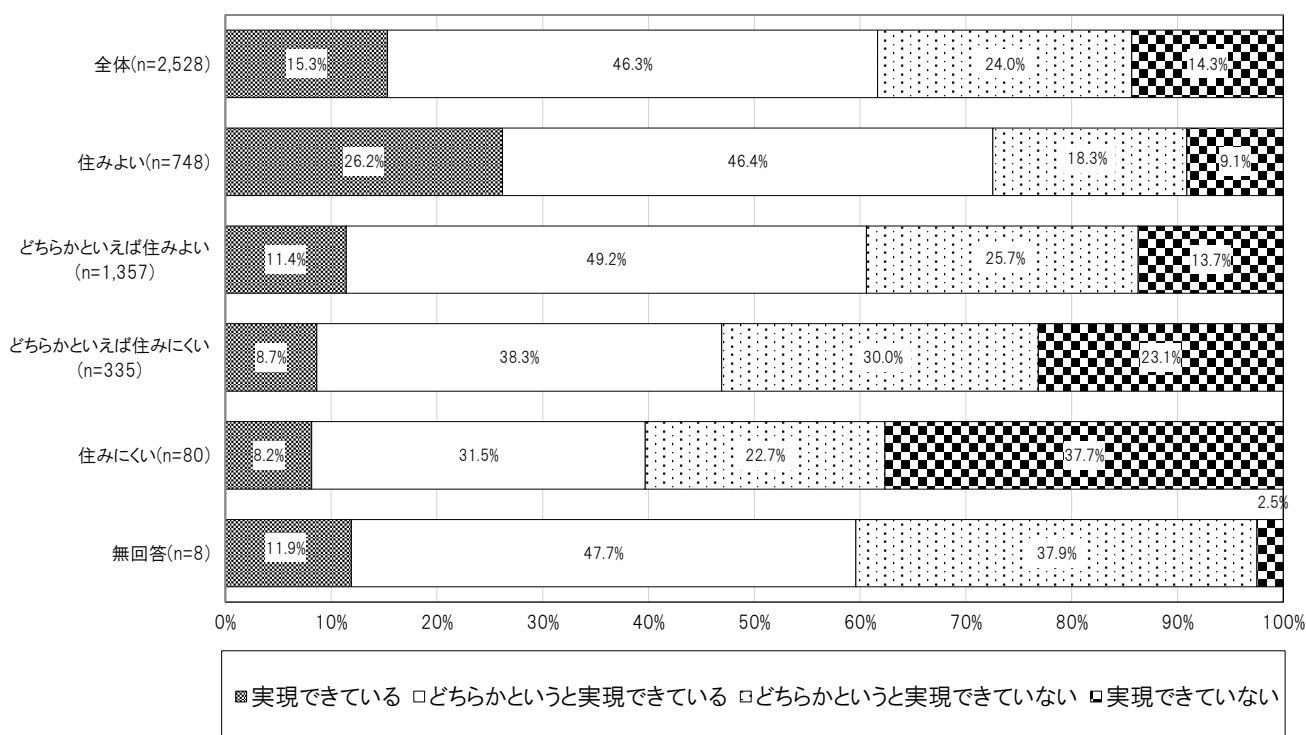
3) 設問間分析結果

※本設問においては、「就労していない」、「無回答」と回答した市民を除いて設問間分析を実施しました。

① 「希望する働き方の実現」×「住みよさ」

住みよさ別にみると、希望する働き方を実現できていると回答した市民の割合は、「住みよい」と回答した市民で 72.6%と最も高くなっています。豊田市が住みよいと感じている市民ほど、希望する働き方が「実現できている」と回答した割合が高くなっています。

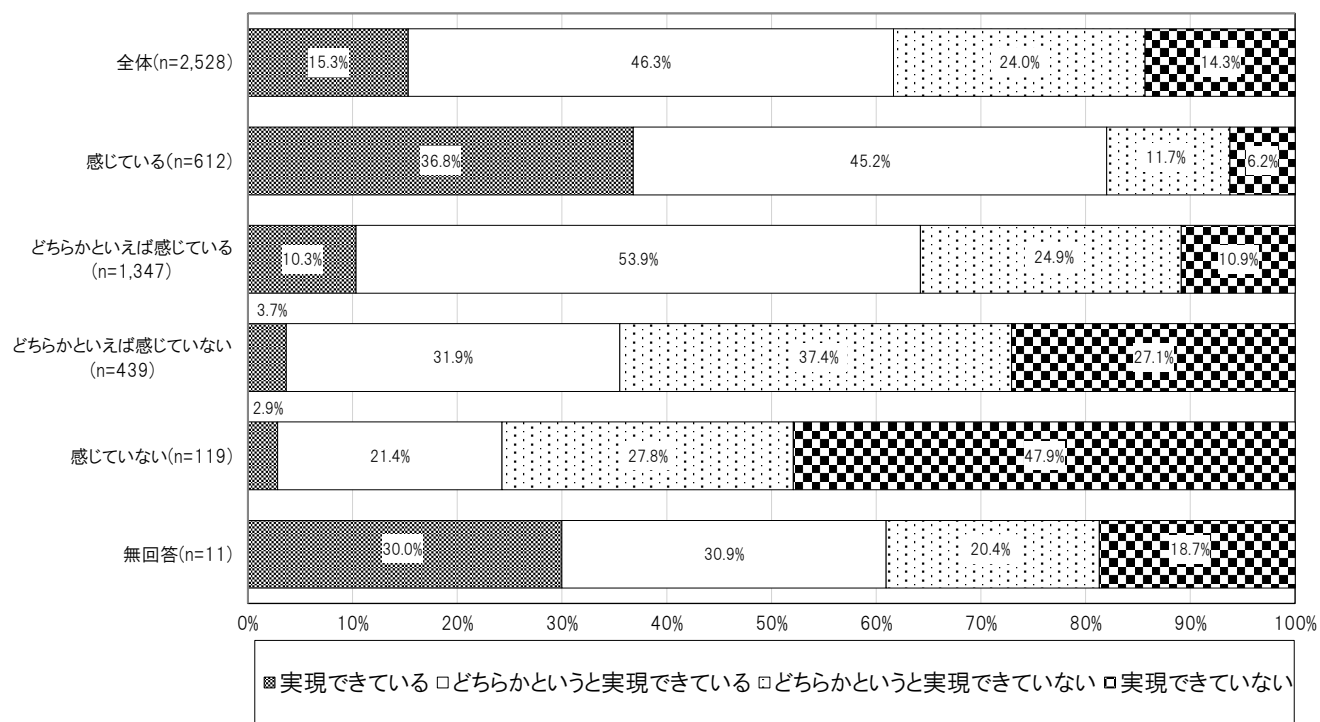
図表3-19-7 希望する働き方の実現(住みよさ別)



② 「希望する働き方の実現」×「生きがいの有無」

生きがいの有無別にみると、希望する働き方を実現できていると回答した市民の割合は、生きがいを「感じている」と回答した市民で 82.0%と最も高くなっています。一方、生きがいを「感じていない」と回答した市民では 24.3%と低くなっています。生きがいを感じている人ほど希望する働き方を実現できる傾向があります。

図表3-19-8 希望する働き方の実現(生きがいの有無別)



5 豊田市のまちづくり

(1) 行政サービスのデジタル化の利便性

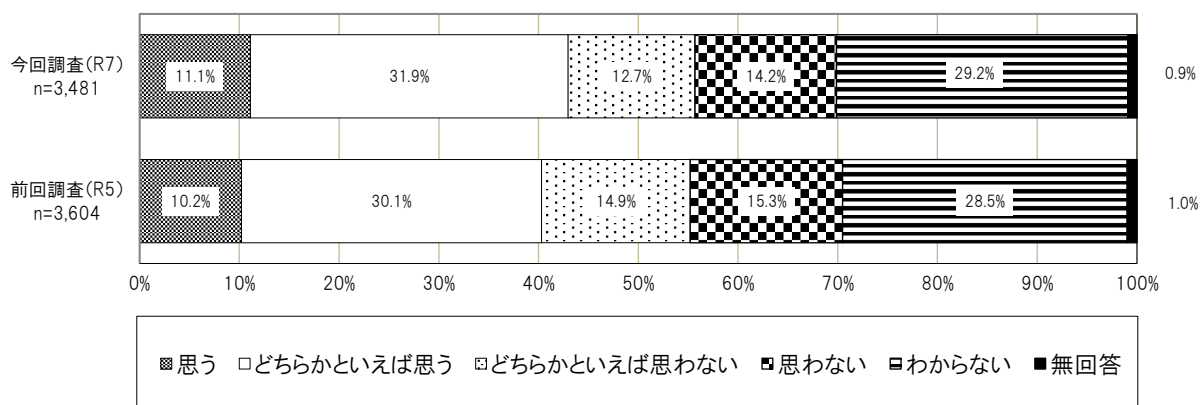
問 30

あなたはデジタル化によって豊田市の行政サービスが便利になったと感じますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

デジタル化によって豊田市の行政サービスが便利になったと感じる(「思う」+「どちらかと言えば思う」)と回答した市民の割合は、43.0%となっており、前回調査と比較して 2.7 ポイント増加しています。一方、感じない(「どちらかと言えば思わない」+「思わない」)と回答した市民の割合は 26.9%で前回調査から 3.3 ポイント減少しています。

図表3-20-1 行政サービスのデジタル化の利便性(前回調査との比較)

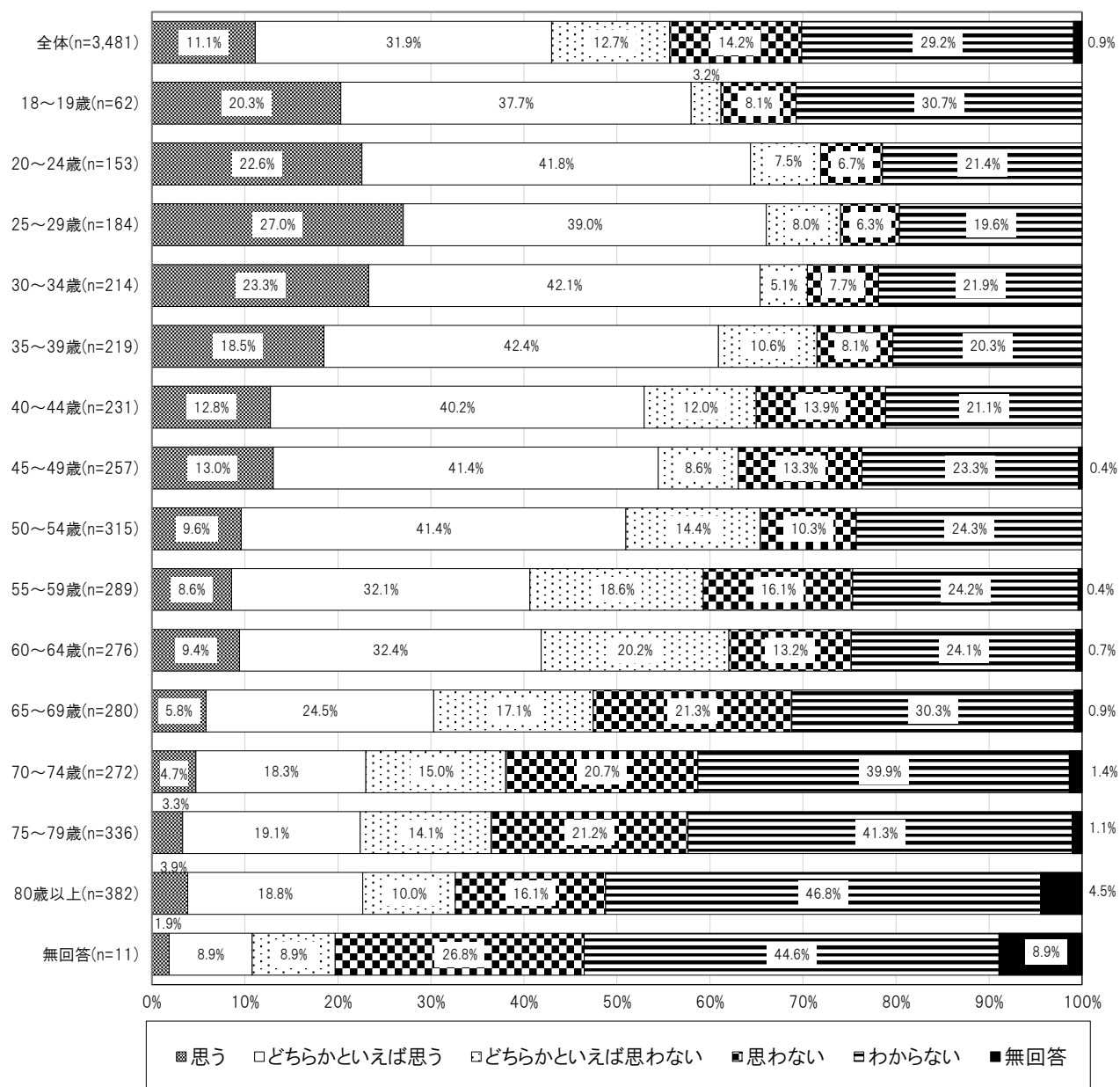


2) 属性分析結果

① 「行政サービスのデジタル化の利便性」×「年齢」

年齢別にみると、デジタル化によって豊田市の行政サービスが便利になったと感じると回答した市民の割合は、25～29 歳が 66.0%と最も高く、次いで 30～34 歳が 65.4%、20～24 歳が 64.4%となっています。一方、感じないと回答した市民の割合は、65～69 歳が 38.4%と最も高く、次いで 70～74 歳が 35.7%となっています。また、65 歳を超えると、「わからない」の割合が高くなっています。

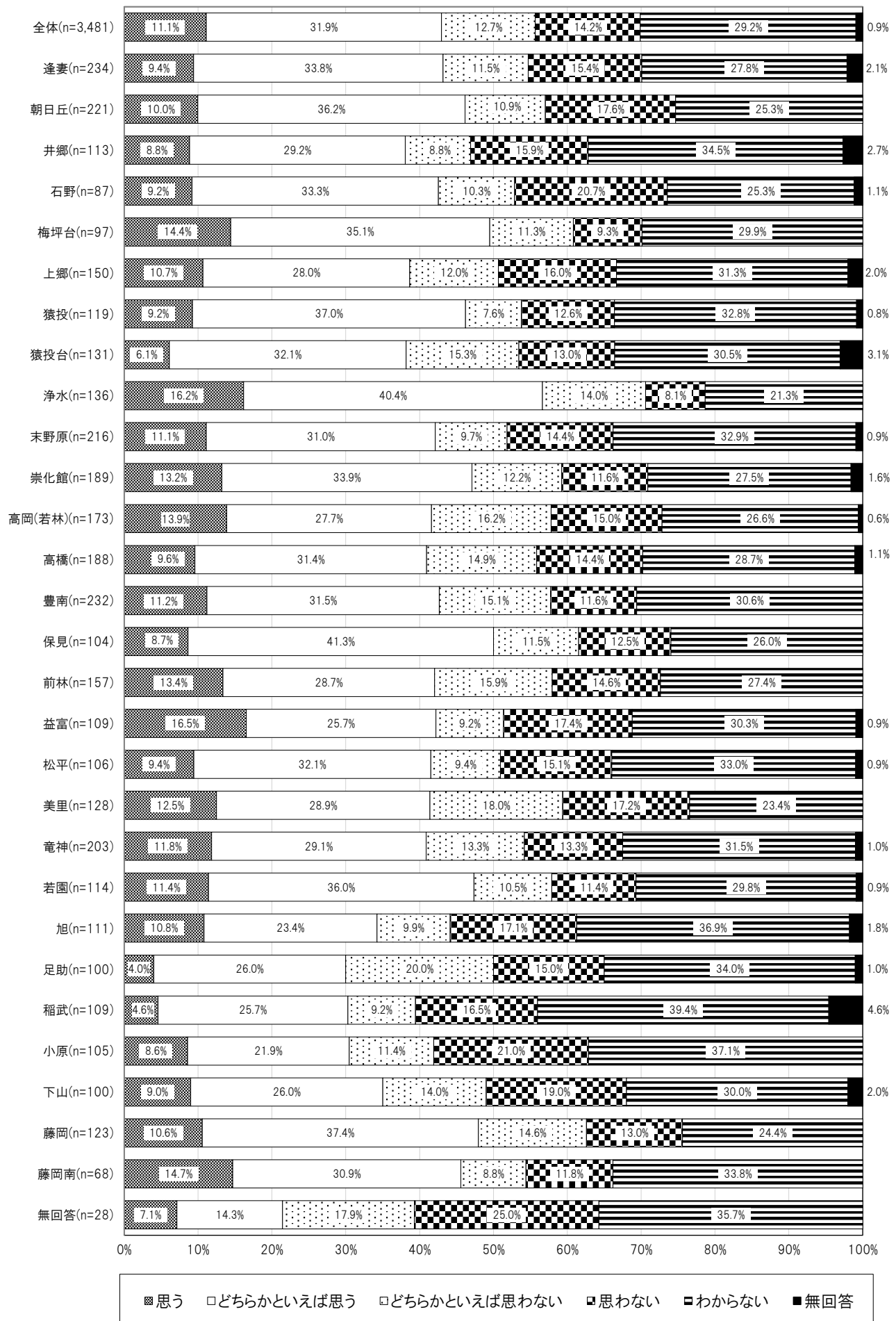
図表3-20-2 行政サービスのデジタル化の利便性(年齢別)



② 「行政サービスのデジタル化の利便性」×「居住地区」

居住地区別にみると、デジタル化によって豊田市の行政サービスが便利になったと感じると回答した市民の割合は、浄水が 56.6%と最も高く、次いで保見が 50.0%、梅坪台が 49.5%となっています。

図表3-20-3 行政サービスのデジタル化の利便性(居住地区別)



(2) 出産・子育てがしやすいまち

問 31

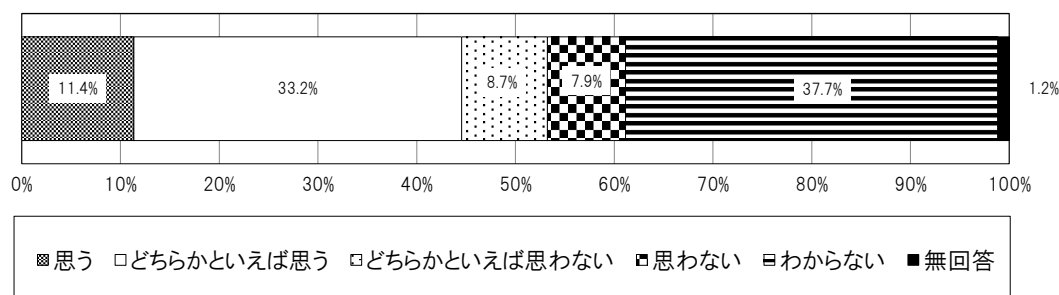
あなたは、豊田市について「出産・子育てがしやすいまち」だと思いますか。
(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市が「出産・子育てがしやすいまち」だと思う（「思う」＋「どちらかといえば思う」）と回答した市民の割合は 44.6%で、思わない（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）と回答した市民の割合は 16.6%となっています。

図表3-21-1 出産・子育てがしやすいまち

n=3,481

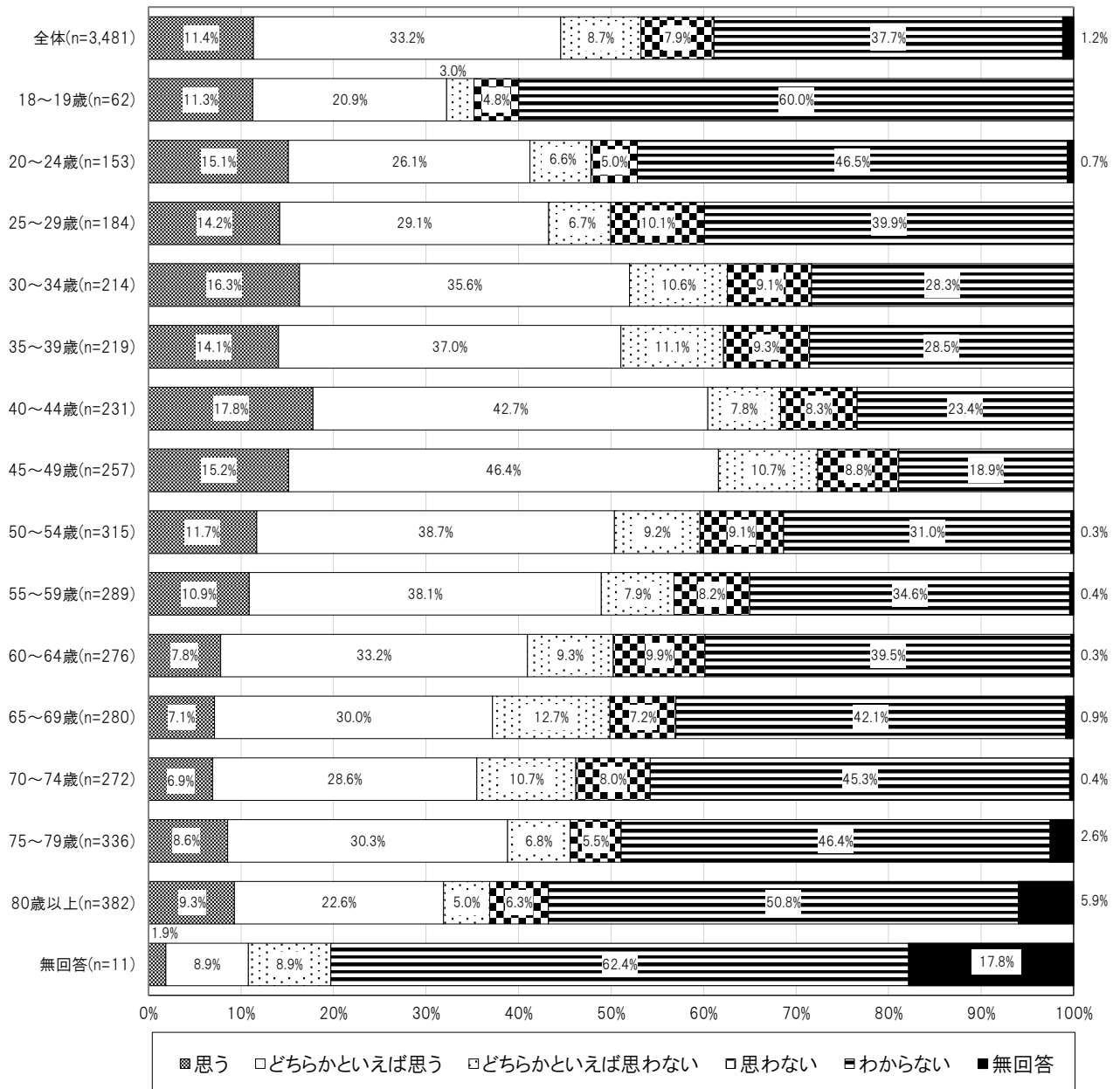


2) 属性分析結果

① 「出産・子育てがしやすいまち」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市が「出産・子育てしやすいまち」だと思うと回答した市民の割合は、45～49 歳が 61.6%で最も高く、次いで 40～44 歳が 60.5%、30～34 歳が 51.9%、35～39 歳が 51.1%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、25～29 歳から 70～74 歳の間では、約 20%で推移しています。豊田市が「出産・子育てしやすいまち」だと思うと回答した市民の割合は、30～50 代の割合が高い傾向にあります。

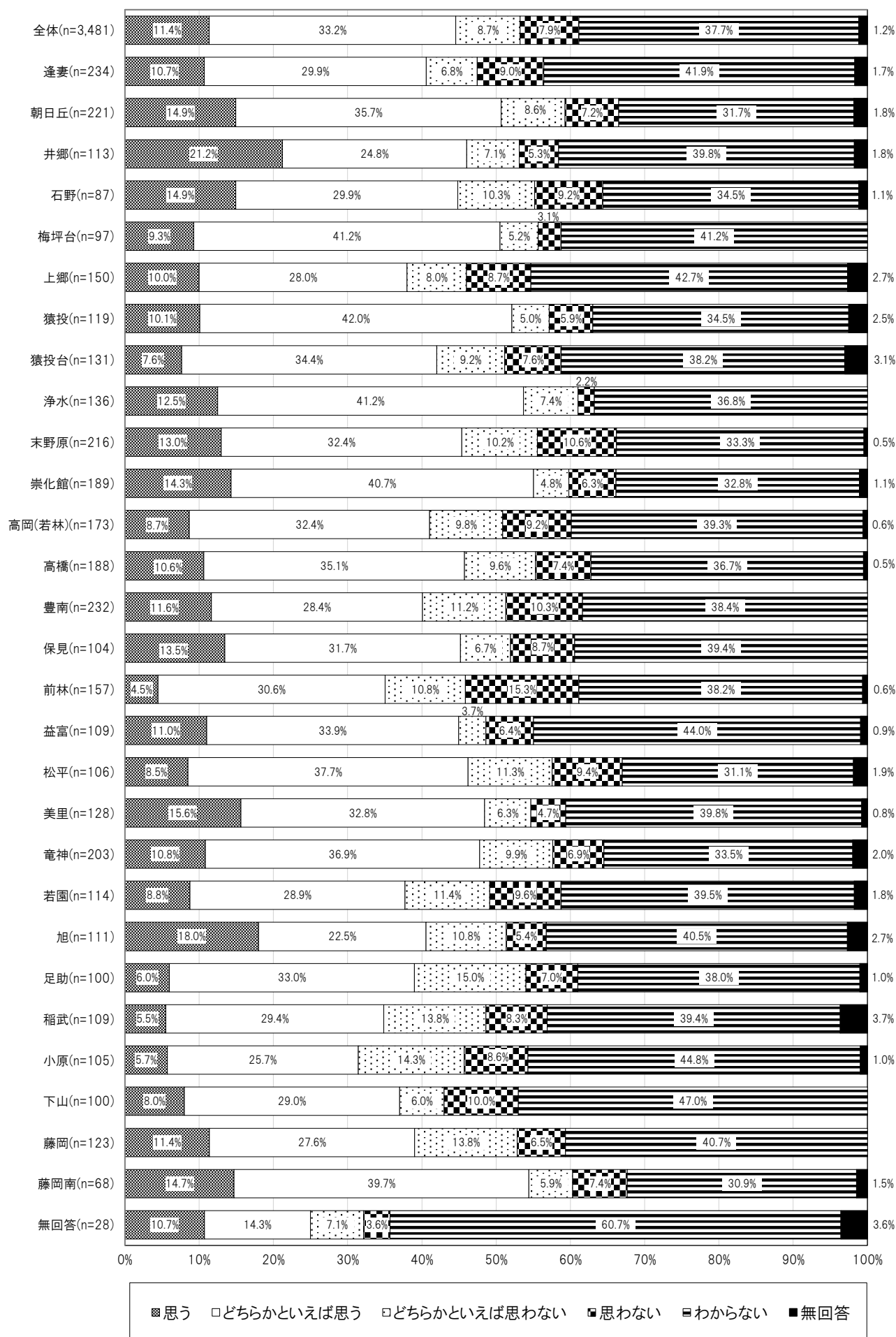
図表3-21-2 出産・子育てがしやすいまち(年齢別)



② 「出産・子育てがしやすいまち」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市が出産・子育てしやすいまちだと思うと回答した市民の割合は、崇化館が 55.0%で最も高く、次いで藤岡南が 54.4%、浄水が 53.7%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、前林が 26.1%と最も高くなっています。

図表3-21-3 出産・子育てがしやすいまち(居住地区別)

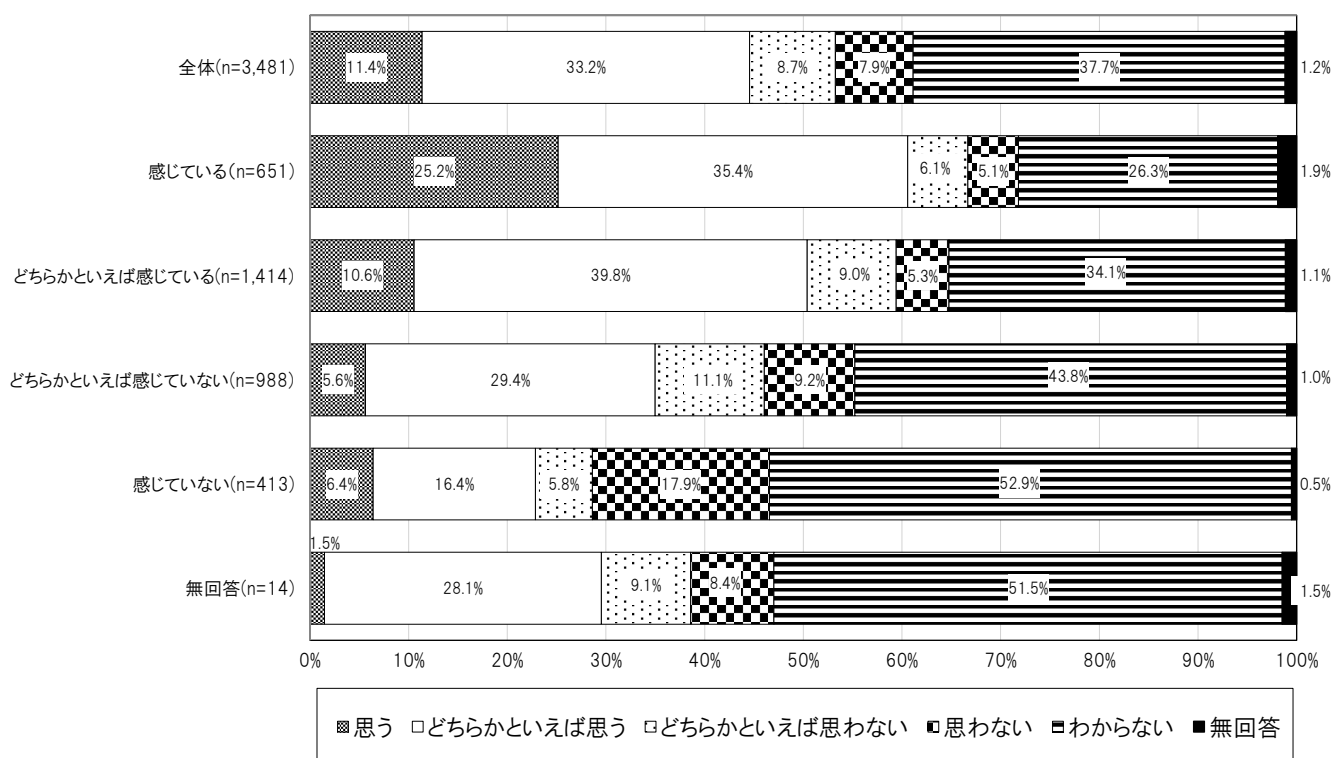


3) 設問間分析結果

① 「出産・子育てがしやすいまち」×「人や地域とのつながりの有無」

人や地域とのつながりの有無別にみると、豊田市が出産・子育てしやすいまちだと思うと回答した市民の割合は、人や地域とのつながりを「感じている」と回答した市民で 60.6%と最も高くなっています。一方、つながりを「感じていない」と回答した市民の割合では 22.8%と低くなっています。人や地域のつながりを感じる市民ほど、出産・子育てがしやすいと思う傾向にあります。

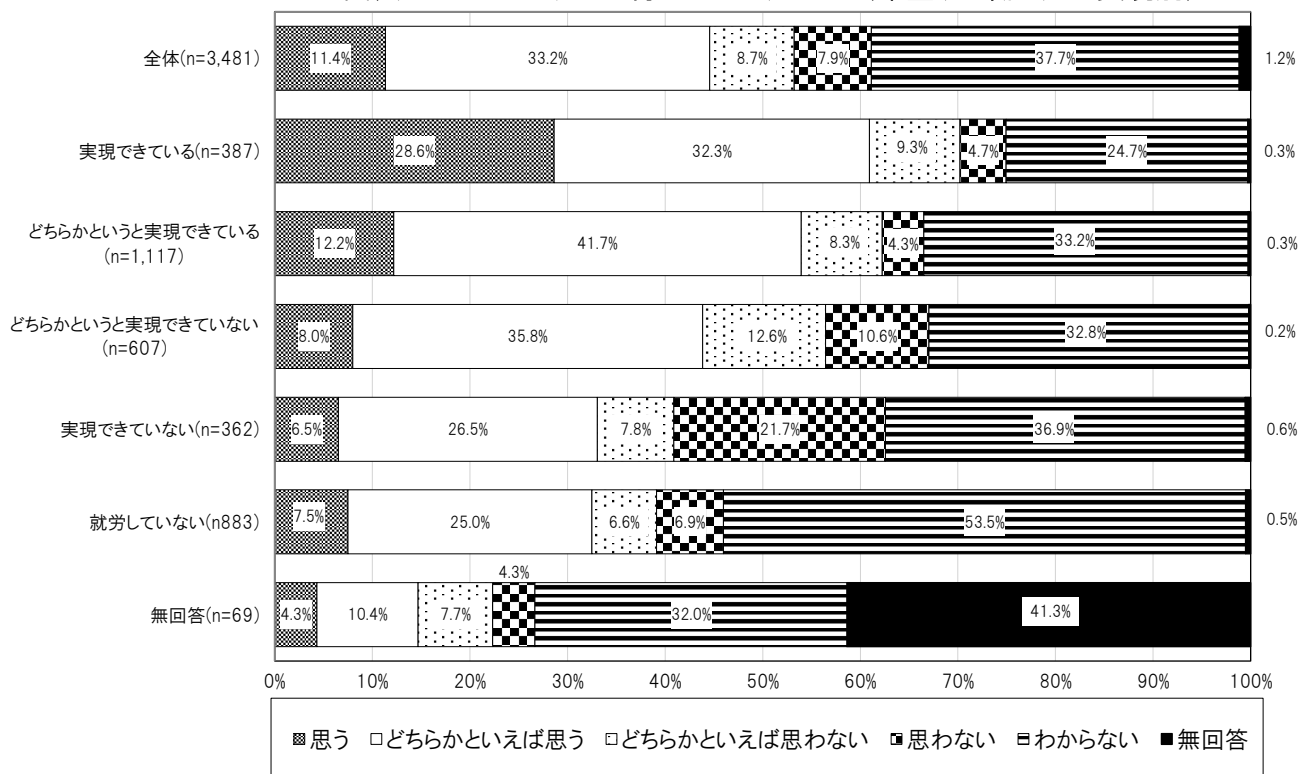
図表3-21-4 出産・子育てがしやすいまち(人や地域とのつながりの有無別)



② 「出産・子育てがしやすいまち」×「希望する働き方の実現」

希望する働き方の実現別にみると、豊田市が出産・子育てしやすいまちだと思うと回答した市民の割合は、希望する働き方を「実現できている」と回答した市民で 60.9%と最も高くなっています。一方、希望する働き方を「実現できていない」と回答した市民の割合では 33.0%と低くなっています。希望する働き方が実現できていると感じている市民ほど、出産・子育てがしやすいと思う傾向にあります。

図表3-21-5 出産・子育てがしやすいまち(希望する働き方の実現別)



(3) 地震や風水害に対して安心なまち

問 32

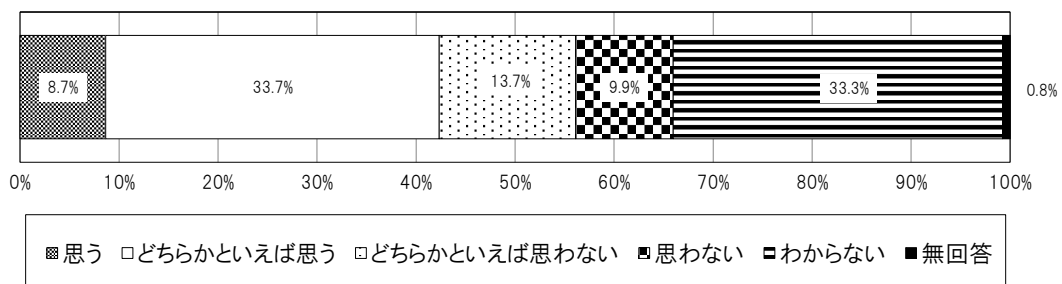
あなたは、豊田市について「地震や風水害に対して安心なまち」だと思いますか。
(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市が地震や風水害に対して安心なまちだと思う（「思う」＋「どちらかといえば思う」）と回答した市民の割合は 42.4%で、思わない（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）と回答した市民の割合は 23.6%、「わからない」と回答した市民の割合は 33.3%となっています。

図表3-22-1 地震や風水害に対して安心なまち

n=3,481

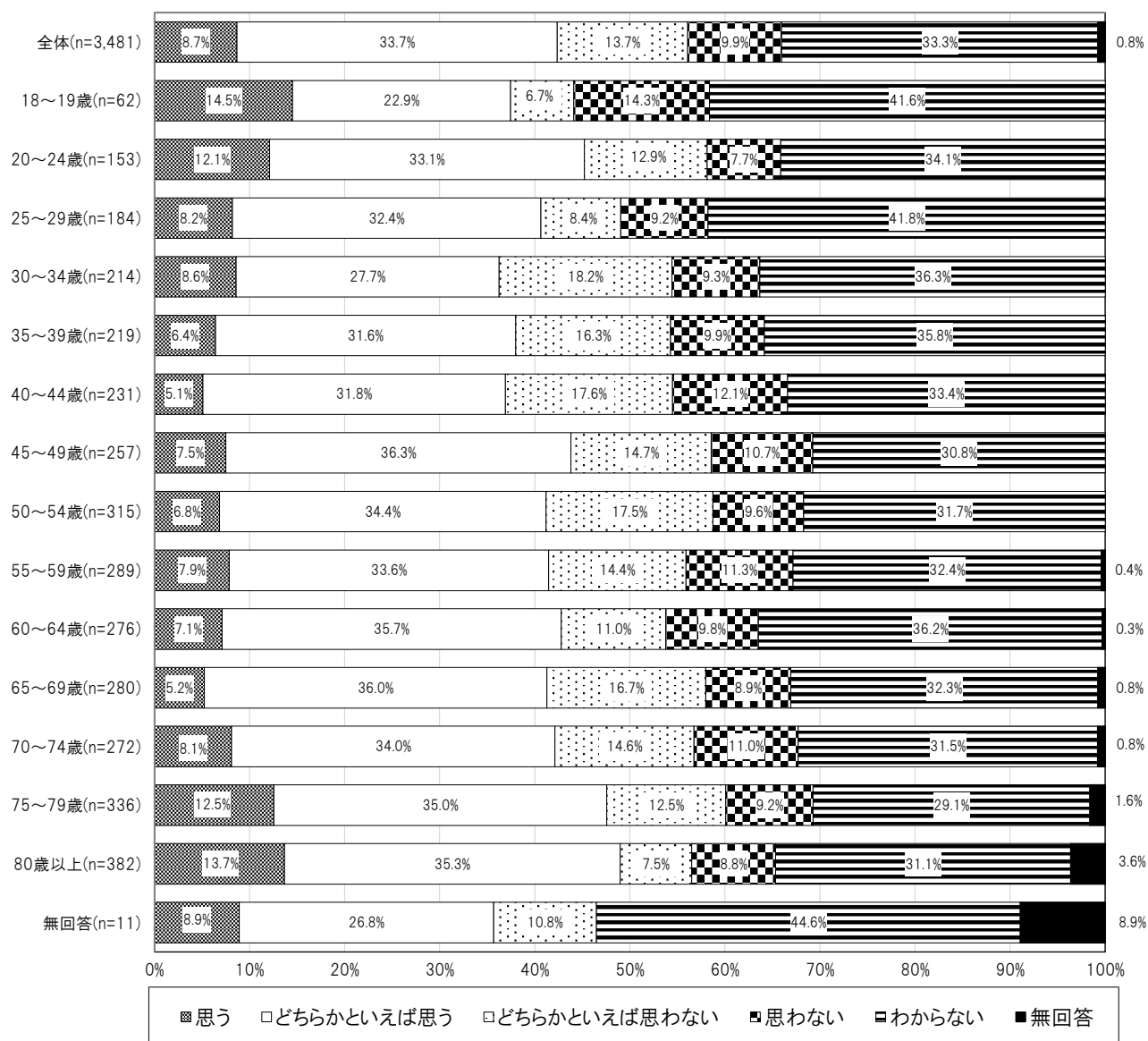


2) 属性分析結果

① 「地震や風水害に対して安心なまち」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市が地震や風水害に対して安心なまちだと思うと回答した市民の割合は、80 歳以上が 49.0%で最も高く、次いで 75～79 歳が 47.5%、20～24 歳が 45.2%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、40～44 歳が 29.7%と最も高くなっています。

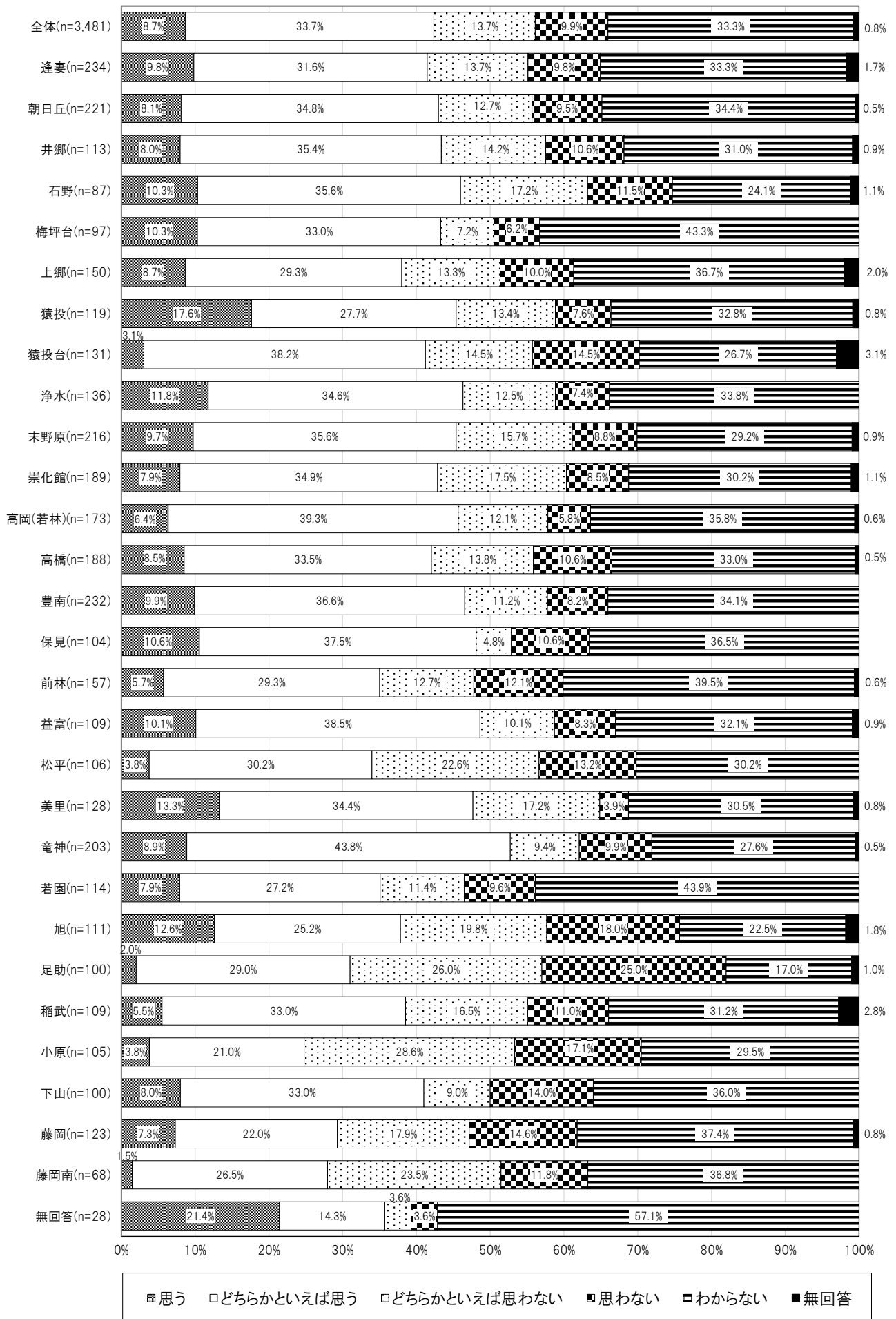
図表3-22-2 地震や風水害に対して安心なまち(年齢別)



② 「地震や風水害に対して安心なまち」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市が地震や風水害に対して安心なまちだと思うと回答した市民の割合は、竜神が 52.7%で最も高く、次いで益富が 48.6%、保見が 48.1%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、足助が 51.0%と最も高くなっています。

図表3-22-3 地震や風水害に対して安心なまち(居住地区別)



(4) 快適な住環境が整備されているまち

問 33

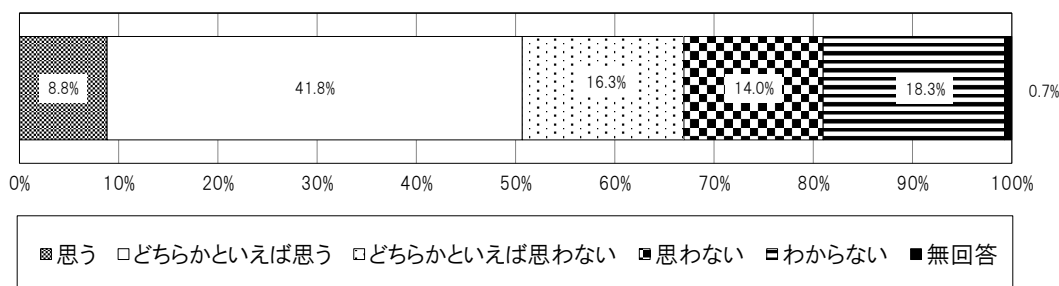
あなたは、豊田市について「快適な住環境が整備されているまち」だと思いますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市が快適な住環境が整備されているまちだと思う(「思う」+「どちらかといえば思う」)と回答した市民の割合は 50.6%で、思わない(「どちらかといえば思わない」+「思わない」)と回答した市民の割合は 30.3%となっています。

図表3-23-1 快適な住環境が整備されているまち

n=3,481

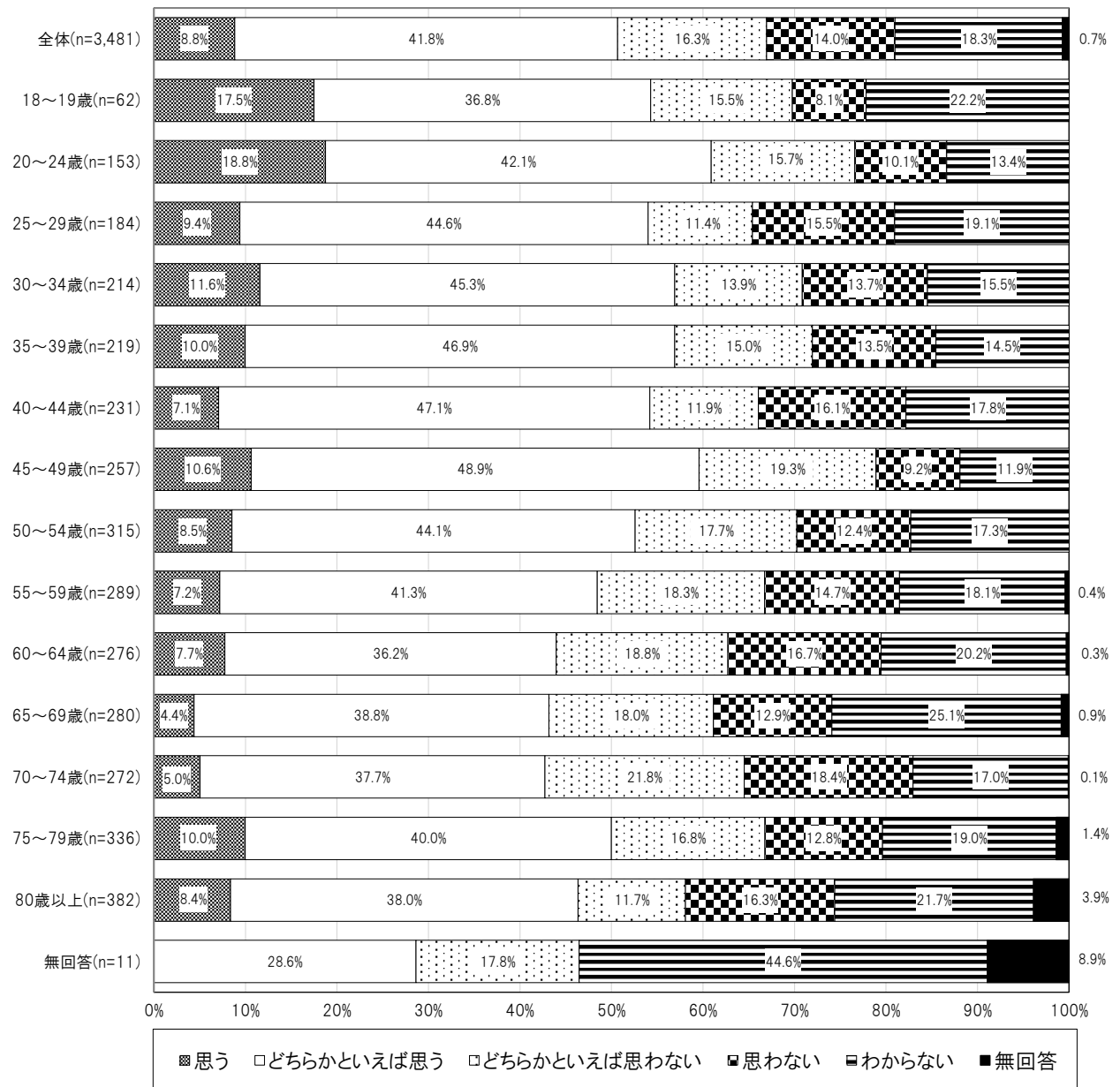


2) 属性分析結果

① 「快適な住環境が整備されているまち」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市が快適な住環境が整備されているまちだと思うと回答した市民の割合は、20～24 歳が 60.9%で最も高く、次いで 45～49 歳が 59.5%、30～34 歳と 35～39 歳が 56.9%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、70～74 歳が 40.2%と最も高くなっています。

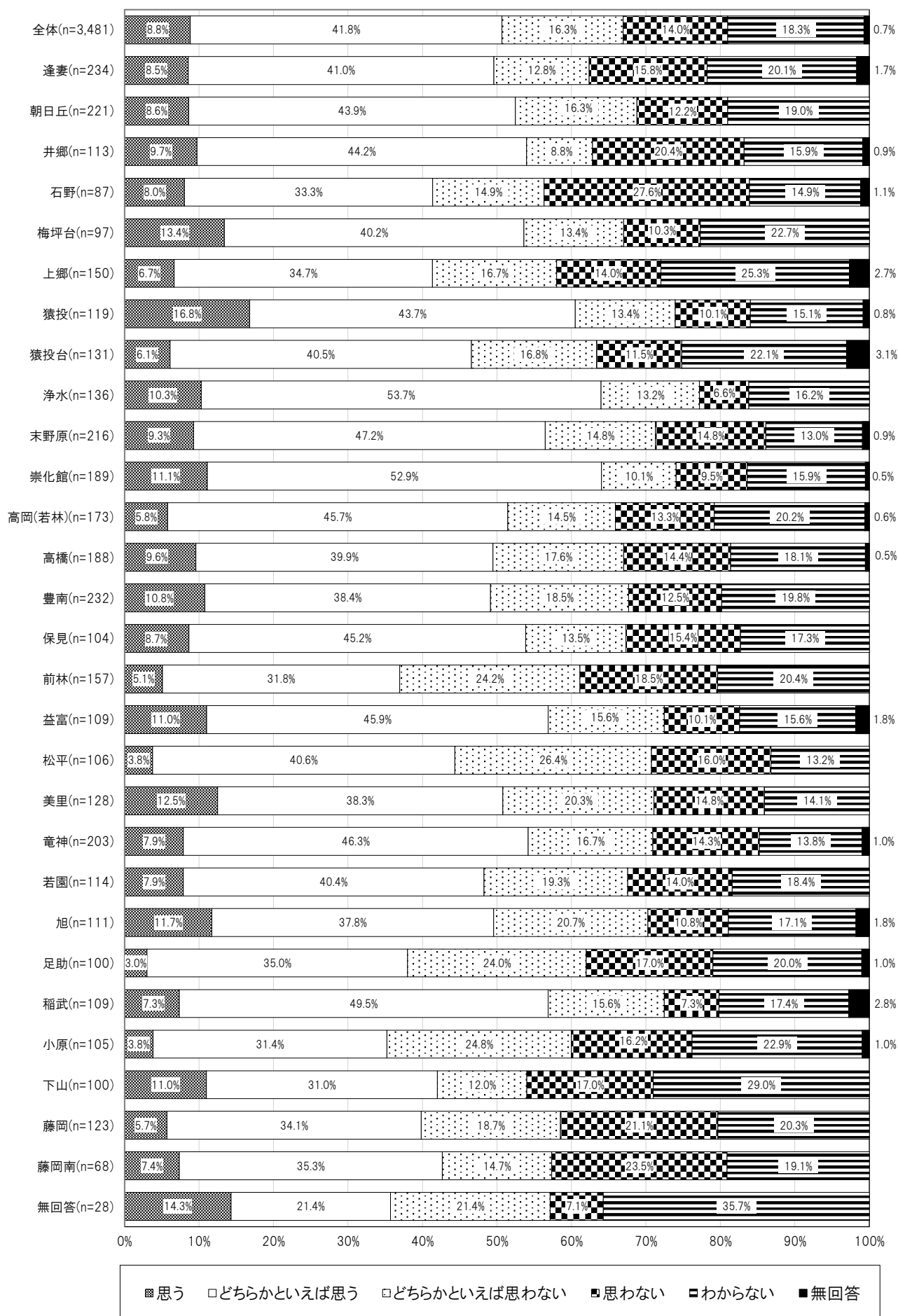
図表3-23-2 快適な住環境が整備されているまち(年齢別)



② 「快適な住環境が整備されているまち」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市が快適な住環境が整備されているまちだと思うと回答した市民の割合は、浄水と崇化館が 64.0%で最も高く、次いで猿投が 60.5%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、前林が 42.7%と最も高くなっています。

図表3-23-3 快適な住環境が整備されているまち(居住地区別)



(5) 利用しやすい公共交通が整っているまち

問 34

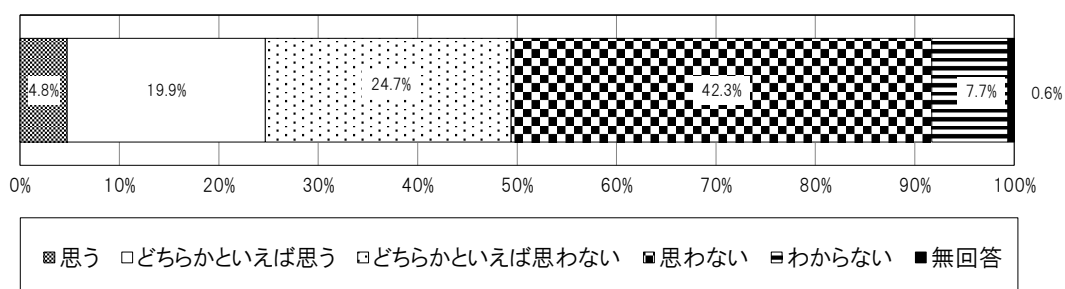
あなたは、豊田市について「利用しやすい公共交通が整っているまち」だと思いますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市が利用しやすい公共交通が整っているまちだと思う（「思う」＋「どちらかといえば思う」）と回答した市民の割合は 24.7%で、思わない（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）と回答した市民の割合は 67.0%となっています。

図表3-24-1 利用しやすい公共交通が整っているまち

n=3,481

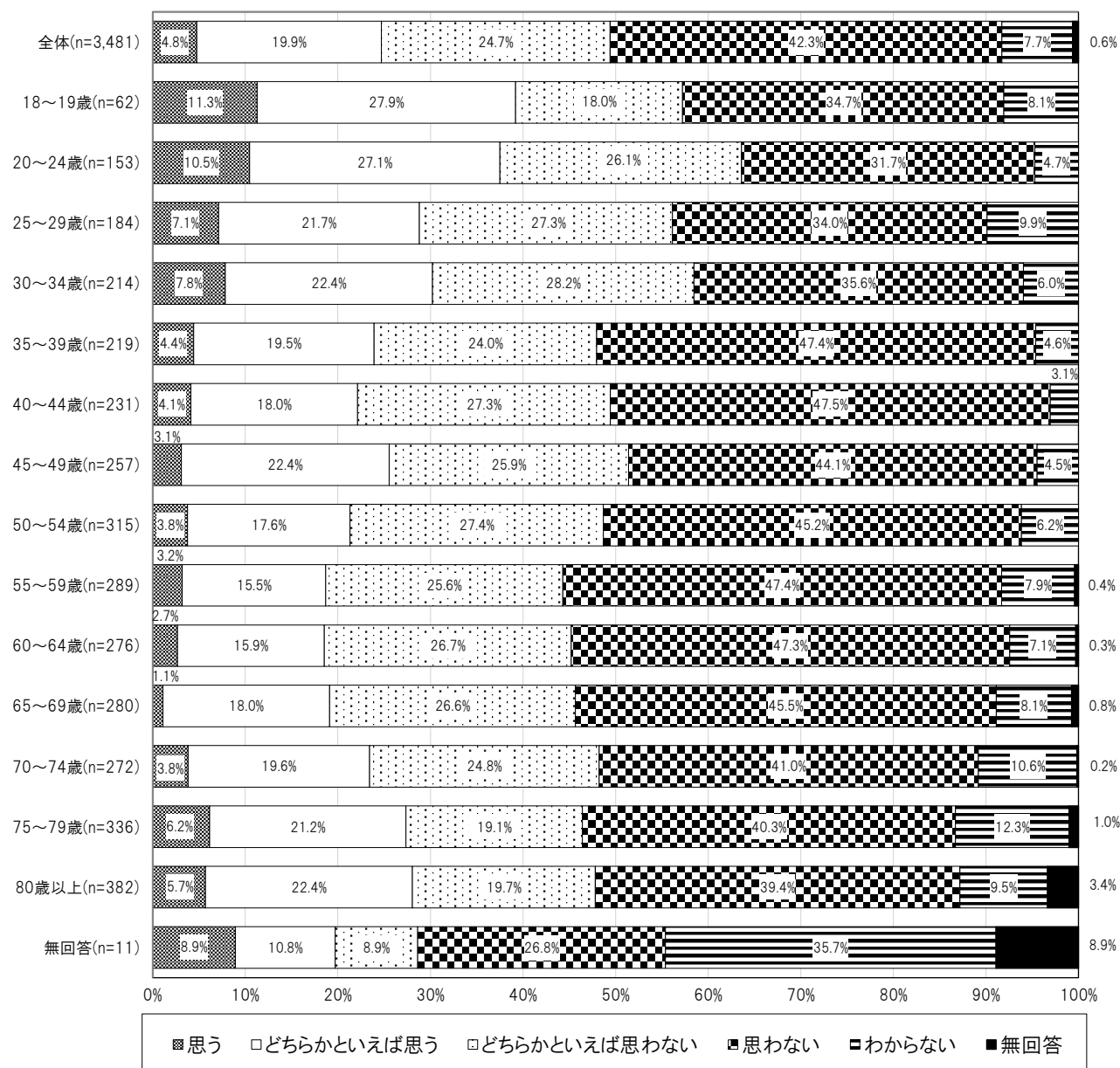


2) 属性分析結果

① 「利用しやすい公共交通が整っているまち」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市が利用しやすい公共交通が整っているまちだと思うと回答した市民の割合は、18～19 歳で 39.2%と最も高くなっていますが、20 歳を超えると低下する傾向にあります。

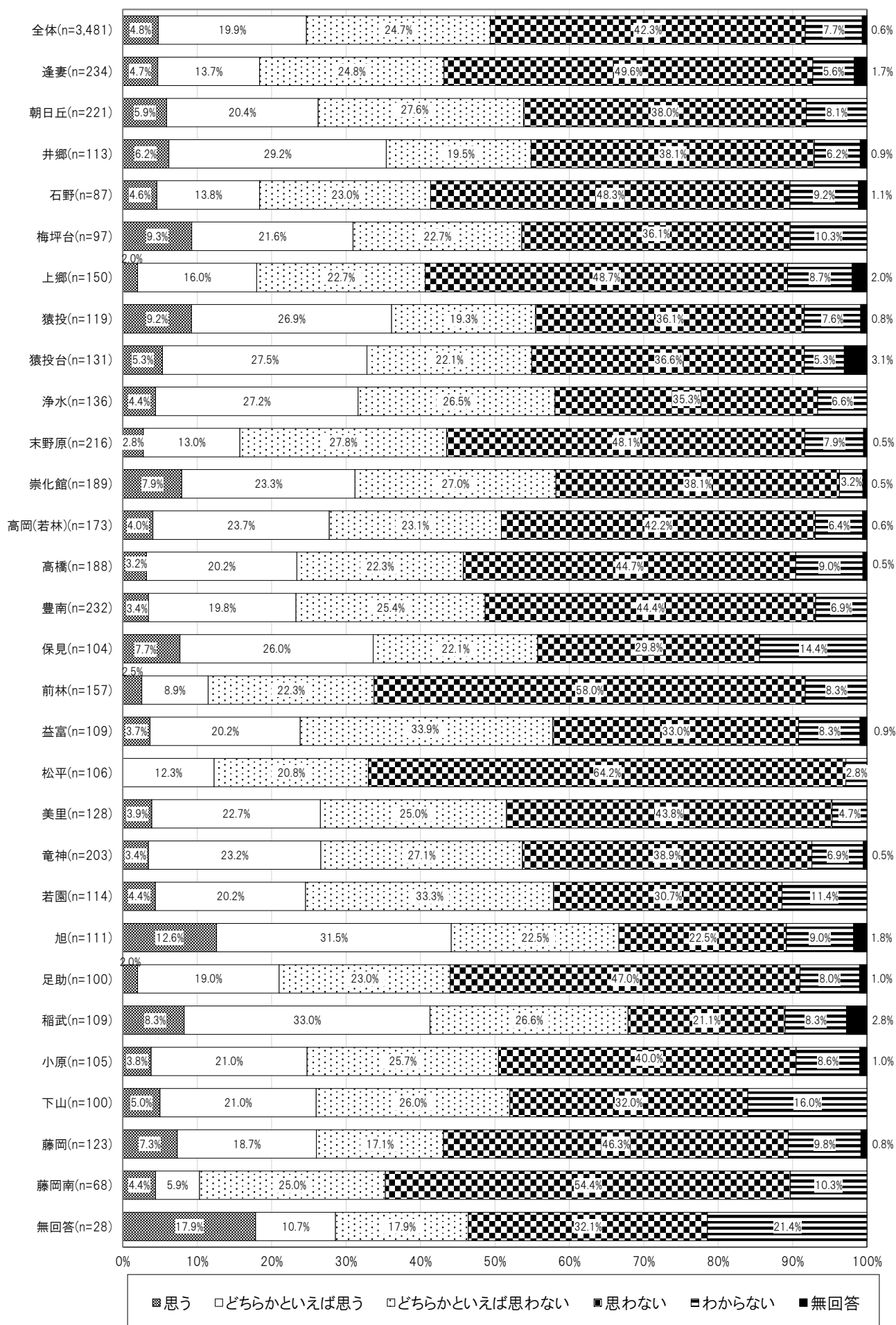
図表3-24-2 利用しやすい公共交通が整っているまち(年齢別)



② 「利用しやすい公共交通が整っているまち」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市が利用しやすい公共交通が整っているまちだと思うと回答した市民の割合は、旭が44.1%と最も高く、次いで稲武が41.3%となっています。その他地域では、豊田市が利用しやすい公共交通が整っているまちだと思わないと回答した市民の割合が50%を超え、松平が85.0%で最も高く、次いで前林が80.3%、藤岡南が79.4%となっています。

図表3-24-3 利用しやすい公共交通が整っているまち(居住地区別)

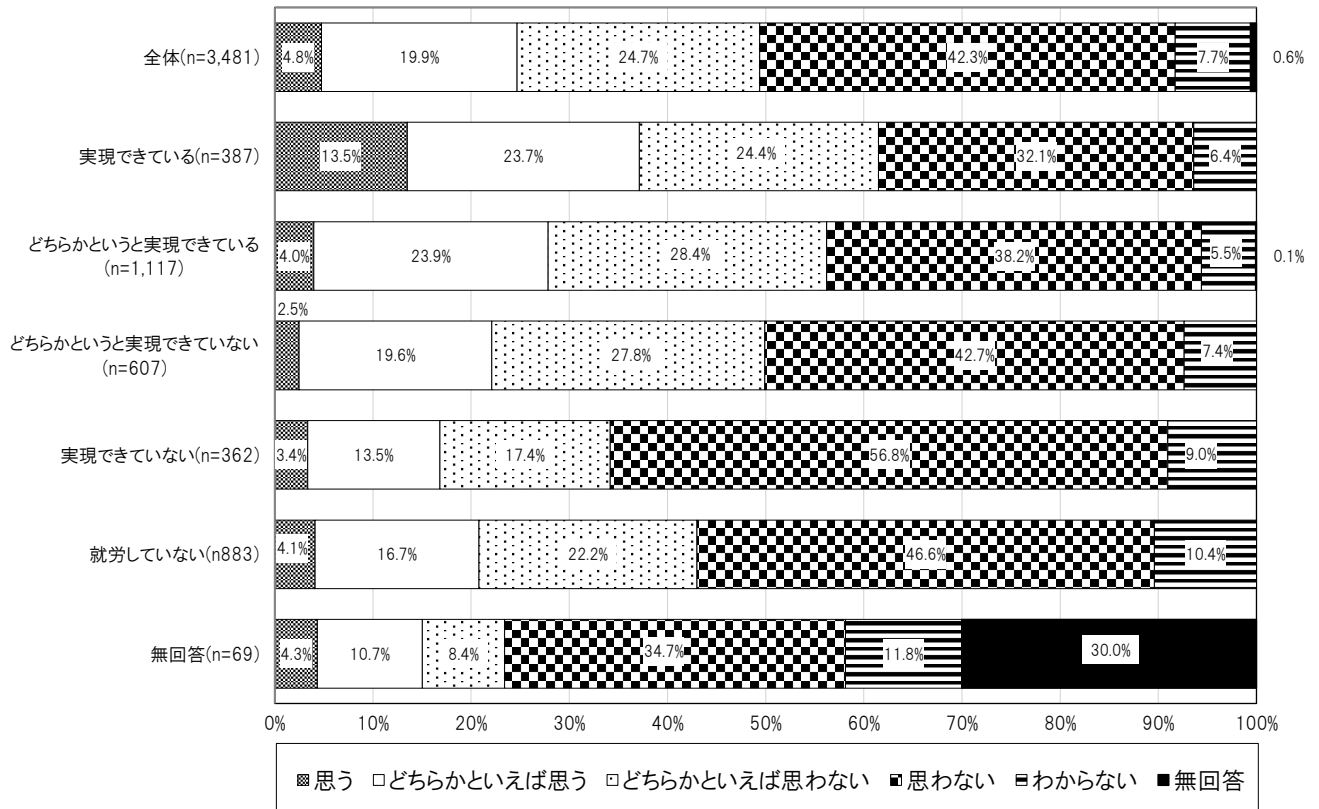


3) 設問間分析結果

① 「利用しやすい公共交通が整っているまち」×「希望する働き方の実現」

希望する働き方の実現別にみると、豊田市が利用しやすい公共交通が整っているまちだと思うと回答した市民の割合は、「実現できている」と回答した市民で37.2%と最も高くなっています。一方、「実現できていない」と回答した市民では16.9%と低くなっています。

図表3-24-4利用しやすい公共交通が整っているまち(希望する働き方の実現別)



（６）中心市街地のにぎわいや魅力の有無

問 35

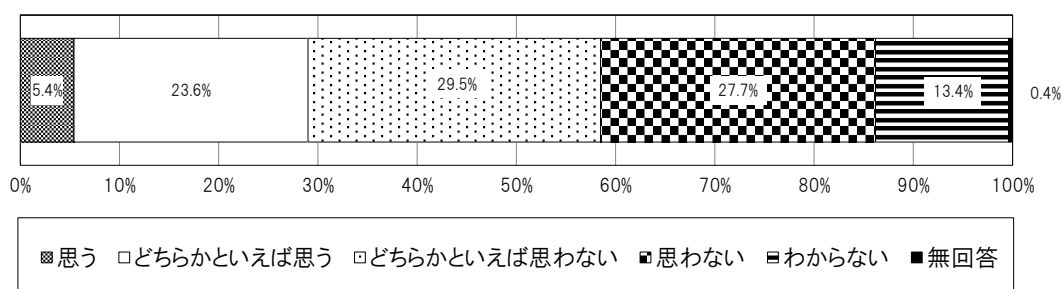
あなたは、豊田市の中心市街地（名鉄豊田市駅の周辺）のにぎわいや魅力があると思いますか。（1 つに○）

1）全体集計結果

豊田市の中心市街地（名鉄豊田市駅の周辺）のにぎわいや魅力があると思う（「思う」＋「どちらかといえば思う」）と回答した市民の割合は 29.0%で、思わない（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）と回答した市民の割合は 57.2%となっています。

図表3-25-1 中心市街地のにぎわいや魅力の有無

n=3,481

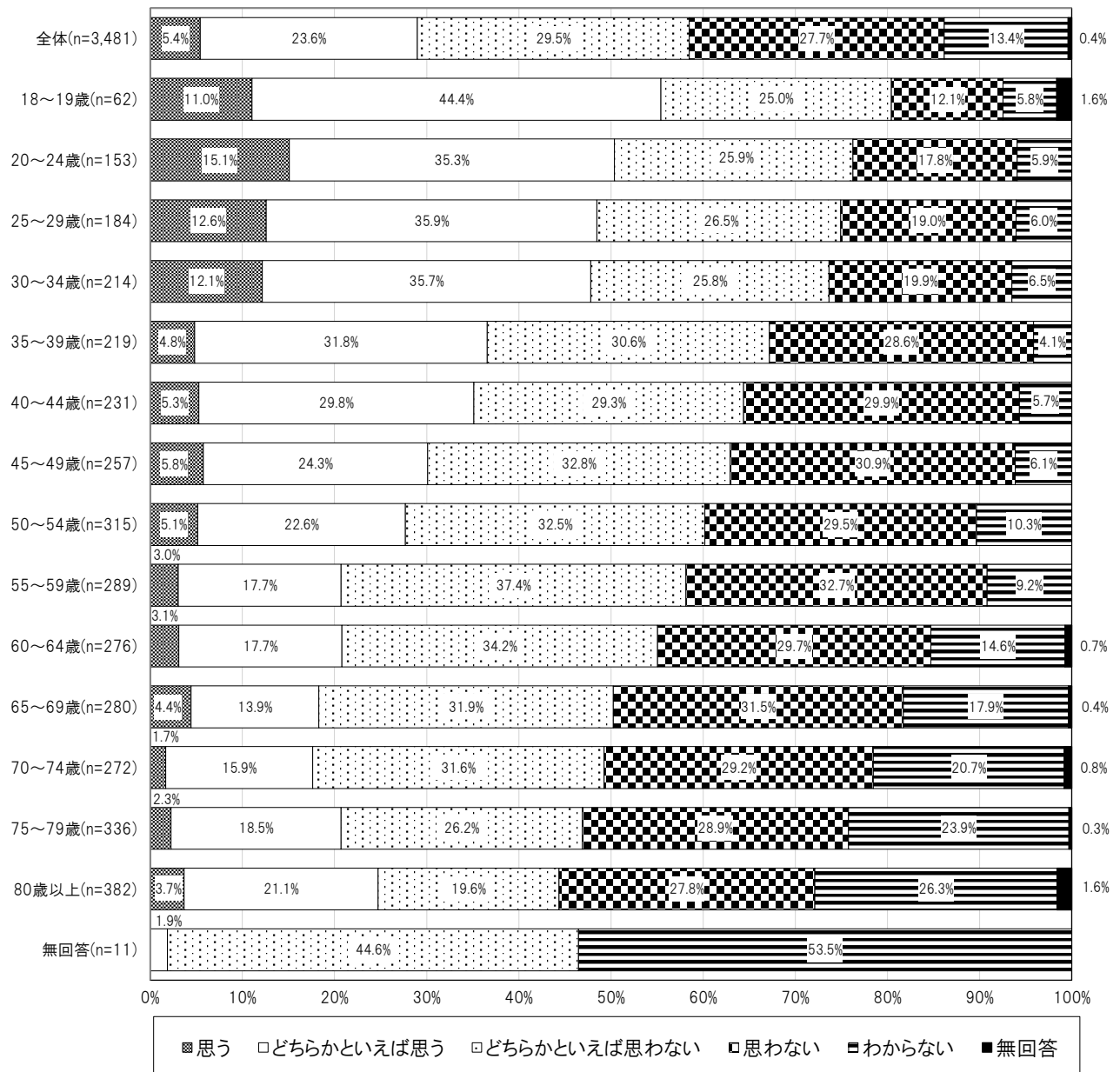


2）属性分析結果

① 「中心市街地のにぎわいや魅力の有無」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市の中心市街地のにぎわいや魅力があると思うと回答した市民の割合は、18～19 歳が 55.4%で最も高く、次いで 20～24 歳が 50.4%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、55～59 歳が 70.1%と最も高くなっています。思わないと回答した市民の割合は、年齢が上がるほど高くなる傾向があります。

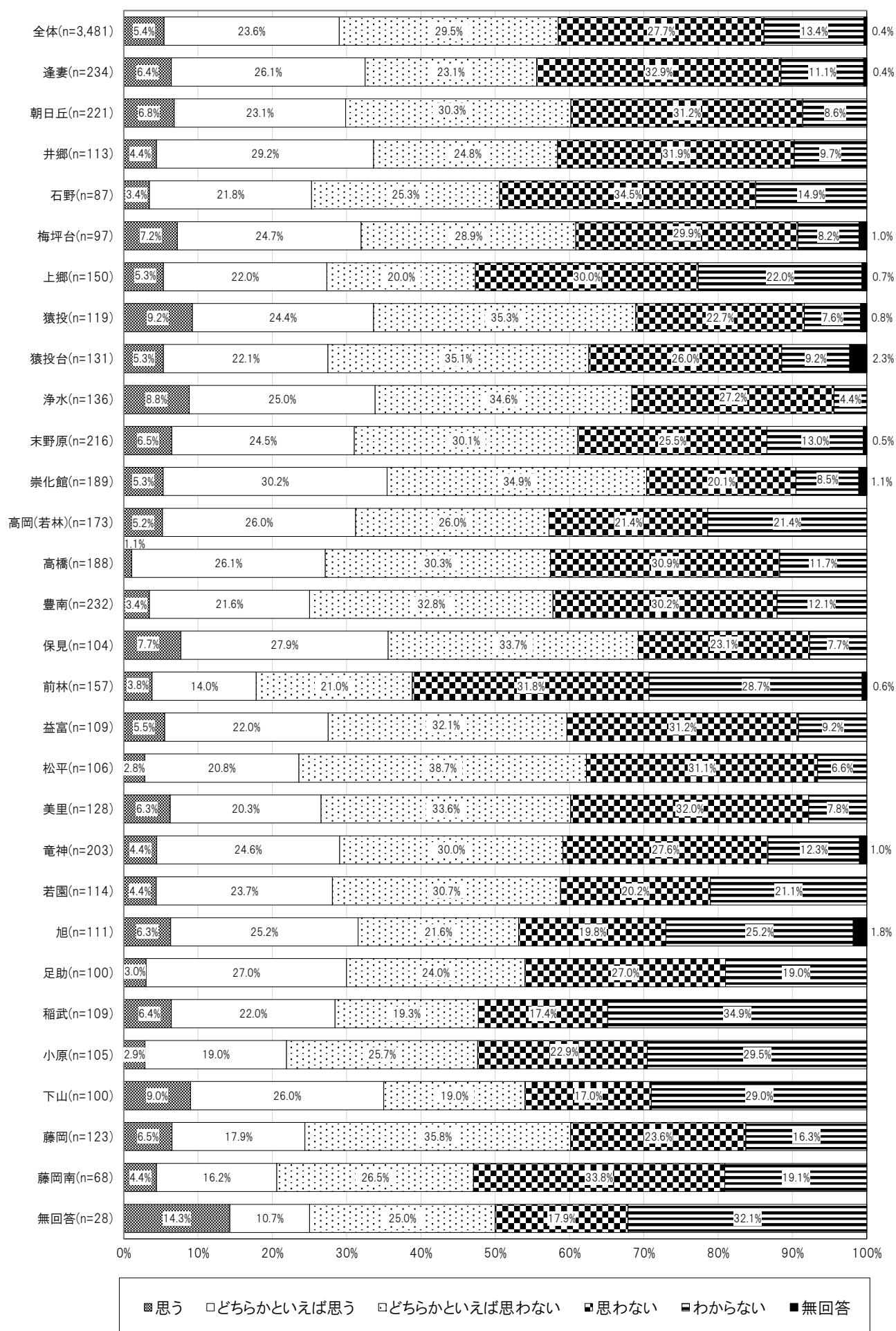
図表3-25-2 中心市街地のにぎわいや魅力の有無(年齢別)



② 「中心市街地のにぎわいや魅力の有無」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市の中心市街地のにぎわいや魅力があると思うと回答した市民の割合は、保見が 35.6%で最も高く、次いで崇化館が 35.5%、下山が 35.0%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、松平が 69.8%と最も高くなっています。

図表3-25-3 中心市街地のにぎわいや魅力の有無(居住地区別)



(7) 市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまち

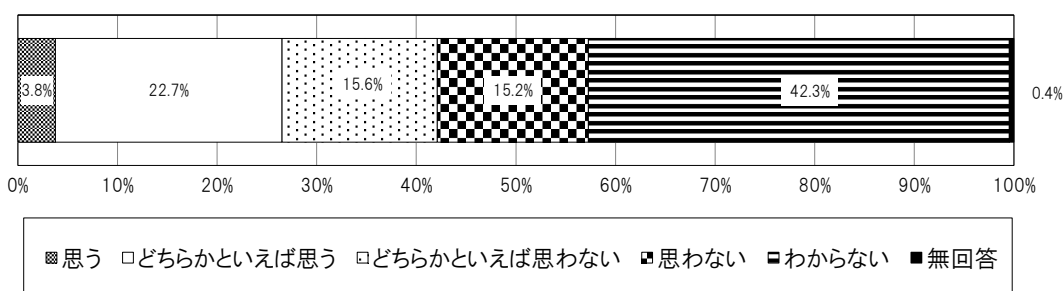
問 36

あなたは、豊田市について「市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまち」だと思いますか。(1 つに○)

1) 全体集計結果

豊田市が市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまちだと思う(「思う」+「どちらかといえば思う」)と回答した市民の割合は 26.5%で、思わない(「どちらかといえば思わない」+「思わない」)と回答した市民の割合は 30.8%、「わからない」と回答した市民の割合は 42.3%となっています。

図表3-26-1 市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまち n=3,481

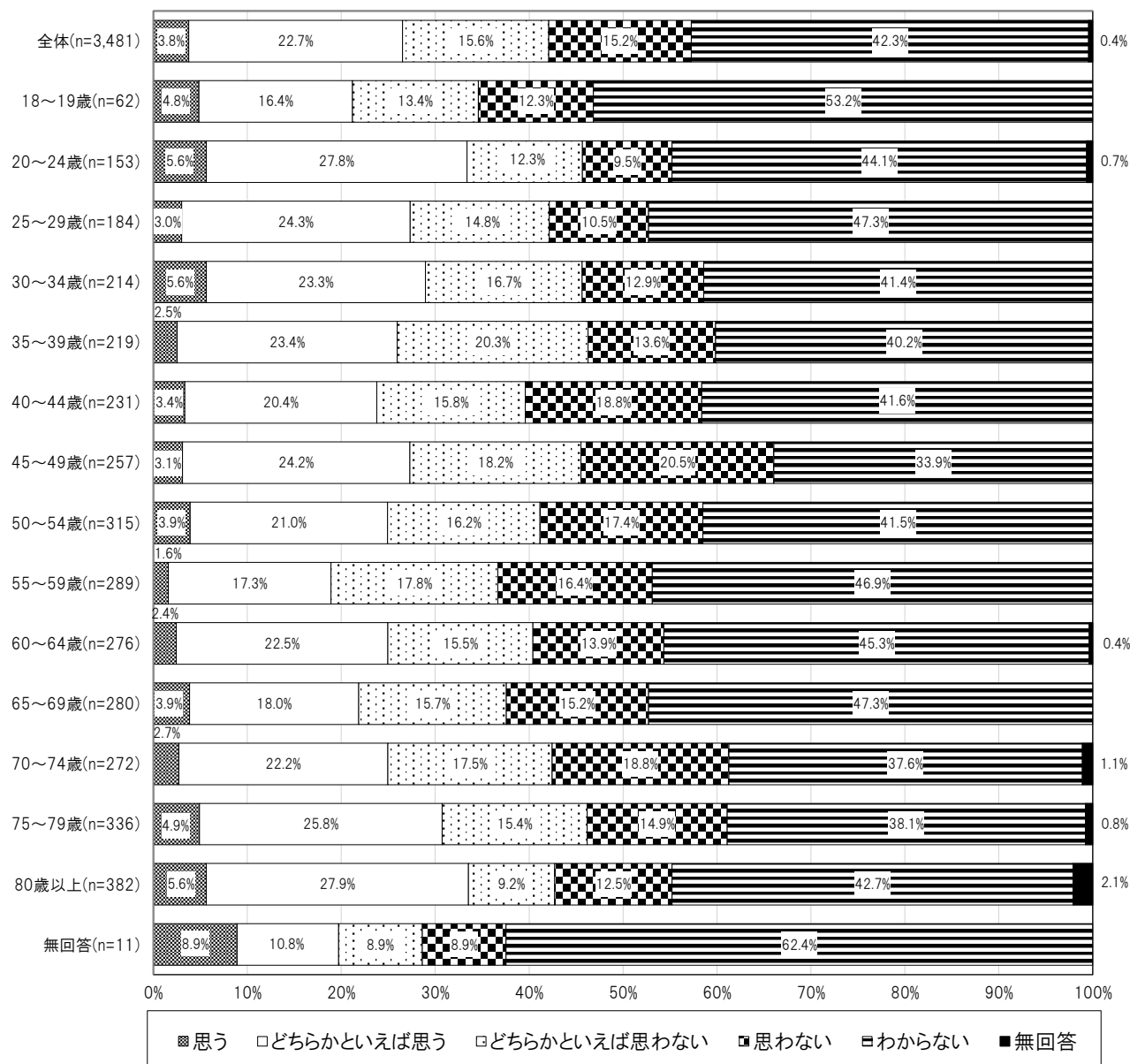


2) 属性分析結果

① 「市民と行政が役割分担しながらまちづくりを進めているまち」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市が市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまちだと思うと回答した市民の割合は、80 歳以上が 33.5%で最も高く、次いで 20～24 歳が 33.4%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、45～49 歳が 38.7%と最も高くなっています。

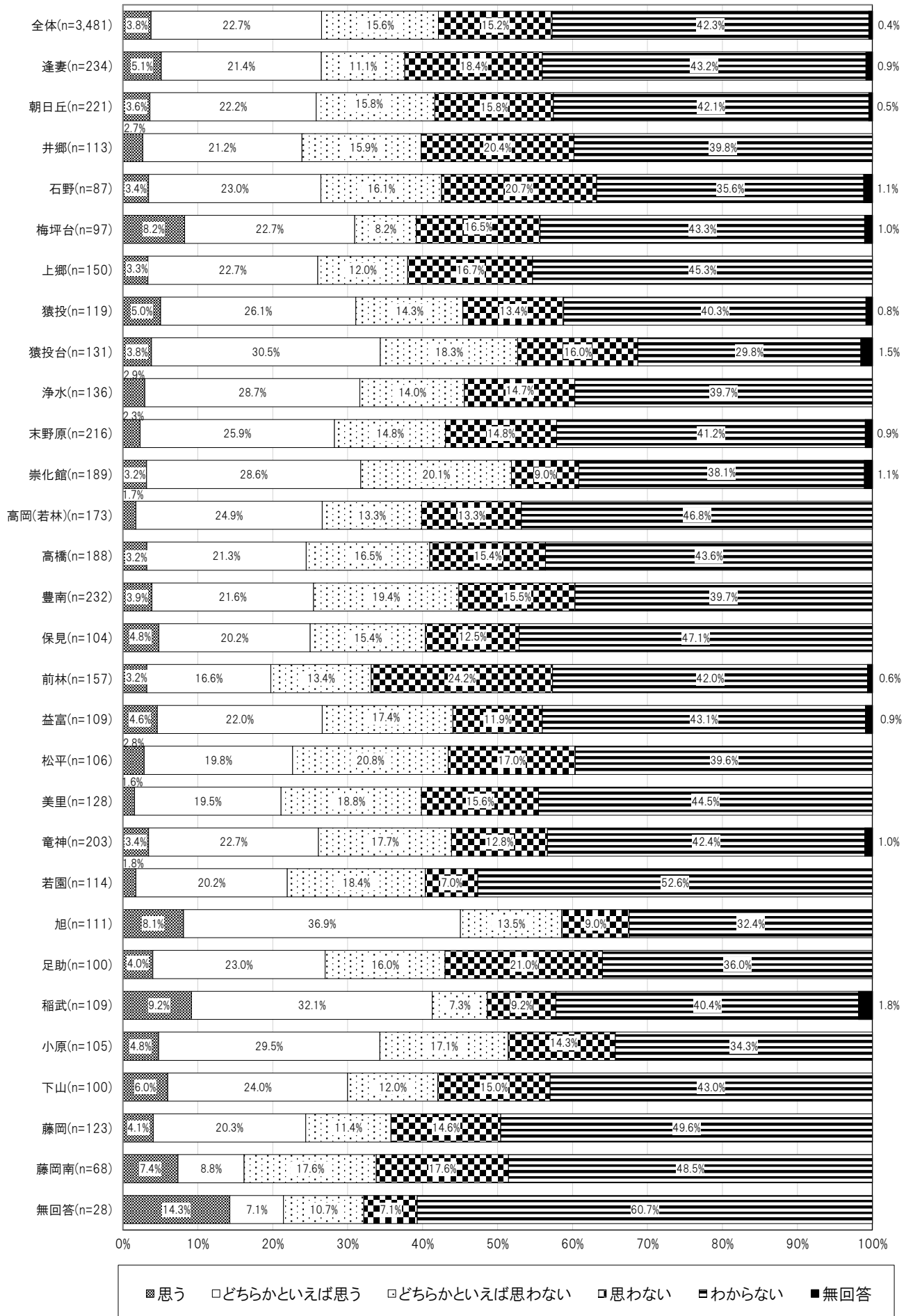
図表3-26-2 市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまち(年齢別)



② 「市民と行政が役割分担しながらまちづくりを進めているまち」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市が市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまちだと思うと回答した市民の割合は、旭が 45.0%で最も高く、次いで稲武が 41.3%、猿投台と小原が 34.3%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、松平が 37.8%と最も高くなっています。

図表3-26-3 市民と行政が役割分担をしながらまちづくりを進めているまち(居住地区別)



(8) 公共施設が適切に維持・管理されているまち

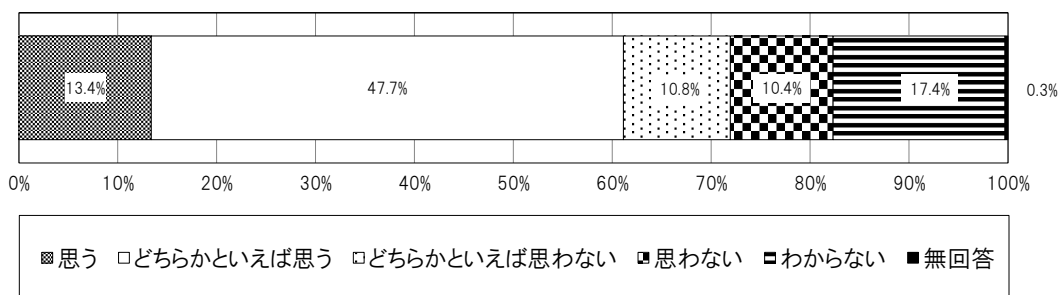
問 37

あなたは、豊田市について「公共施設（建物、道路、公園、上下水道、河川施設など）が適切に維持・管理されているまち」だと思いますか。（1 つに○）

1) 全体集計結果

豊田市が公共施設（建物、道路、公園、上下水道、河川施設など）が適切に維持・管理されているまちだと思う（「思う」＋「どちらかといえば思う」）と回答した市民の割合は 61.1% で、思わない（「どちらかといえば思わない」＋「思わない」）と回答した市民の割合は 21.2% となっています。

図表3-27-1 公共施設が適切に維持・管理されているまち n=3,481

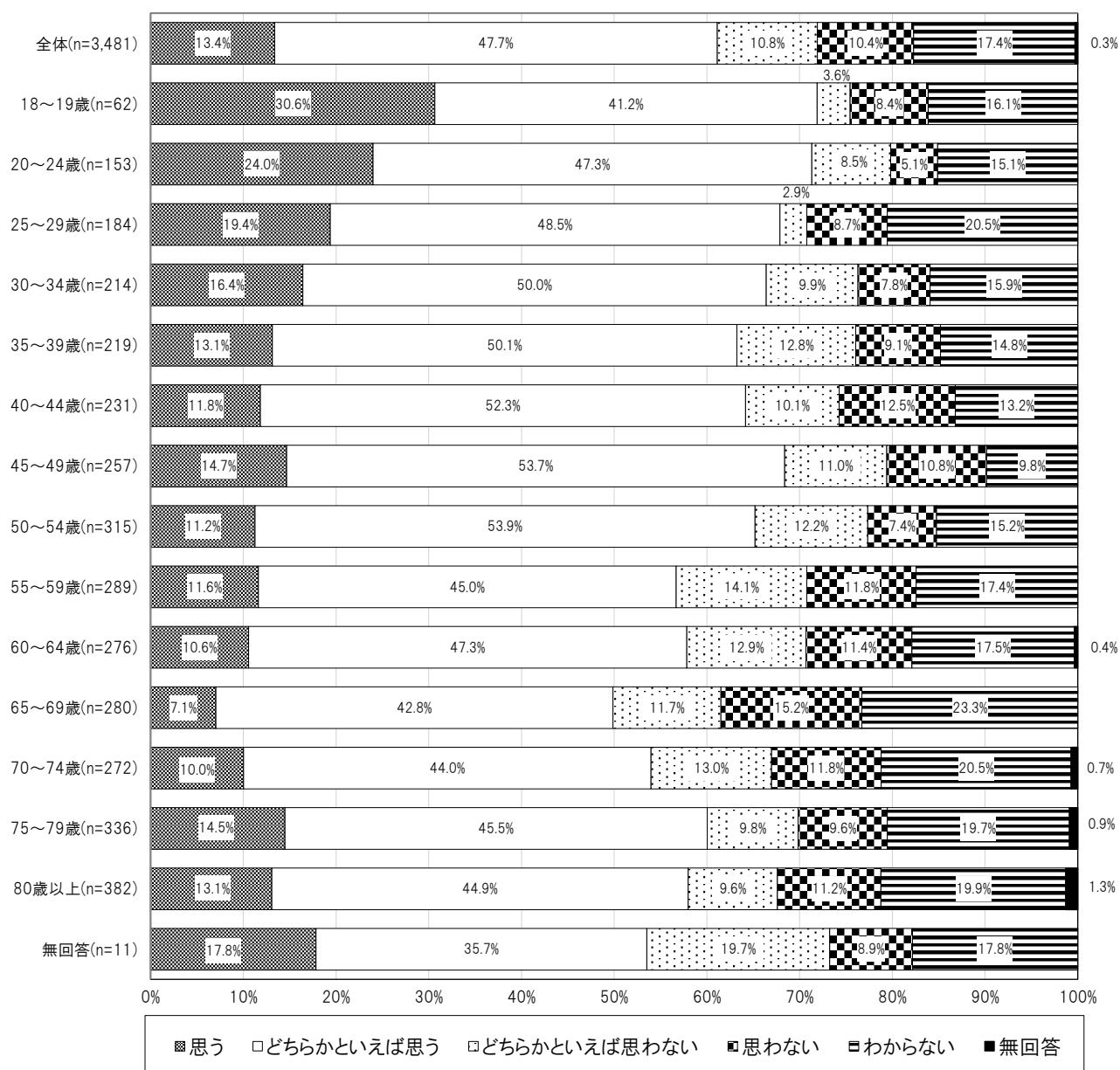


2) 属性分析結果

① 「公共施設が適切に維持・管理されているまち」×「年齢」

年齢別にみると、豊田市は公共施設が適切に維持・管理されているまちだと思うと回答した市民の割合は、18～19 歳が 71.8%で最も高く、次いで 20～24 歳が 71.3%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、65～69 歳が 26.9%と最も高くなっています。

図表3-27-2 公共施設が適切に維持・管理されているまち(年齢別)



② 「公共施設が適切に維持・管理されているまち」×「居住地区」

居住地区別にみると、豊田市は公共施設が適切に維持・管理されているまちだと思うと回答した市民の割合は、崇化館が 75.1%で最も高く、次いで浄水が 68.3%、豊南が 68.1%となっています。一方、思わないと回答した市民の割合は、石野が 34.5%と最も高くなっています。

図表3-27-3 公共施設が適切に維持・管理されているまち(居住地区別)

